

ボランティア＜SV+JV＞へのアンケート調査結果
(平成 19 年度実施)

1	調査目的	1
2	調査結果概況	1
(1)	視点Ⅰ 開発途上国・地域の経済及び社会の発展または復興へ寄与	1
ア	活動目標・計画の妥当性	1
イ	活動の有効性	2
ウ	活動のインパクト	2
エ	活動の自立発展性	2
(2)	視点Ⅱ 開発途上国・地域と我が国との間の友好親善及び相互理解の深化	3
ア	日本、及び日本人に対する理解度	3
イ	任国、及び任国の人々に対するボランティアの理解度	4
(3)	視点Ⅲ ボランティア経験の社会への還元	4
ア	ボランティア経験の社会還元	4
▷	JICA の支援体制	
(1)	視点Ⅰ 関連	4
(2)	視点Ⅱ 関連	5
(3)	視点Ⅲ 関連	5

ボランティア＜SV+JV＞アンケート調査結果

1	アンケート実施概要	7
(1)	対象者	7
(2)	実施方法	7
(3)	調査項目	7
(4)	回収率	7
(5)	アンケート回答者数の内訳	7
ア	派遣地域	7
イ	活動地域	8
ウ	職種分野	9
エ	参加形態	9
オ	任期満了時年代	10
カ	過去におけるボランティア経験の有無	10
2	調査結果	10
(1)	視点Ⅰ 開発途上国・地域の経済、及び社会の発展または復興への寄与	10
(2)	視点Ⅱ 開発途上国・地域と我が国との間の友好親善及び相互理解の深化	49
(3)	視点Ⅲ ボランティア経験の社会への還元	72

ボランティア＜SV＋JV＞へのアンケート調査結果

(平成 19 年度実施)

1 調査目的

本調査は、評価の 3 つの視点うち「開発途上国・地域の経済及び社会の発展または復興への寄与」(視点Ⅰ)、「開発途上国・地域と我が国との間の友好親善及び相互理解の深化」(視点Ⅱ)、並びに「ボランティア¹経験の社会への還元」(視点Ⅲ)について、ボランティアの活動による協力成果や日本と相手国相互の国際親善・交流がどのように達成されているか等を測るため、ボランティアに対してアンケート調査を実施したものである。

平成 19 年度においては、シニア海外ボランティア(以下、SV)353 人²、青年海外協力隊(以下、JV)1,064 人³のうち、同 20 年 1 月末日までに回答のあった、SV77 人(22%⁴)、JV542 人(51)を集計の対象として結果を取り纏めた。

2 調査結果概況

調査結果は別添のとおりだが、各視点における全体的な概況は以下のとおりである。

(1) 視点Ⅰ 開発途上国・地域の経済及び社会の発展または復興へ寄与

ア 活動目標・計画の妥当性

(ア) ボランティアが活動の初期段階で受入機関と活動の目標について合意している割合、合意率は、ボランティア全体の 79%であった。またボランティアが作成した活動計画は、81%が受入機関のニーズや期待に合致するものであったと回答している。以上 2 つの割合を見ると、概ね活動目標やその計画が現地の実情に沿った、妥当性の高いものであることを示していると言える。

(イ) 標記について、比較区分を「① 派遣地域別⁵」(以下、①の別)、「② 職種分野別⁶」(同、②の別)、「③ 活動地域別⁷」(同、③の別)、という 3 つの属性に分けた。まず合意率については、①の別では、中近東・北アフリカ地域での合意率が若干低く 68%だったが、平均 78%の合意率だった。②の別では、SV からは特に高く、どの分野から

¹ 以下、JV と SV を併せたものを指す。

² 19 年度においては、17 年度派遣者を対象にした。

³ 19 年度においては、16 年度 3 次隊～17 年度 2 次隊派遣者を対象にした。

⁴ 四捨五入した数値。尚、()内の%表記は、同一段落内では省く。以下、パーセントの表記については同じ。

⁵ アジア、大洋州、中央・南アフリカ、中近東・北アフリカ、中米・南米、東欧・中央アジア、の計 6 地域。但し、SV のみを見ると、SV は、東欧・中央アジア地域に派遣されていなかった。

⁶ SV と JV とでは、職種分野が異なる場合が多い。したがって、本調査では、別々に抽出をした。詳細は別添を参照されたい。

⁷ 首都、地方都市、農村、の計 3 地域。

の回答も合意率は80%以上、JVにおいてもやはり高い合意率を算出し、どの分野から70%以上という結果だった。③の別では、顕著な違いとは言えないものの、活動地域規模の大きさと合意率の高さとは比例する結果を、本調査では抽出した。次に合致程度について、①の別では派遣地域間のばらつきは見られず、平均83%のボランティアが、自身の作成した活動計画と受入機関ニーズや期待とは合致していたとの回答を寄せている。しかし②の別を見ると、SVはサンプルが少ないこともあり、分野間の違いは見られないものの、JVにおいては平均72%のうち、加工(57%)、土木建築(64)、保守操作(64)の3分野が平均を下回ることになった。

イ 活動の有効性

(ア) 活動目標を受入機関と合意したボランティアのうち、「60%以上」の達成度を認めるボランティアの割合は、79%(うち、「80%以上」の達成度としたボランティアの割合は、52%)に上り、ボランティア自身も活動の達成度を概ね高く評していると言える。一方、活動目標については受入機関との合意には至らなかったものの、活動の達成度を「60%以上」と自己評価しているボランティアも65%に上る。しかし、活動の初期段階において受入機関とその目標について合意した場合のほうが、活動の達成度が高いことが分かる。また、目標達成の主要因として、第一に「配属先(受入機関)が協力的だった」(57%)、第二に「配属先や関係者との人間関係が非常に良かった」(53)、第三に「活動の内容が配属先のニーズと合っていたから」(46)等、良好な人間関係、そしてそうした関係に基づく(有意義なコミュニケーションの結果の上に成り立つ)現地ニーズの的確な把握、といった事由が挙げられている。

(イ) ボランティアの派遣のタイミングについては、62%がその適切さを認めた。しかし①の別では、東欧・中央アジア地域(51%)が他地域に比べると低かった。他方、派遣期間について、68%のボランティアが「適当だった」と回答しており、25%のボランティアが「短い」と回答を寄せている。

ウ 活動のインパクト

ボランティアが評価する活動のインパクトとして、単に技術面のみならず、日本人の仕事に対する姿勢や取り組み方がスタッフへ伝わったことに対する評価が最も高く(51%)、全体の半数に及んだ。次いで、配属先(受入機関)のスタッフの技術等の向上(43)、がある。

他方、20%のボランティアがマイナス面⁷として、ボランティアへの依存、援助への依存、といった受入機関の援助慣れを指摘する回答を寄せた。

エ 活動の自立発展性

ボランティアが実施した活動や効果が今後も継続される、と回答しているボランティアは64%

⁷ ボランティアの73%は、活動による、現地に及ぼしたマイナスの影響はない、と回答している。

(395 人/619)だが、そのうち 68%(268/395)が、継続のための条件を挙げている。その条件として「1 ボランティアと同レベルのスタッフの存在」、「2 十分な予算」という 2 つの選択肢があるが、1 を現地での活動継続の第一条件として考えているようである。

(2) 視点Ⅱ 開発途上国・地域と我が国との間の友好親善及び相互理解の深化

ア 日本、及び日本人に対する理解度

(ア) 受入機関や受益者⁸による日本及び日本人への理解は、ボランティアの派遣により深まったと感じているボランティアが多い。ボランティアの赴任直後と現在(アンケートへの回答時点)とを比較すると、配属先(受入機関)では 20%強、受益者の間では 40%弱、が日本や日本人への認識を深めたと回答している。

(イ) 標記、理解が深まった理由として、SV と JV とでは、多少回答の傾向が異なる。まず SV からの回答には、ボランティア個人の特質(仕事ぶり、誰とでも分け隔てなく接する、人間性、等)への言及があった。他方、JV の回答には、現地の言葉を解する語学能力が JV 自身にあったことへの言及が見られた。なお、SV、JV ともに見られた回答としては、ボランティア自身の存在や日常の活動、生活を通しての日々の交流、それに付随して、日本人が現地の人々の生活圏内にいることによって、現地の人々による日本、日本人への興味が増したことへの言及が見られた。以下に、具体的な認識の変化の事例や、それに関わる回答を幾つか抜粋する。

【SV】

- ▶ ボランティアの仕事の成果。特に、教科書編纂のプロセスとできあがった教科書を見たので。毎日のようにコミュニケーションをしたので。この話題を提供したので。(回答ママ)
- ▶ 人の生活習慣というのは簡単に変化しないもので、理屈を言われても変えることができない。ともに働き、ともに楽しみを共有するうちに、お互いの良いところを取り入れようとするようになった。時間や規則を守ること以外は注意していないが、見て覚えたと思う。
- ▶ 配属先では日本人の勤務姿勢や仕事ぶりが尊敬の念を抱かせる一因と考えられる。アパート住人との交流のなかでは、日本人は上下わけ隔てなく話しかけてくることや、現地の人の目線で話をする姿勢や態度が、日本人に対して特に親近感を感じさせるようである。

【JV】

- ▶ 日本人が身近にすることで、日本に関してのニュース等に敏感になった。
- ▶ 現地の人々と一緒に生活したことに尽きる。
- ▶ 現地の人々が好奇心旺盛で、いろいろと興味を持って質問してくれるから。
- ▶ ボランティア自身がある程度現地の言語を話せ、コミュニケーションをとれる点が大きかったと思う。

⁸ ボランティア活動地域の住民を指す。

- ▶ 臆せず声をかけていったから。

イ 任国、及び任国の人々に対するボランティアの理解度

(ア) ボランティアが本来の活動以外で任国の人々と交流活動を行なっているケースは全体の 90%に迫り、その主たる内容として、第一に「ごく簡単だが、雑談レベルで日本のことを話している」(80%)、第二に「日本の文化を紹介した(ゲームや折り紙などの遊びも含む)」(67)、第三に「日本語を教えた」(51)、である。

(イ) 任国、及び任国の人々に対するボランティアの理解度について、99%のボランティアが任国や任国の人々に関し、何らかの理解が深まったと回答している。

(3) 視点Ⅲ ボランティア経験の社会への還元

ア ボランティア経験の社会還元

(ア) 帰国後に、その経験を何らかの形で社会に役立てたいと考えている帰国直前のボランティアは全体の 90%を上回っており、この数値はその意識の高さを示しているものと言える。但し、「(あまり)役立てたいと思わない」への回答者も13人あった。その主たる理由として「その経験をどのように役立てていいかわからない」、「自分の経験が何らかの役に立つとは思えないから」、「関心がないから」等、といった回答が選ばれている⁹。

(イ) ボランティア活動で獲得した経験を、どのような形で活かすかについては、SV と JV とでは、多少回答傾向が異なる。

	SV	JV	ボランティア(SV+JV)
経験を仕事に活かすことで役立てたい	30%	70%	65%
経験を多くの人に伝えたい	60%	69%	68%
支援を必要としている人のために活動をしたい	56%	31%	34%
外国人と日本人の交流活動を支援したい	46%	39%	40%
その他	11%	4%	5%
回答者数	70	491	561

▶ JICA の支援体制

(1) 視点Ⅰ 関連

ア 本邦において実施される技術補完研修(90%弱¹⁰)や派遣前研修(語学以外)(75)への評価は、概して高い。

イ 語学訓練への評価は、現地語学訓練(65%)への評価よりも、派遣前訓練(語学)(82)への評価が高い。現地語学訓練に関して①の別を見ると、東欧・中央アジア地

⁹ なお、これについては SV からの回答がないため、JV 回答のみである。

域からの評価¹¹が特に高い。

- ウ 現地における研修(在外技術補完研修(9%)、広域研修(11))を利用しているボランティアは少ない。利用者からの抽出結果を見ると、前者研修には 82%、後者研修には 88%が、肯定的な評価をしている。
- エ 在外事務所(77%)、青年海外協力隊事務局(76¹²)、及び技術顧問(78¹³)による活動への支援についての評価は、概ね肯定的である。但し、事務局と技術顧問制度の利用者は少ない。
- オ 前任ボランティア、または後任ボランティアが派遣されている案件では、50%が前任ボランティアとの引継ぎが¹⁴、64%が後任ボランティアとの引継ぎが¹⁵、それぞれできなかったと回答している。

(2) 視点Ⅱ 関連

- ア ボランティアと任国の人々との相互理解に関し、在外事務所に対して何らかの支援を求めるボランティアは 51%である。そのうちの 85%は、在外事務所の支援に対して、肯定的な評価をしている。
- イ 留守宅家族や所属先等の本邦関係者に情報を発信することに対し、65%のボランティアは支援の必要性を感じていない。

(3) 視点Ⅲ 関連

- ア 社会還元については、48%のボランティアは JICA が何かしらの支援を行なう必要を感じている。一方、支援の必要はないと考えるボランティアは、39%である。
- イ その求められる具体的な支援の内容としては、SV と JV とでは、多少回答の傾向が異なる。SV においては交流の場の設定、経験を伝える場の提供、任国に関わる情報のより広範な公開、などが挙げられている。他方、JV においては SV の求める支援内容に加えて、キャリアアップのための資金援助、も多く見られる。以下は、その回答例を抜粋したものである。

【SV】

- ▶ 一般国民に私たちの活動を知ってほしい。このような話をする機会があれば、ぜひ呼んでもらいたい。
- ▶ 後任ボランティアへの経験談の説明。特に、シニアではパソコンに不慣れな方が多いの

¹⁰ JV 回答のうち、利用者のみから算出した数値。

¹¹ 94%。但し、SV の派遣はなく JV 回答のみ。

¹² 利用者のみ(277 人/619)からの抽出した肯定評価の割合。

¹³ 利用者のみ(149 人/619)からの抽出した肯定評価の割合。

¹⁴ 前任ボランティアがあった(147 人/294)、という回答のみから抽出。前任なし、であれば、回答対象として除外。

¹⁵ 後任ボランティアがあった(193 人/300)、という回答のみから抽出。後任なし、であれば、回答対象として除外。

で、そのための対策が必要。

- ▶ 日本習慣のようなイベント開催における活動は JICA では業務外として扱う旨の返答をもらっているが、展示会開催など活動内容と重なる場合も多く、今後、これらの実施に向けては予算の支援も必要ではないかと考える。

【JV】

- ▶ この(ボランティア)経験を活かせる分野での仕事の斡旋や紹介。
- ▶ 任国の人で日本在住の方の紹介があると、その彼らとの交流がしやすい。

以上

ボランティアアンケート調査結果

1 アンケート実施概要

(1) 対象者

平成 19 年度中に帰国したボランティア、1,417 人¹⁶

(2) 実施方法

最終報告書提出時に実施、回収

(3) 調査項目

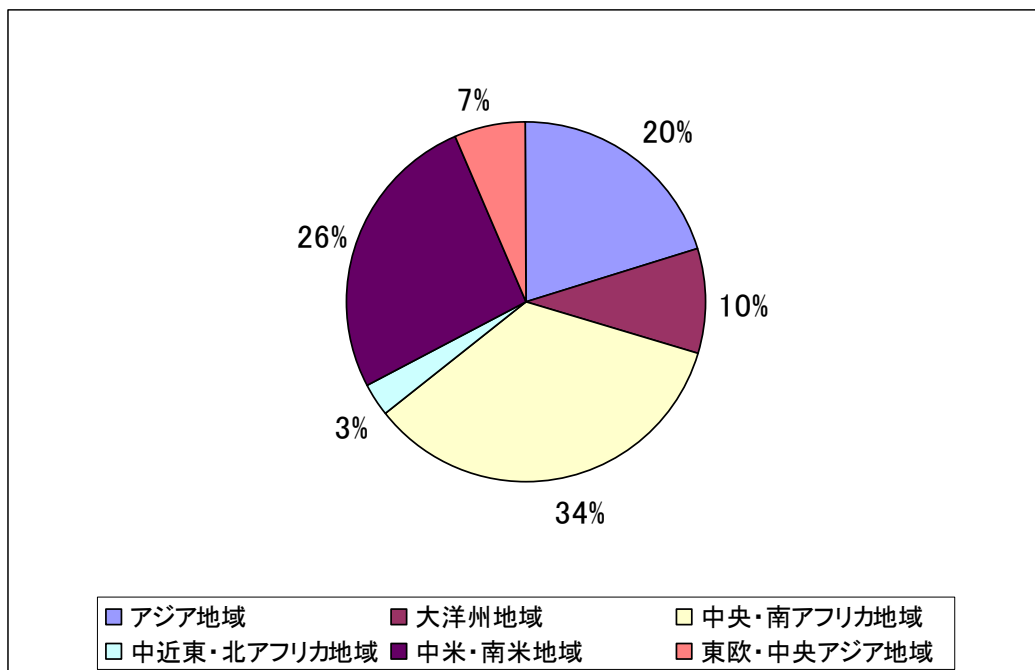
「ボランティアへのアンケート調査表【様式 3】」(別添)参照

(4) 回収率

619 人¹⁷/43.7%

(5) アンケート回答者数の内訳

ア 派遣地域

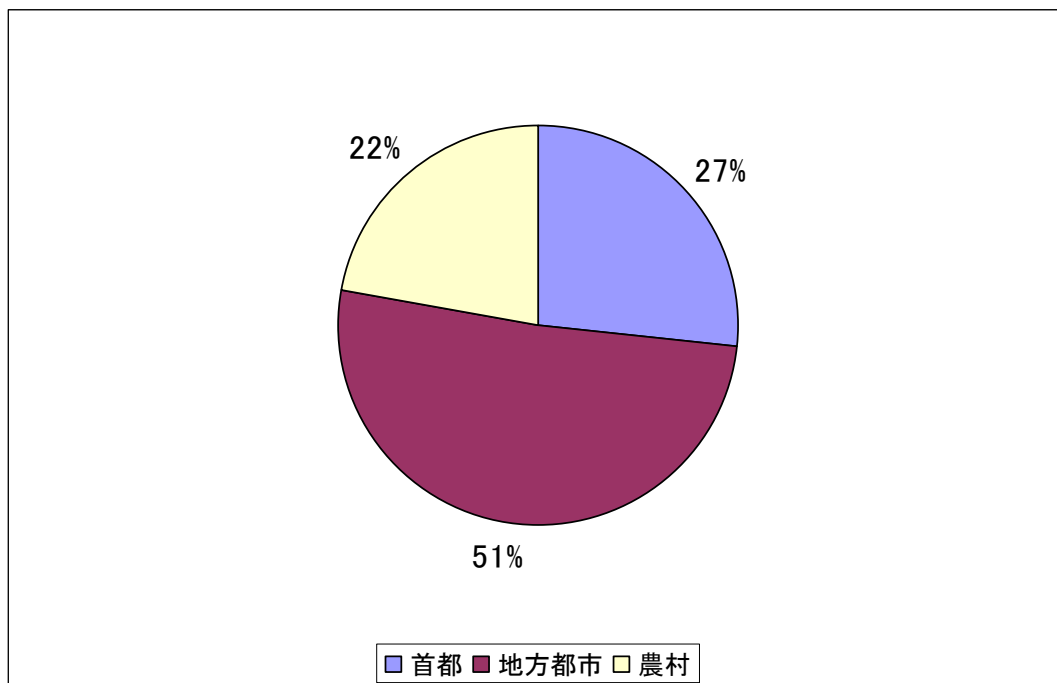


¹⁶ 内訳、16 年度 3 次隊～17 年度 2 次隊派遣の協力隊隊員(以下、JV)1,064 人、17 年度派遣のシニア海外ボランティア(以下、SV)353 人。

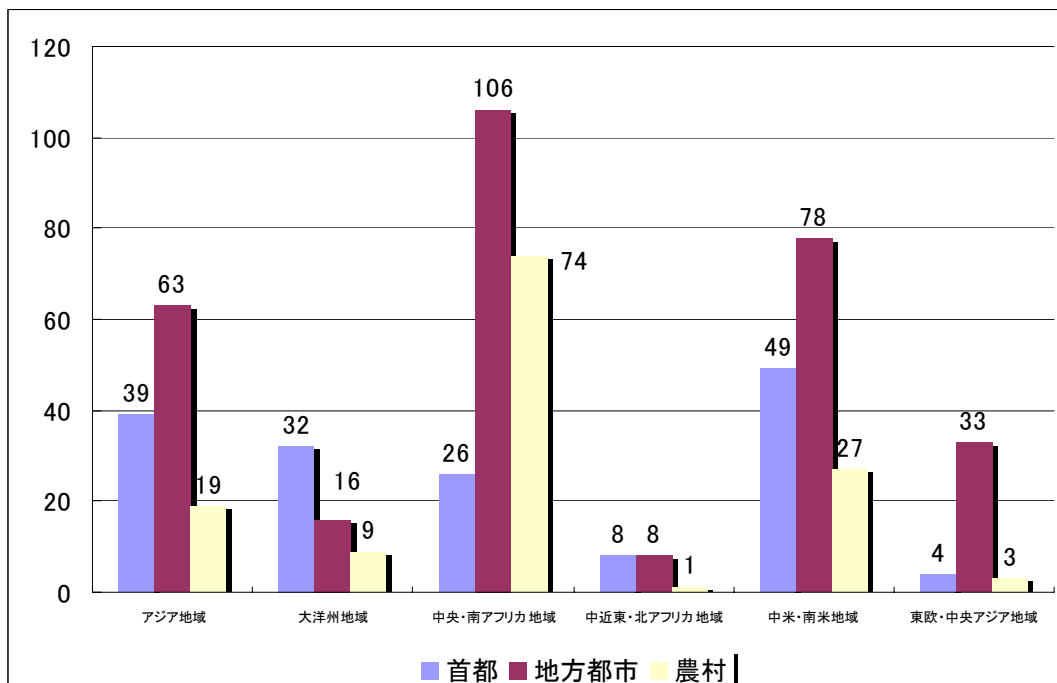
¹⁷ 内訳、JV 回収率(542 人/50.9%)、SV 回収率(77/21.8)。

- 東欧・中央アジア地域に派遣されているボランティアは JV のみである。

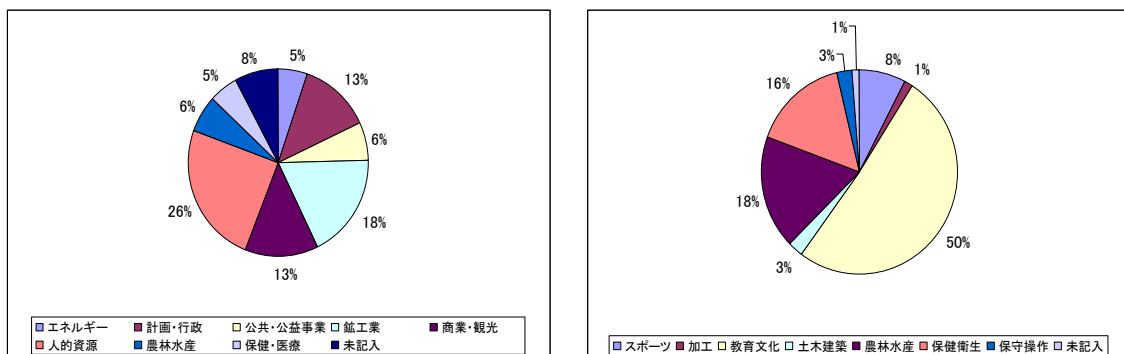
イ 活動地域



(ア) 地域別活動地域分布

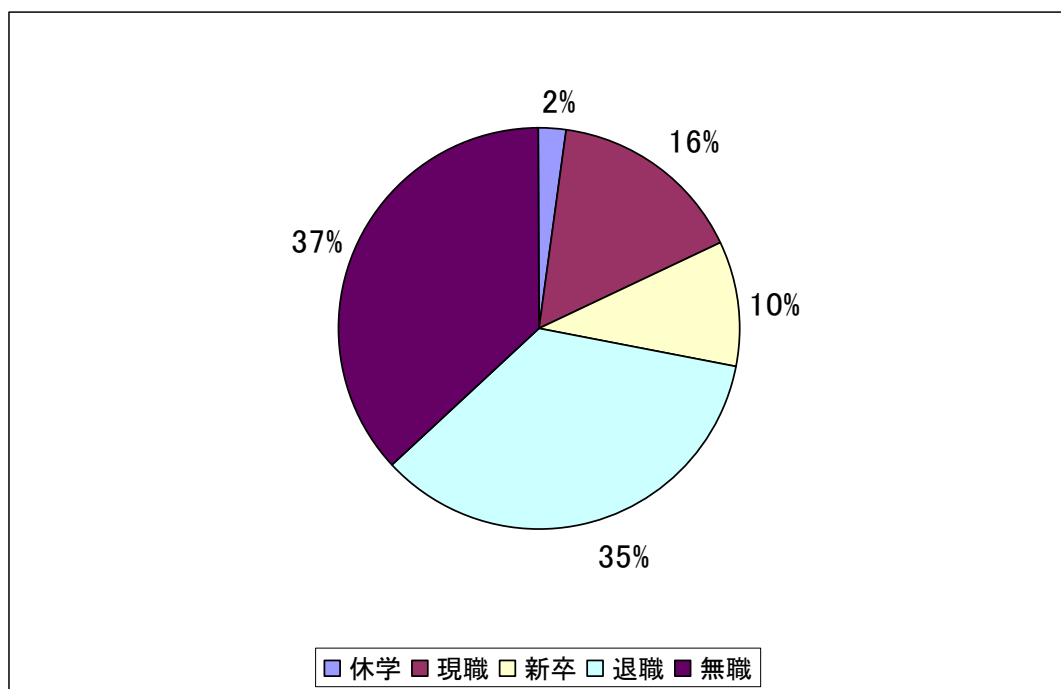


ウ 職種分野¹⁸



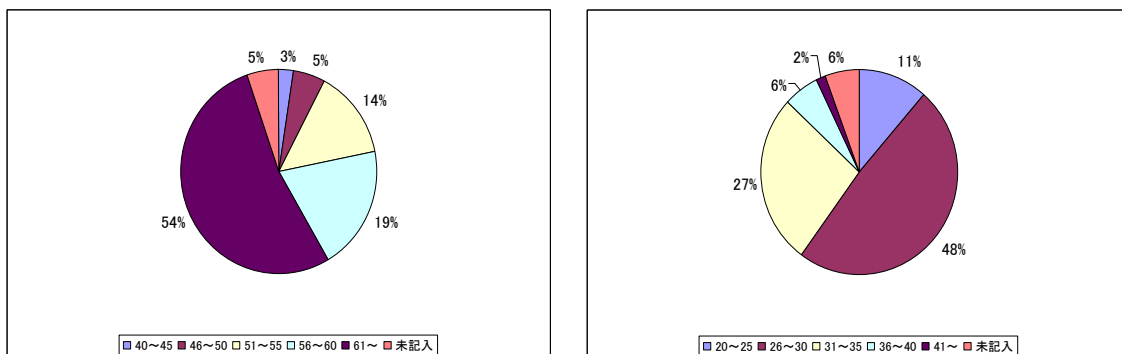
- (左)SV の職種分野別 (右)JV の職種分野別

エ 参加形態



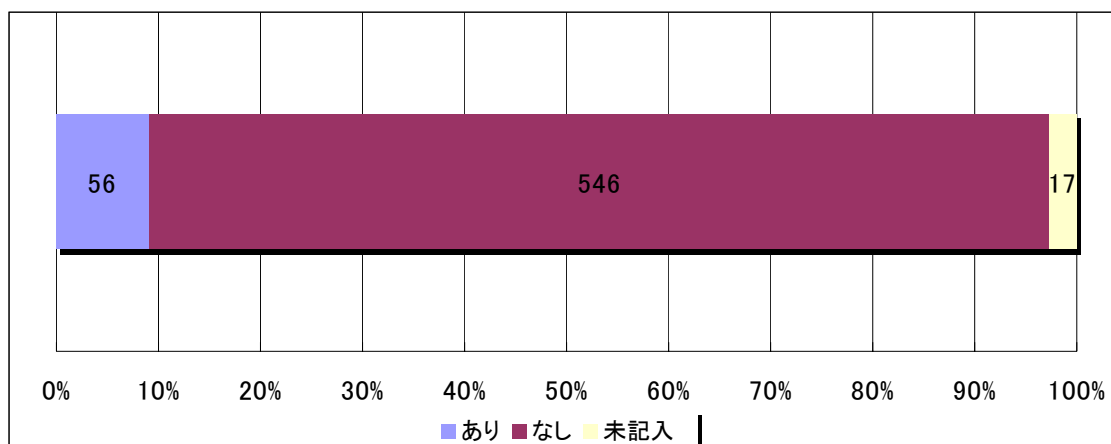
¹⁸ JVとSVとでは職種分野名(SVにおいては「指導科目名」)、またそれぞれの分野内を含む大分類カテゴリーが一律ではないので、別々に抽出した。

オ 任期満了時年代



- （左）SVの任期満了時年代別 （右）JVの任期満了時年代別

カ 過去におけるボランティア経験の有無

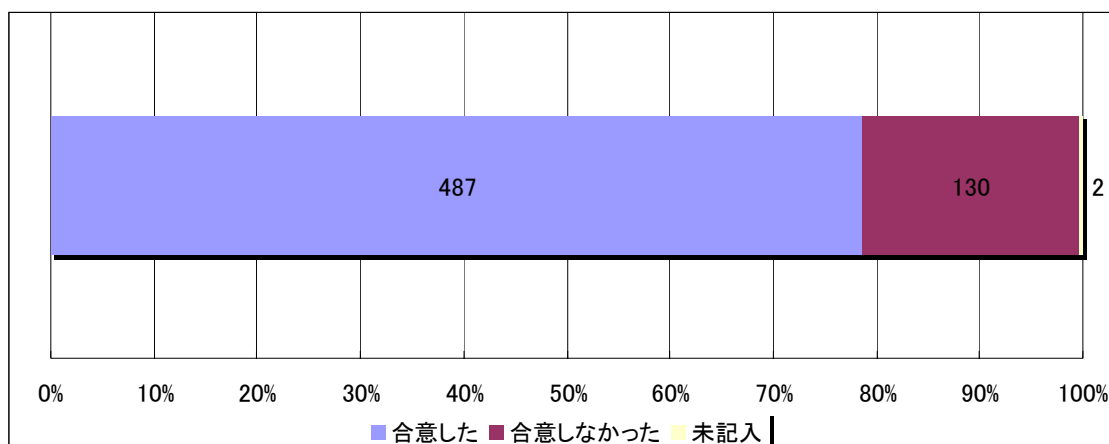


2 調査結果

(1) 視点Ⅰ 開発途上国・地域の経済、及び社会の発展または復興への寄与

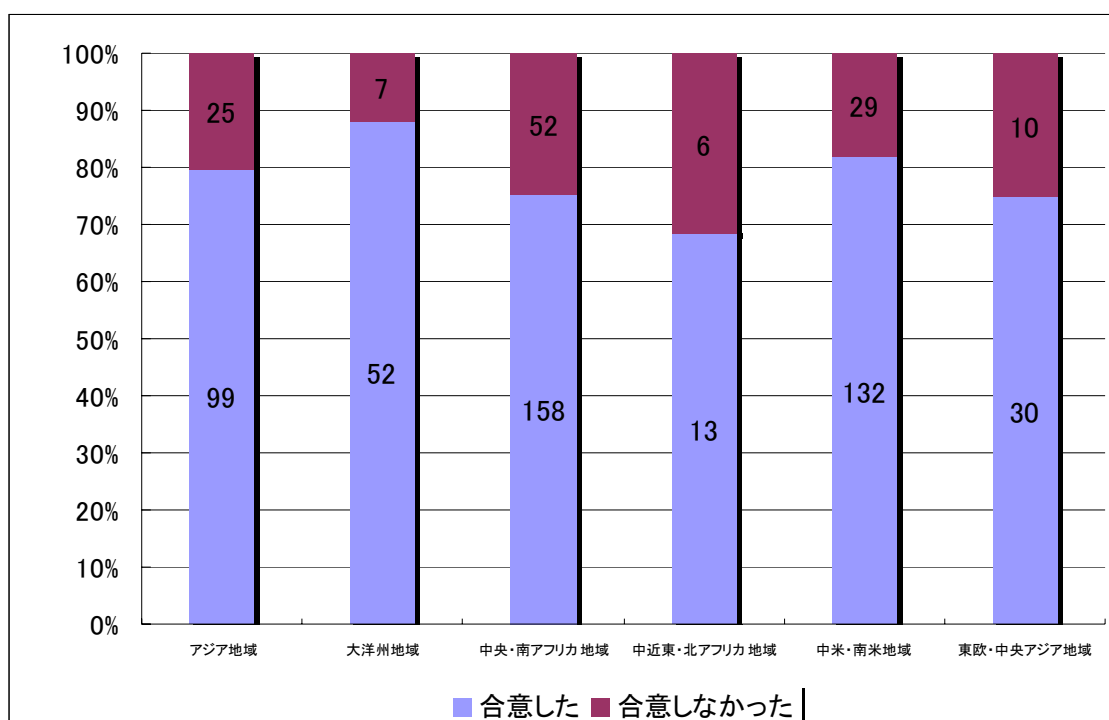
- ボランティア活動を終えた現時点での、あなたの配属先での活動に対する自己評価についてお伺いします。

Q1 活動の初期段階で、配属先とあなたの活動の目標について合意しましたか。これまでの報告書に書いていただいています。再度確認します。

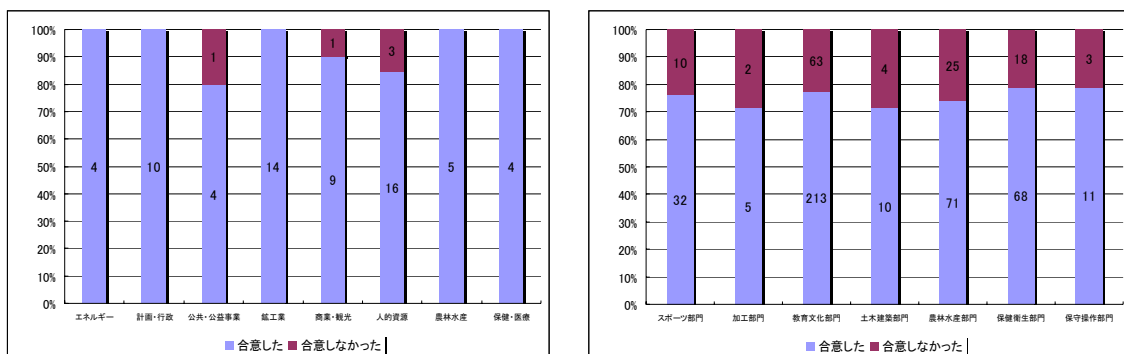


- ボランティアの 79%は、活動の初期段階において配属先との合意に至っている。

(ア) 派遣地域別抽出

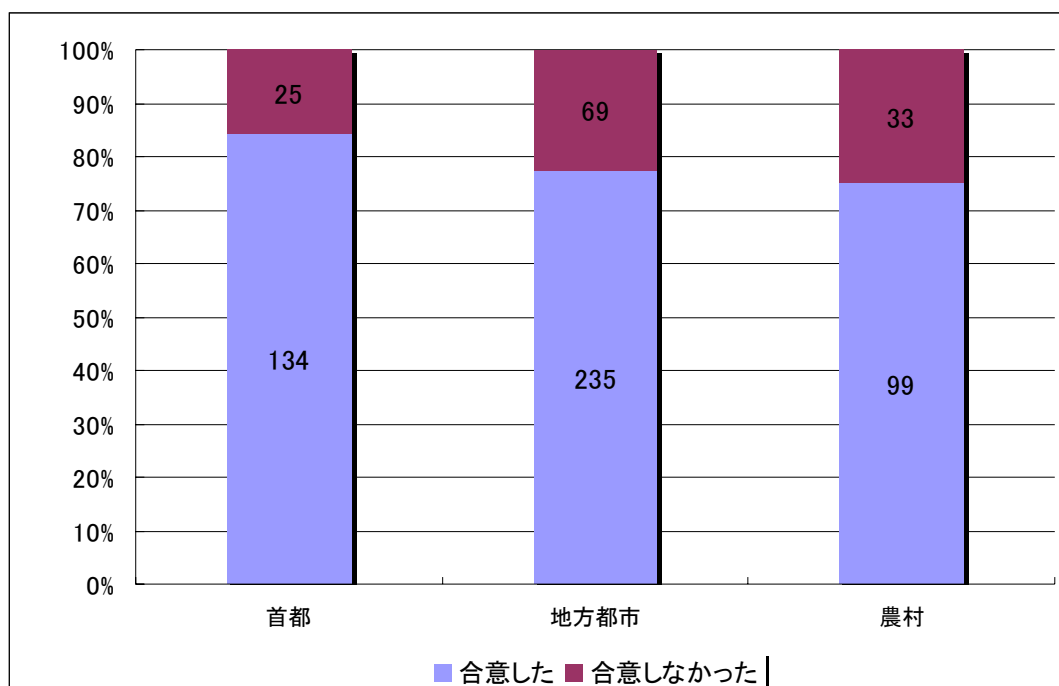


(イ) 職種分野別抽出



- (左)SV の職種分野別、合意の有無 (右)JV の職種分野別、合意の有無

(ウ) 活動地域別抽出



- 活動地域の別による、活動目標の合意率に違いは見られない。若干、活動地域の規模と合意率の高さの比例が見られる。

Q2 (Q1 で 1 と回答した方に)あなたの活動目標を再度書いてください(記述形式;回答者数 473 人(76%))。

- 実際の回答を、以下に幾つか抽出する。

【SV】

- ・1.プロトタイプ排水処理プロセスの実機化支援(ごみ埋め立て場浸出水のバイオ嫌気性処

理研究。浸出水のオゾン酸化処理研究。バクテリアによる排出中の窒素化合物の分解除去研究支援）2.研究所における分析作業の改善（環境分析における分析技術。廃水水質、固体及び底質＜鉱工業、中近東・北アフリカ地域＞

・1.コパン・レイナス市街地のお土産品の市場調査、報告 2.延長後、新製品製作の提案 3.その他、観光振興についてのアドバイス＜人的資源、中米・南米地域＞

・1.新規太陽光発電による電化設備設置。遠隔地診療所に 2.既設太陽光発電による電化設備の維持管理 3.受益者負担払い込み診療所で未設置箇所での建設促進＜エネルギー、中央・南アフリカ地域＞

・1.5S（工業分野でのスローガン）活動をベースに中小零細企業に原価改善の実践指導をする 2.広く、日本式向上管理手法の普及を、特に中小企業経営者に対して行う。そのための手段として、地方支部でのセミナー、講演会に積極的に参加する 3.裾野産業育成、特に日系自動車＜中米・南米地域、商業・観光＞

・1.企業経営者向けのセミナー開催 2.企業経営者向けのワークショップ開催 3.企業の経営改善指導＜計画・行政、中米・南米地域＞

【JV】

・農業を通じた地域の復興＜農林水産、中央・南アフリカ地域＞

・未就労青年に対する技術指導、情操教育。日本と任国の異文化交流。配属先同僚に対しての刺激剤としての活動＜教育文化、アジア地域＞

・(1) 配属先小中学校の生徒および教員への体育授業の展開と定着 (2) 任国内への体力テストの普及＜スポーツ、アジア地域＞

・(1) 生徒および、CP への木工技術の指導。製品の品質向上と安定 (2) 販路の開拓、拡大 (3) 新しい製作課題の提案＜加工、アジア地域＞

・(1) 任国に親しむ（任国の言語の学習、地域の探索、任国の言葉とふれあう）(2) 職場の地盤作り（職場の環境整備、カリキュラムの把握）(3) 任国における理科教育の理解（他校 TTC 視察、中等学校実験室視察、理数科勉強会への参加）(4) 企画（簡単な実験の実施、等）＜教育文化、アジア地域＞

・世界遺産登録の準備が進む活動サイトにおける、町の計画立案、それに基づいた任国政府に対する資金援助要請。また町の維持補修におけるアドバイス及び施工を伴う実施＜土木建築、大洋州＞

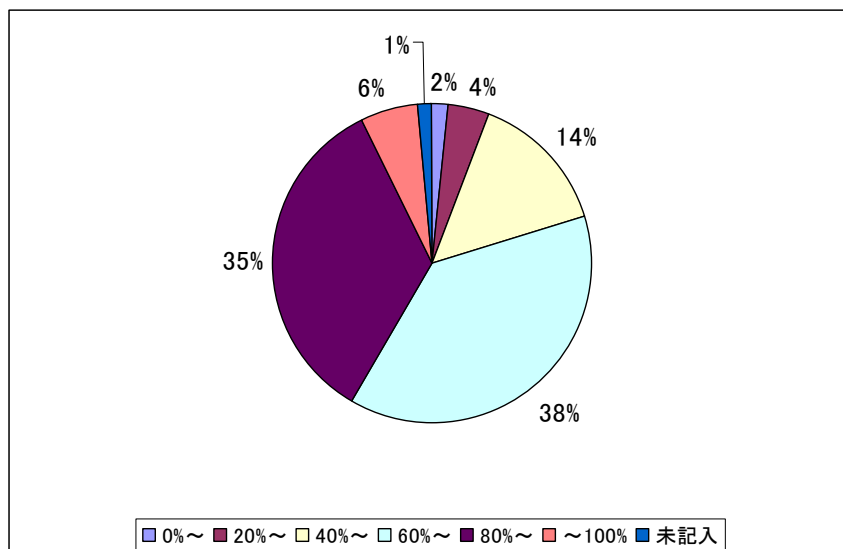
・使用されていない機械装置、機械器具のメンテナンスと不足、必要部品等の選択＜保守操作、中央・南アフリカ地域＞

・(1) 官民参加型媒介虫監視体制の確立を目指したシャーガス病対策活動の促進 (2) シャーガス病対策啓発用簡易アニメーションの作成＜保健衛生、中米・南米地域＞

活動の有効性・達成度

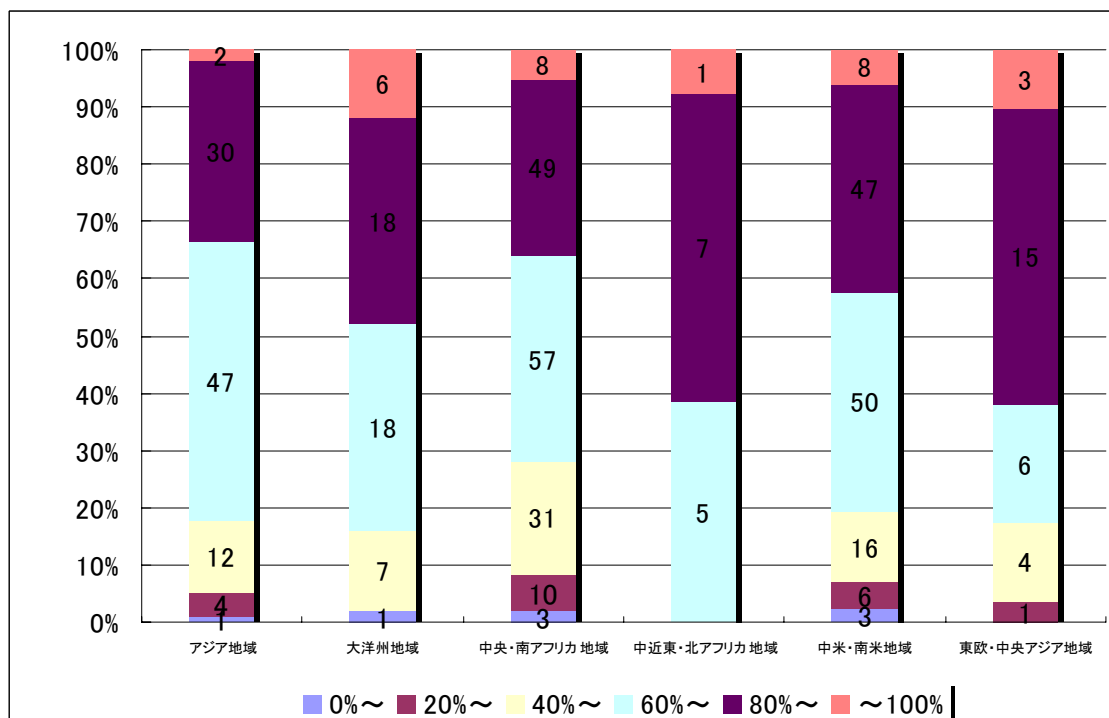
Q3 (Q1 で 1 と回答した方に)どの程度上記の目標は達成されたか、当てはまる箇所に○をつけてください。

0%～	8	2%
20%～	21	4%
40%～	70	14%
60%～	184	38%
80%～	168	35%
～100%	28	6%
未記入	7	1%
計	486	100%



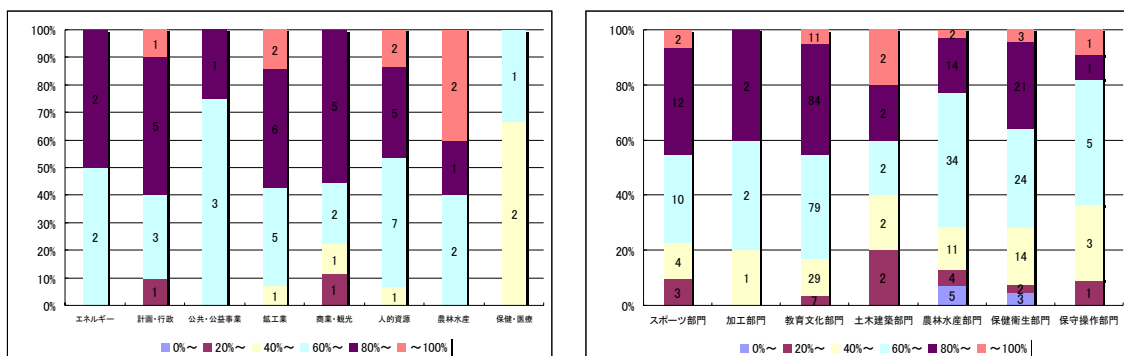
- 初期段階で活動目標の合意に至ったボランティアのうち、80%弱が「60%以上」の達成度と自己評価をしている。同時に達成度を「80%以上」としたボランティアは、そのうちの 52%(196 人/380)という結果を抽出した。

(ア) 派遣地域別抽出



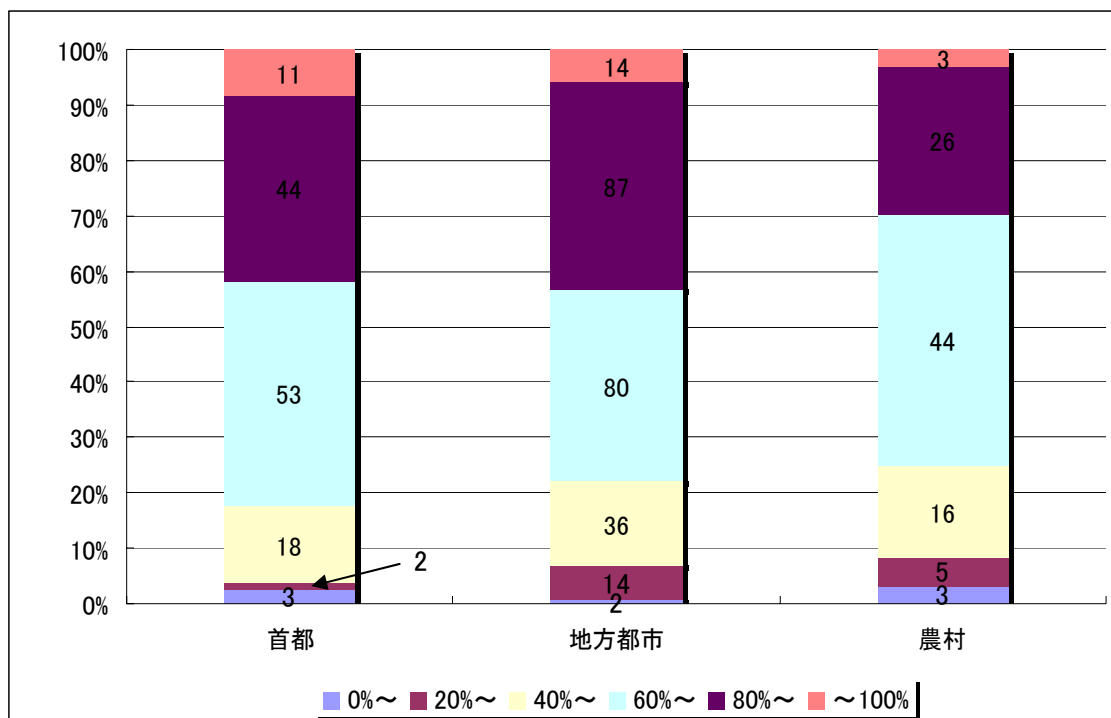
- 合意に至ったボランティアの 84%は、自身の達成度を「60%以上」と評価している。中央・南アフリカ地域派遣のボランティアからの回答が 72%と若干、他地域に比べると低くなっている。

(イ) 職種分野別抽出



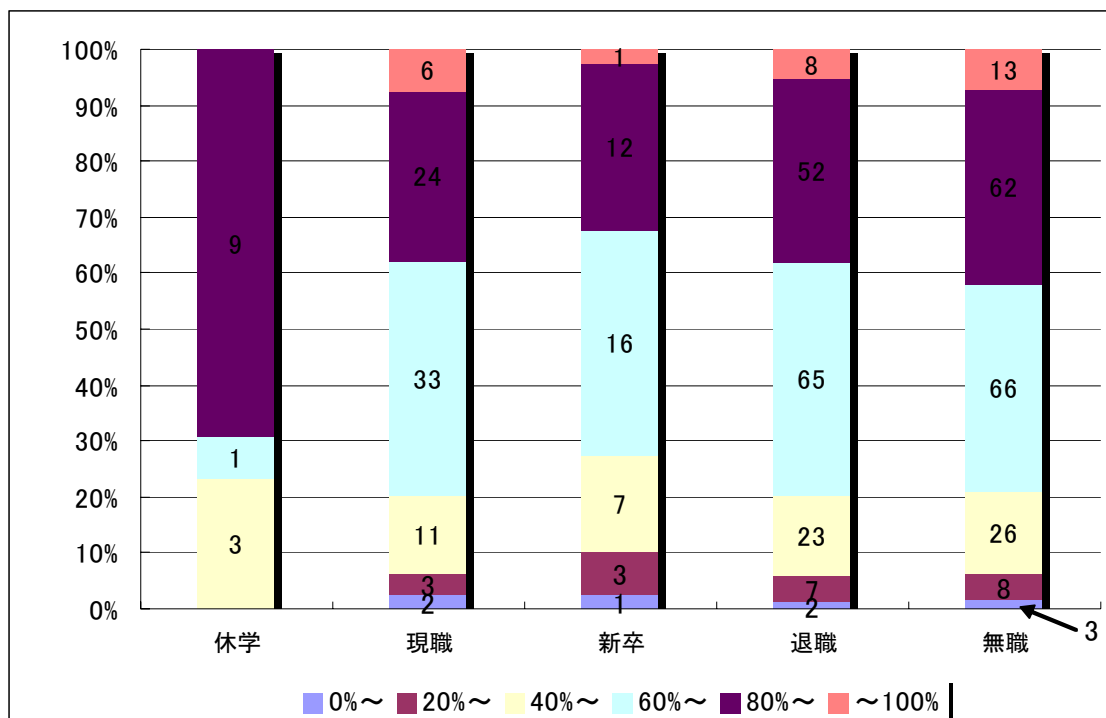
- (左)SV の職種分野別、合意者の達成度 (右)JV の職種分野別、同達成度
- JV 職種分野別の平均合意率(72%)に比べると、SV のそれ(86)は高い。JV を職種分野別に見ると土木建築分野(60%)、保守操作(64)の合意率が他分野に比べると若干低く見えるものの顕著な違いではない。他方、SV を同様に見ると、保健医療(33)の達成度が際立って低い。

(ウ) 活動地域別抽出



- Q1、(ウ)節で触れた合意率の結果と同じように、若干、活動地域の規模と合意率の高さの比例が見られる。

(エ) 参加形態別抽出



- 参加形態の違いが活動目標の達成度に影響を及ぼすことはないようである。

Q4 (Q1 で 2 と回答した方¹⁹に)その理由は何ですか(複数回答可)。

1 活動内容が配属先の期待・ニーズと違ったので、合意できなかった	28	22%
2 配属先が合意する意思を見せなかった	17	13%
3 目標を立てにくい内容だったので、あえて目標を立てなかった	48	37%
4 配属先が協力的ではなかった	33	25%
5 その他	54	42%

- 「5 その他」に寄せられた記述回答は以下のとおり。

【SV】

- ・配属先がボランティア活動に関心が低かった<人的資源、中米・南米地域>
- ・こちらからの目標提示全てに対して“Very good, go ahead.”の返答があるのみで、こちらの活動しやすいようにさせてくれた。また必要に応じて、アドバイスもしていただけ<商業・観光、大洋州地域>

【JV】

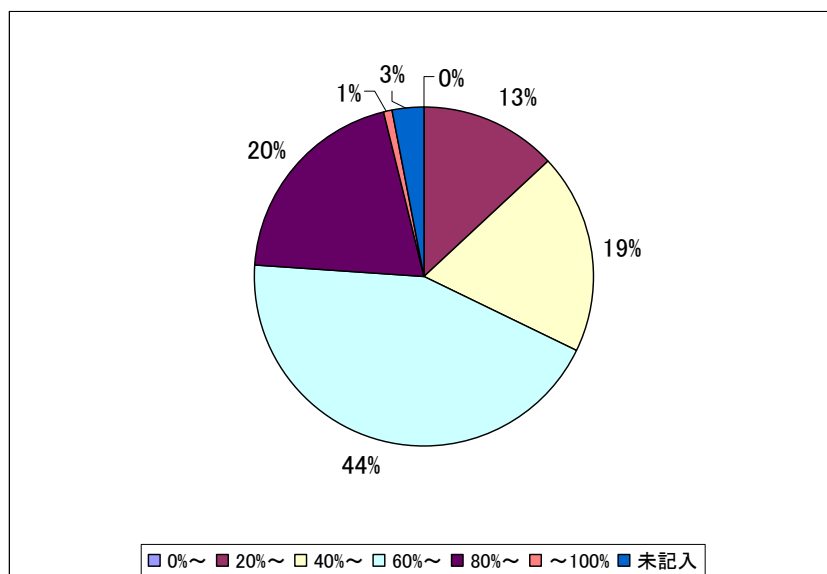
- ・農業隊員のため(にとって)、初期段階で目標を立てるのが困難であった<農林水産、中米・南米地域>

¹⁹ Q1 で 2 と回答した 130 人(21%/619)を対象とした。

- ・語学力不足と日常業務の多忙、カウンターパートの度重なる交代など＜教育文化、中米・南米地域＞
- ・特に聞かれなかった＜教育文化、アジア地域＞
- ・当初 JOCV 要請を出した配属先の長が異動しており、現在の長が業務対象である学校保健にほとんど無関心。要望しても話し合いを持つこと自体に数ヶ月かかり、合意に達してない…ということではなく、反応が返ってこなかった＜保健衛生、中央・南アフリカ地域＞
- ・配属先からは担当する授業の科目とコマ数を言われただけであり、活動目標を話し合ったことはなかった＜教育文化、中央・南アフリカ地域＞
- ・CP が休職をしていて、話し合いが進まなかった＜農林水産、アジア地域＞
- ・配属先では活動はほとんどせず、自分個人の活動が主となったため＜保健衛生、中央・南アフリカ地域＞
- ・配属先が JOCV を必要としているとは思えなかった＜保健衛生、中央・南アフリカ地域＞

Q5（Q1 で 2 と回答した方に）自身の活動を振り返ってみて、どの程度活動がうまくいったのか、当てはまる箇所に○をつけてください(6 段階で)。

0%～		
20%～	17	13%
40%～	25	19%
60%～	57	44%
80%～	26	20%
～100%	1	1%
未記入	4	3%
計	130	100%



- ・ 初期段階で配属先との活動目標の合意に至らなかったボランティアのうち、活動目標の達成度を「60%以上」と回答した率は 65%。活動目標の合意に至ったボランティアによる自己評価に比較すると、10%強の違いが見られる。

Q6 (Q3、もしくはQ5で達成状況が60～100%の方²⁰に)達成状況が60%以上になった理由は何ですか(複数回答可)。

	合意	未合意	
1 配属先が協力的だった	238	29	57%
2 同僚(カウンターパート)が意欲的だった	173	29	43%
3 ボランティアが指導力・積極性を発揮できたから	130	18	31%
4 ボランティアが十分な技術を持っていたから	90	13	22%
5 活動の内容が配属先のニーズと合っていたから	207	12	46%
6 活動の内容が配属先のニーズと合っていなかったが、配属先と調整してニーズの合う活動ができたから	51	30	17%
7 配属先との意思疎通やコミュニケーションがうまくできた	177	27	43%
8 現地の文化・習慣に馴染むことができたから	166	48	45%
9 配属先や関係者との人間関係が非常に良かったから	209	43	53%
10 その他	67	22	19%

- ・ 達成状況が「60%以上」になった理由として、第一に挙げられる要因は、「配属先が協力的だった」が挙げられる。第二に、「配属先や関係者との人間関係」、第三には「活動内容の配属先ニーズとの一致」が挙げられる。
- ・ 「10 その他」に寄せられた記述回答は以下のとおり。

【SV】

- ・単なる翻訳作業であったことと、この作業にあたって、先輩 SV、フランス語家庭教師、留学大学院生等の協力があつたため<計画・行政、中近東・アフリカ地域>
- ・活動当初は配属先、カウンターパートともにまったく協力的ではなかった。また、現地事務所の支援もほとんどなかった。気持ちを切り替え、異業種の人々との交流から得たアイデアを配属先に紹介し、少しずつ信用を得ることができた<人的資源、中央・南アフリカ地域>
- ・チーム派遣のおかげで、各人の専門性で不足分を補完しながら、チーム活動ができた<商業・観光、中米・南米地域>

【JV】

- ・配属先以外で自分の活動に関心をもち、協力をしてくれる組織を見つけることができたので<教育文化、中米・南米地域>
- ・配属先がボランティア慣れしていたから。今回で四代目だった<農林水産、中米・南米地域>
- ・信頼できるパートナーに出会えたから<教育文化、中央・南アフリカ地域>
- ・意欲的ではなかった配属先、同僚が少しずつ変わってきて、いろんなことを考えるようになったし、考え方も少しは変わってきた<教育文化、東欧・中央アジア地域>
- ・中古パソコンやネットワーク機器など活動に必要な物品の確保<教育文化、中央・南アフリカ地域>
- ・配属先の上層部と現場で活躍されている方々に温度差があつたが、隊員が必要と感じる活動内容を現場の方々が理解し、支援していただくことができたため<スポーツ、中米・南米地域>

²⁰ Q3で「60%以上」としたボランティア計382人、Q5で「60%以上」としたボランティア計90人を対象とした。

域＞

・配属先のニーズに合う活動ができるまでに、約 1 年を費やしたから＜土木建築、中央・南アフリカ地域＞

・村の環境（インフラ）が整っていた（井戸の有無など）＜農林水産、中央・南アフリカ地域＞

・運に恵まれ、配属先以外の協力的な人との出会いが多かったこと＜保健衛生、アジア地域＞

・十分ではないが、ボランティアにある程度、日本で健康教育等の経験があったこと、健康教育に関しては必ずしも参加者は多くなかったが、根気よく継続していったこと＜保健衛生、中米・南米地域＞

Q7（Q3、もしくは Q5 で達成状況が 60%未満の方²¹に）その理由は何ですか（複数回答可）。

	合意	未合意	
1 配属先が非協力的だった	1	28	20%
2 同僚（カウンターパート）が意欲的でなかった	1	45	31%
3 ボランティア側の積極性が足りなかった	2	60	42%
4 技術力が不足した		36	24%
5 活動内容が配属先のニーズと合っていなかった	1	26	18%
6 配属先がボランティアと専門家との違いを分かっていなかったから	1	10	7%
7 配属先との意思疎通やコミュニケーションがうまくできなかったから	2	53	37%
8 現地の文化・習慣に馴染むことができなかったから		11	7%
9 配属先や関係者との人間関係がよくなかったから		14	10%
10 体調を崩してしまっやから		10	7%
11 技術移転の対象者がいなかったから	2	28	20%
12 活動に不可欠なものがなかったから	2	19	14%
13 派遣期間中に配属先や活動地域が変更になったから		9	6%
14 その他	2	62	44%

- ・ 達成状況が「60%未満」という結果になった理由として、第一に「ボランティアの積極性の不足」が挙げられている。第二に「意思疎通やコミュニケーションの不備」、そして第三に「同僚の意欲のなさ」が挙げられている。
- ・ 「14 その他」に挙げられている記述回答は以下の通り。

【SV】

・配属先と傘下企業に改革意識が希薄、配属先は自らが現場で指導する立場ではない。配属先に CP、実業界経験者の不在、時間の空いたときにボランティアの相手をすればいいという配属先意識、配属先の業務に対する意識が我々とはまったく異なっていたため＜商業・観光、中米・南米地域＞

・私には時間はあったが、CP の勤務時間が短い＜保健・医療、中米・南米地域＞

【JV】

・養鶏を中心に活動を進めたら鳥インフルエンザに翻弄された。また、配属先は森林局なの

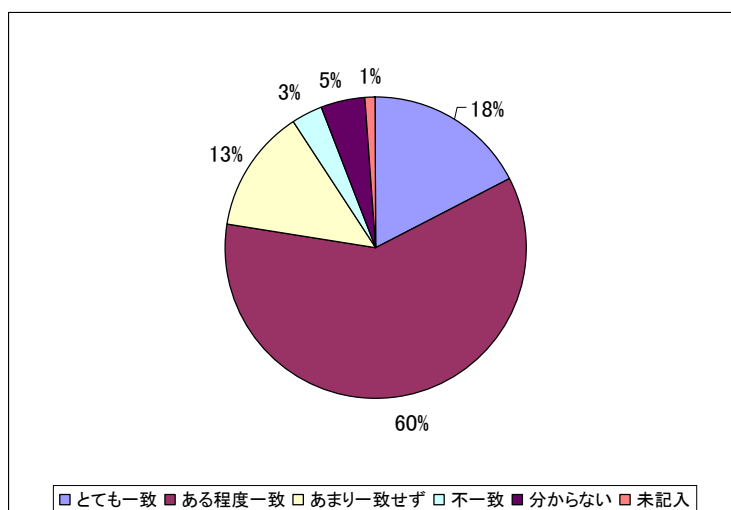
²¹ Q3 で「60%以上」に満たなかったボランティア計 104 人、Q5 で同様に「60%以上」に満たなかったボランティア計 43 人を対象とした。

に、セネガル総合村落林業開発計画(略称:PRODEFI)研修をフォローしていくと、家畜肥育、食品加工など配属先とは関係ない活動内容ばかりが増え、配属先と活動内容の整合性がとれなかった<農林水産、中央・南アフリカ地域>

- ・任国の習慣や状況の認識不足と、受け入れ準備が不十分<保健衛生、アジア地域>
- ・カウンターパートが忙しく、話し合う時間がなかった<教育文化、中米・南米地域>
- ・配属先がまともに業務計画すら立ててない状況だった。具体的に何がしたいのか、なんら提案もなく、こちらの提案には消極的で、非協力的であった<教育文化、大洋州地域>
- ・活動途中で、活動目標の方向が変わったから<教育文化、中米・南米地域>
- ・配属先とのコミュニケーションの不足<農林水産、中央・南アフリカ地域>
- ・技術移転の対象者が、1年目と2年目とで交代したから<保守操作、中央・南アフリカ地域>

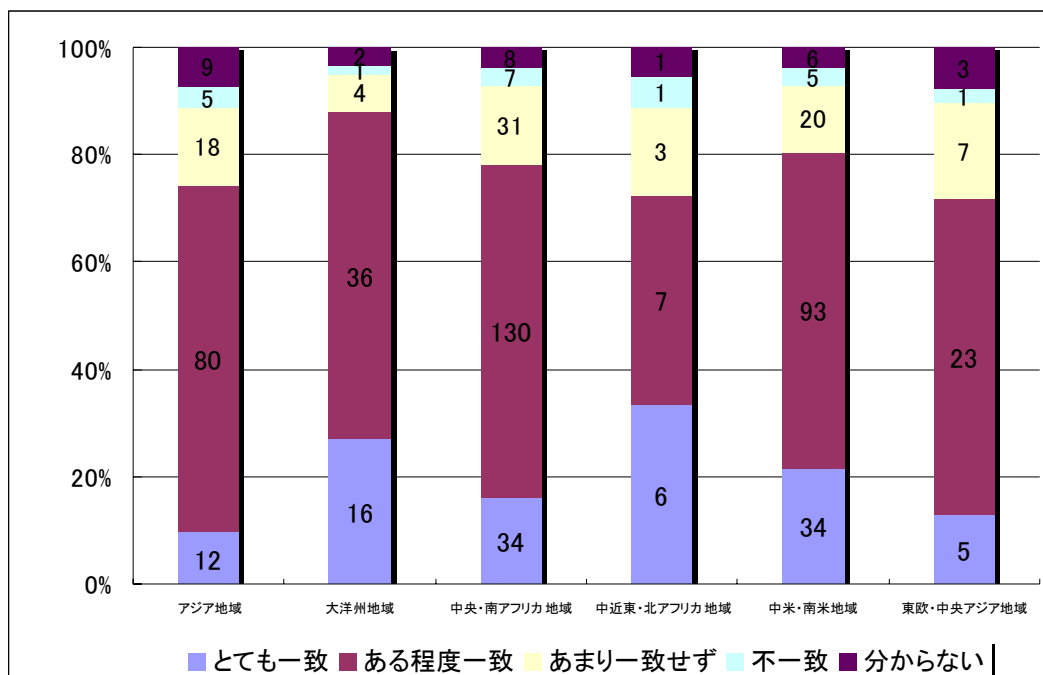
Q8 ボランティア活動が終了した現在、振り返ってみて、あなたのバックグラウンドは、配属先や同僚が求める技術や期待していた活動内容と一致していましたか。

とても一致	109	18%
ある程度一致	370	60%
あまり一致せず	83	13%
不一致	21	3%
分からない	29	5%
未記入	7	1%
計	619	100%



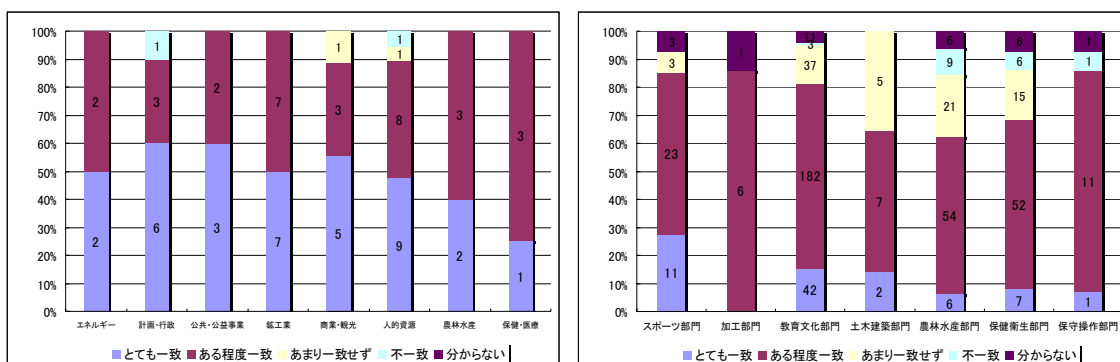
- ・ ボランティアの約 80%は、自身のこれまでに培われたバックグラウンドと、配属先の期待する活動内容が合致していたと回答した。

(ア) 派遣地域別抽出



- 派遣地域の別による差異は見られない。

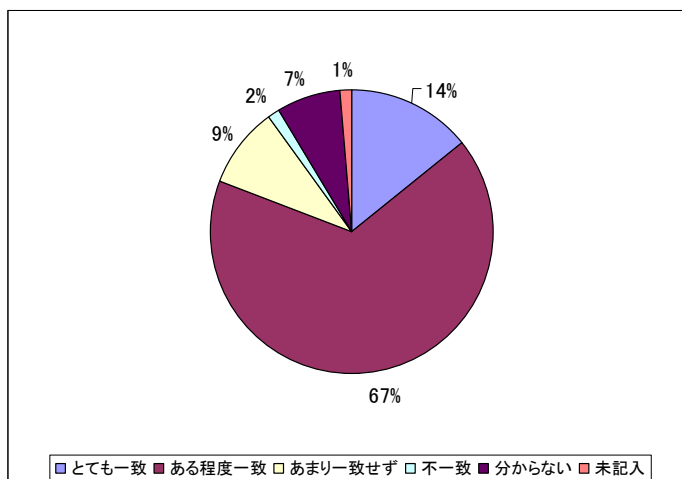
(イ) 職種分野別抽出



- (左)SV の職種分野別、ボランティアのバックグラウンドと配属先の期待の一致
- (右)JV の職種分野別、ボランティアのバックグラウンドと配属先の期待の一致

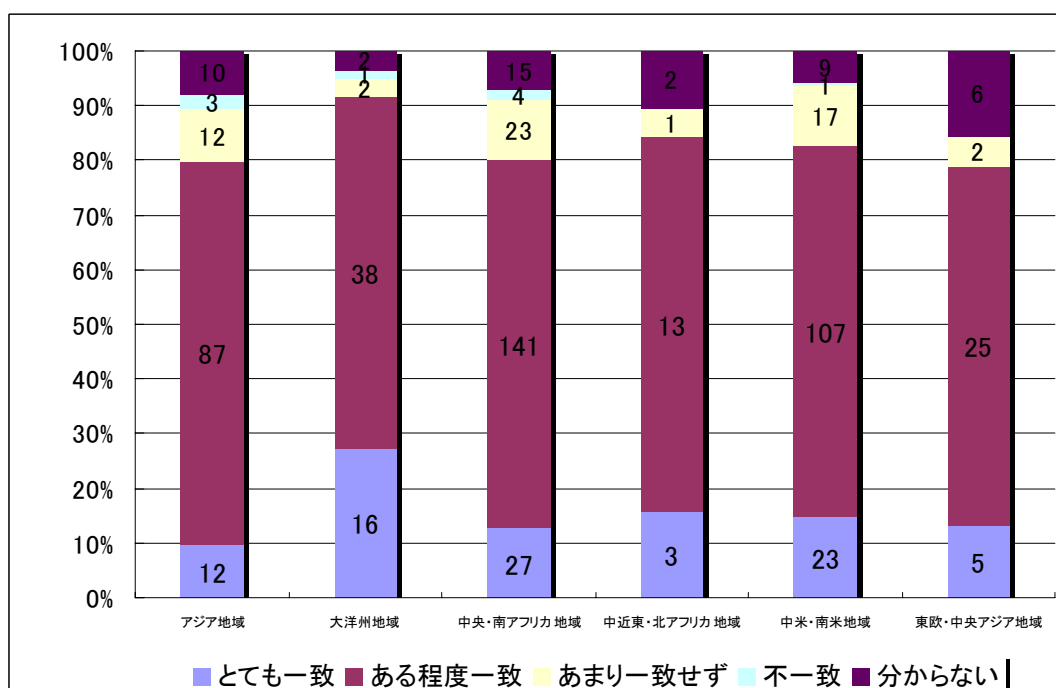
Q9 ボランティア活動が終了した現在、振り返ってみて、あなたが作成した活動計画は、配属先のニーズや期待に合っていましたか。

とても一致	88	14%
ある程度一致	412	67%
あまり一致せず	57	9%
不一致	9	2%
分からない	45	7%
未記入	8	1%
計	619	100%



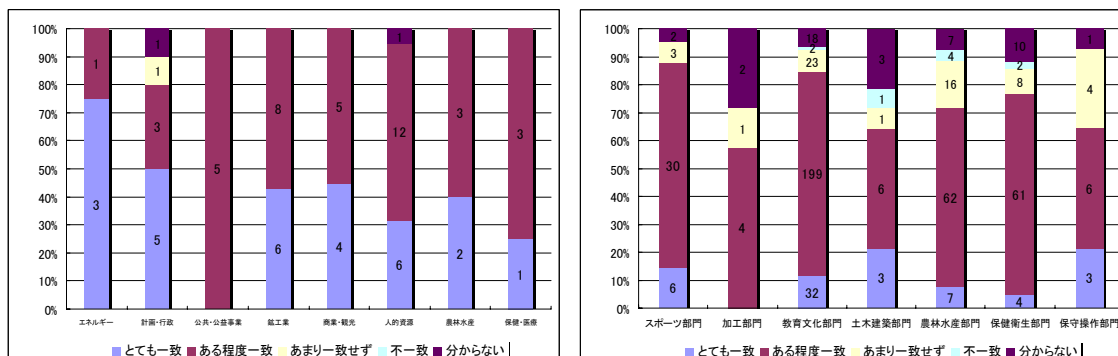
- 「Q8 ボランティアのバックグラウンドと配属先ニーズとの一致程度」と同様、81%が自身の作成した活動計画の妥当性を認めていることが分かった。

(ア) 派遣地域別抽出



- どの地域においても80%前後が肯定的な回答を寄せている。最も肯定回答の低い地域でさえ 79%(東欧・中央アジア地域、派遣は JV のみ)のボランティアが肯定回答を寄せている。

(イ) 職種分野別抽出

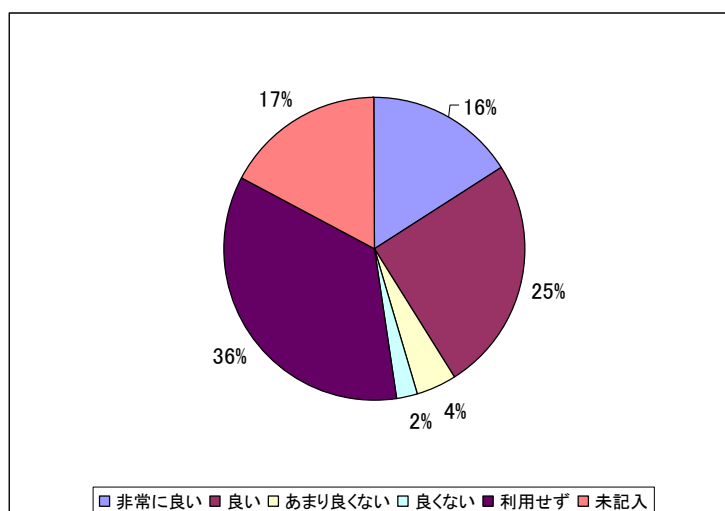


- (左)SV の職種分野別、活動計画の整合程度 (右)JV の職種分野別、活動計画の整合程度

Q10 JICA の支援体制は、あなたのボランティア活動の目標を達成するため、あるいは活動を効果的に行なうために役立ちましたか。それぞれの項目について最もあてはまるものに○をつけてください。

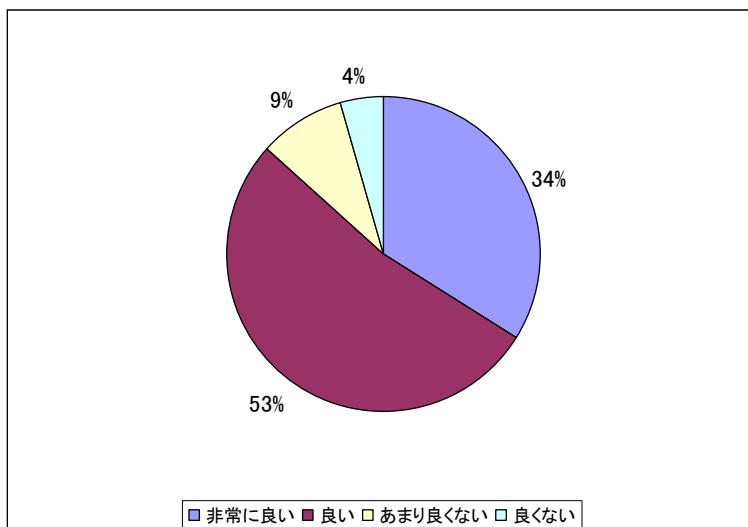
(ア) 技術補完研修

非常に良い	100	16%
良い	155	25%
あまり良くない	26	4%
良くない	13	2%
利用せず	219	36%
未記入	106	17%
計	619	100%



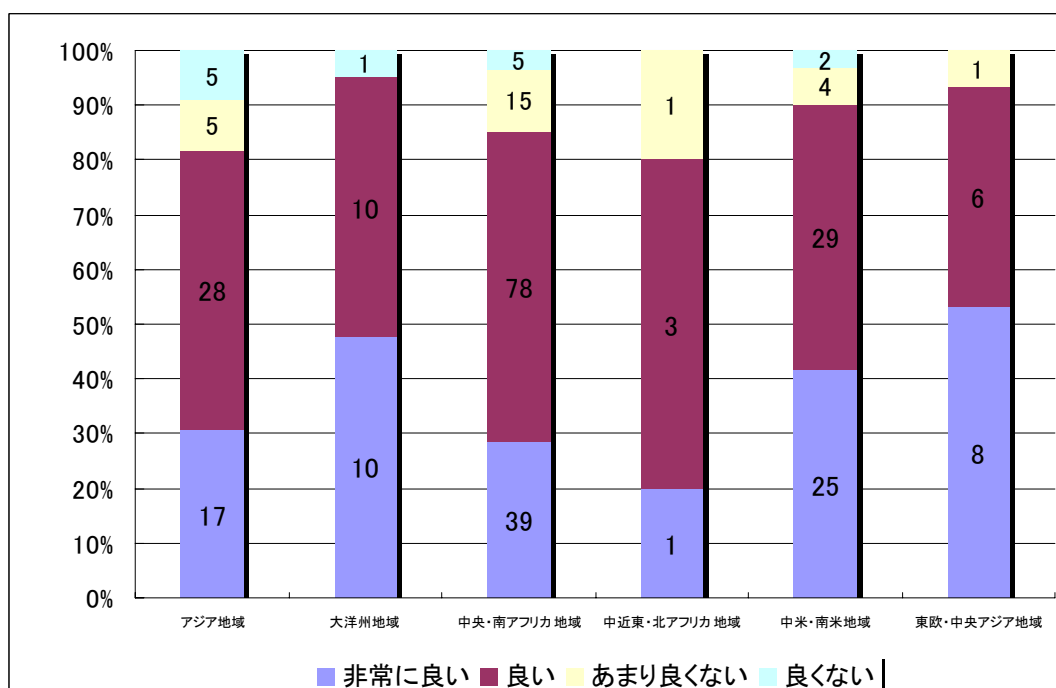
1) 利用者のみの抽出

非常に良い	100	34%
良い	155	53%
あまり良くない	26	9%
良くない	13	4%
計	294	100%



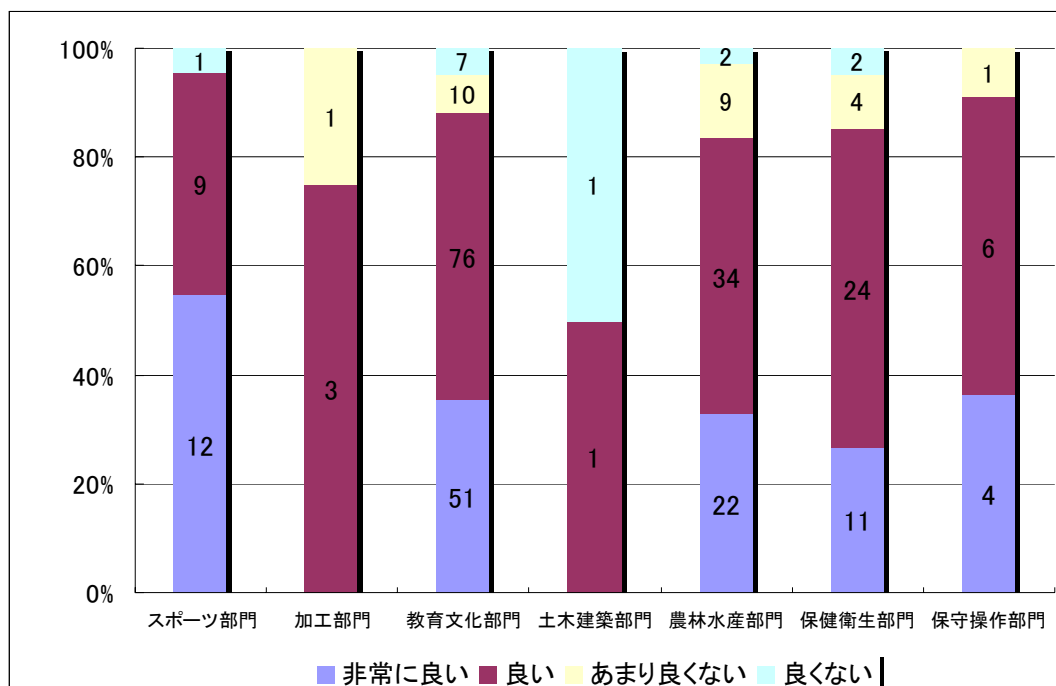
- ボランティアのうち、標記研修を受講したボランティアのほぼ 90%が、標記研修の意義を認めていることが分かる。

2) 派遣地域別抽出(利用者のみ)



- 利用者のみから肯定回答を抽出した場合、アジア地域(80%)、大洋州(95)、中央・南アフリカ(85)、中近東・北アフリカ(80)、中米・南米(90)、東欧・中央アジア(93)、になる。

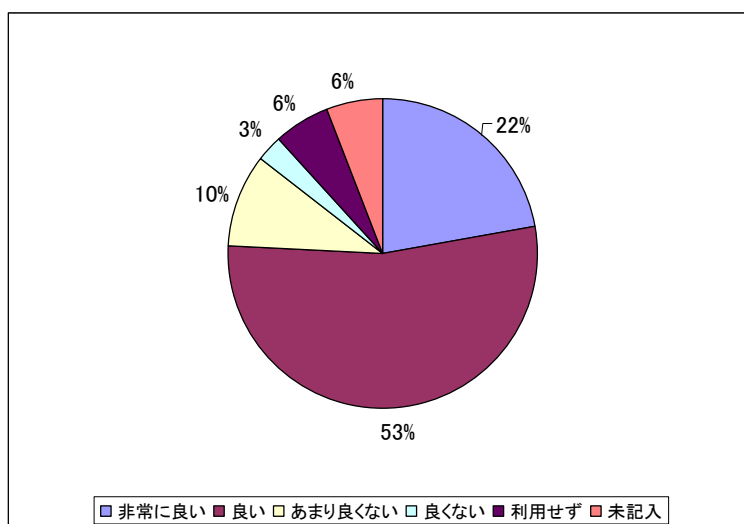
3) 職種分野別抽出(利用者のみ)



- 技術補完研修受講対象者は JV のみ。

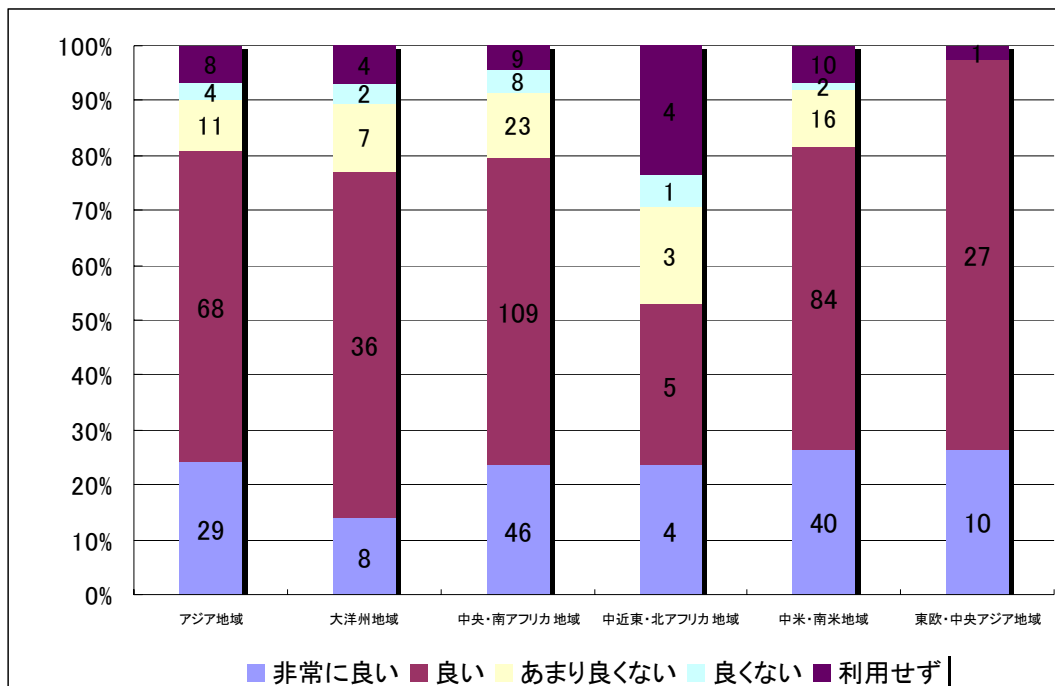
(イ) 派遣前研修(語学以外)

非常に良い	138	22%
良い	331	53%
あまり良くない	61	10%
良くない	17	3%
利用せず	36	6%
未記入	36	6%
計	619	100%



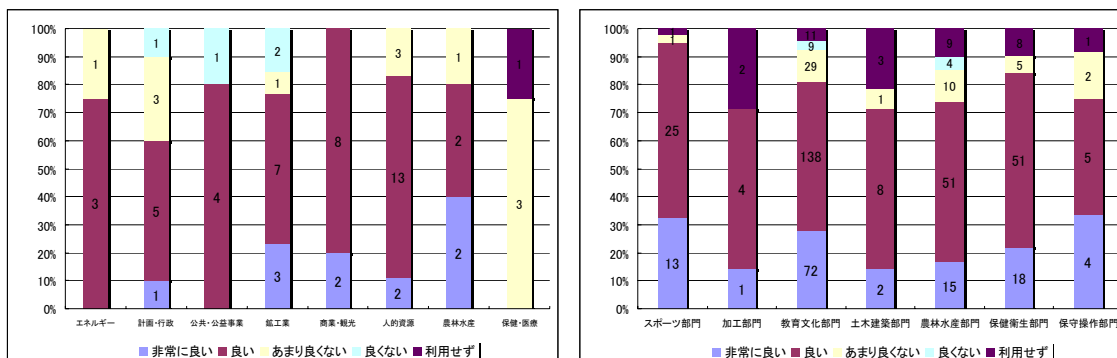
- 標記研修を、75%のボランティアが肯定的に評価した。

1) 派遣地域別抽出



- 各地域、肯定回答の平均は 78%。その中で、特に中近東・北アフリカ地域からの肯定回答が低い(53%)。

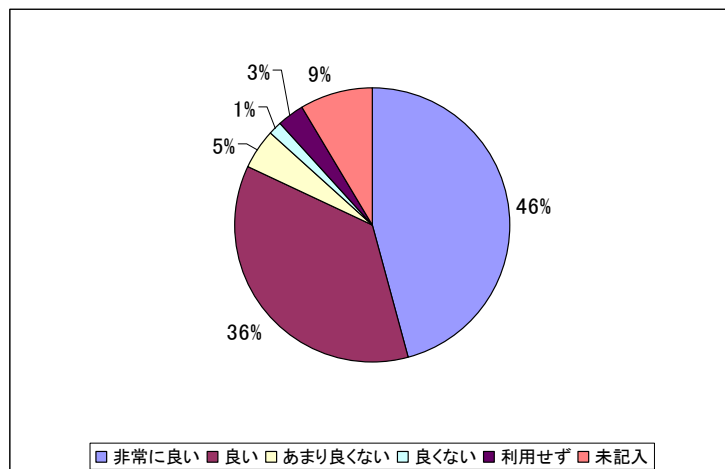
2) 職種分野別抽出



- (左)SV の職種分野別、派遣前研修(語学以外)評価 (右)JV の職種分野別、派遣前研修(語学以外)評価

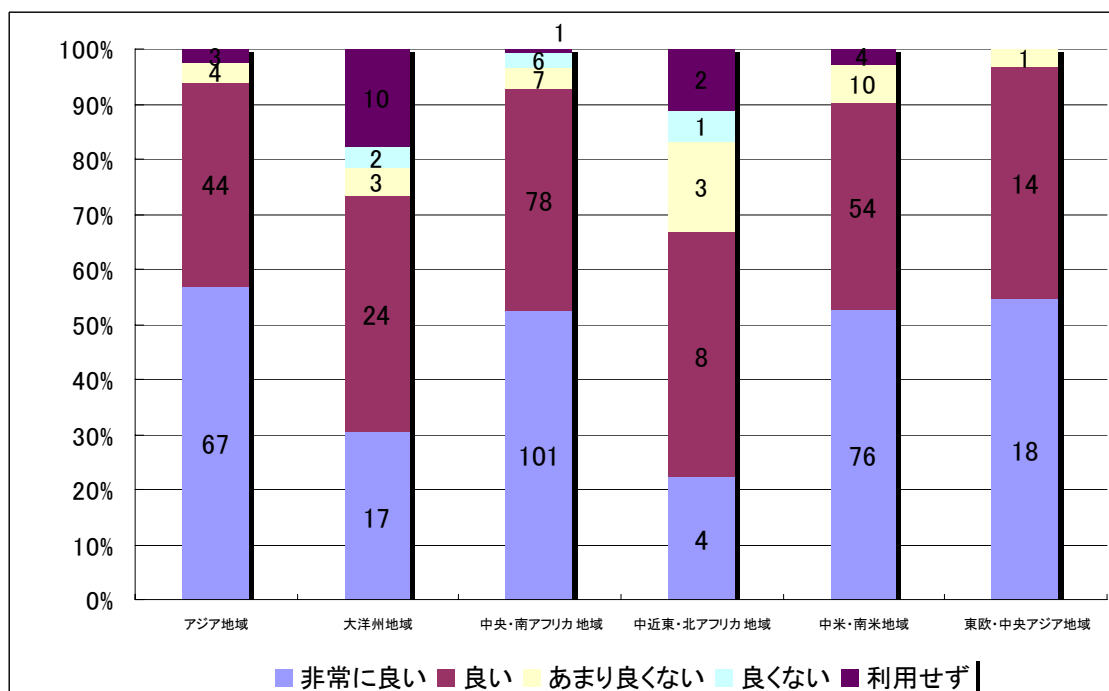
(ウ) 派遣前語学訓練

非常に良い	283	46%
良い	225	36%
あまり良くない	29	5%
良くない	9	1%
利用せず	20	3%
未記入	53	9%
計	619	100%



- ボランティアの 82%は肯定的な評価をしている。

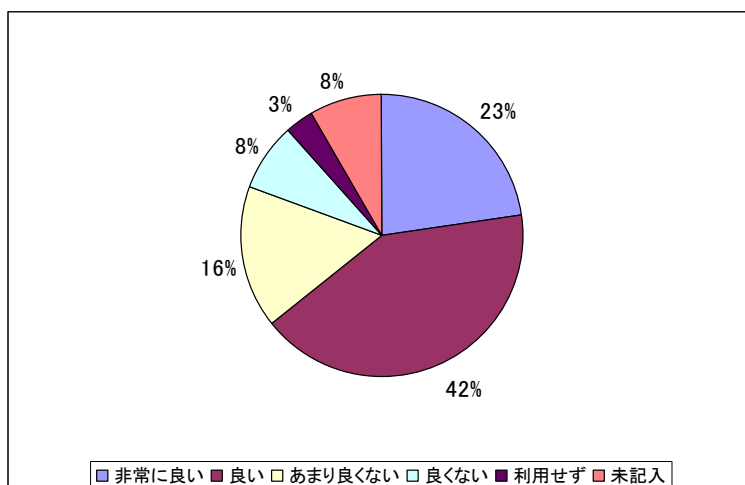
1) 派遣地域別抽出



- 派遣地域の違いによるばらつきが見られ、大洋州地域(73%)、中近東・北アフリカ地域(67)以外の他地域では、肯定回答が 90%、もしくはそれ以上である。

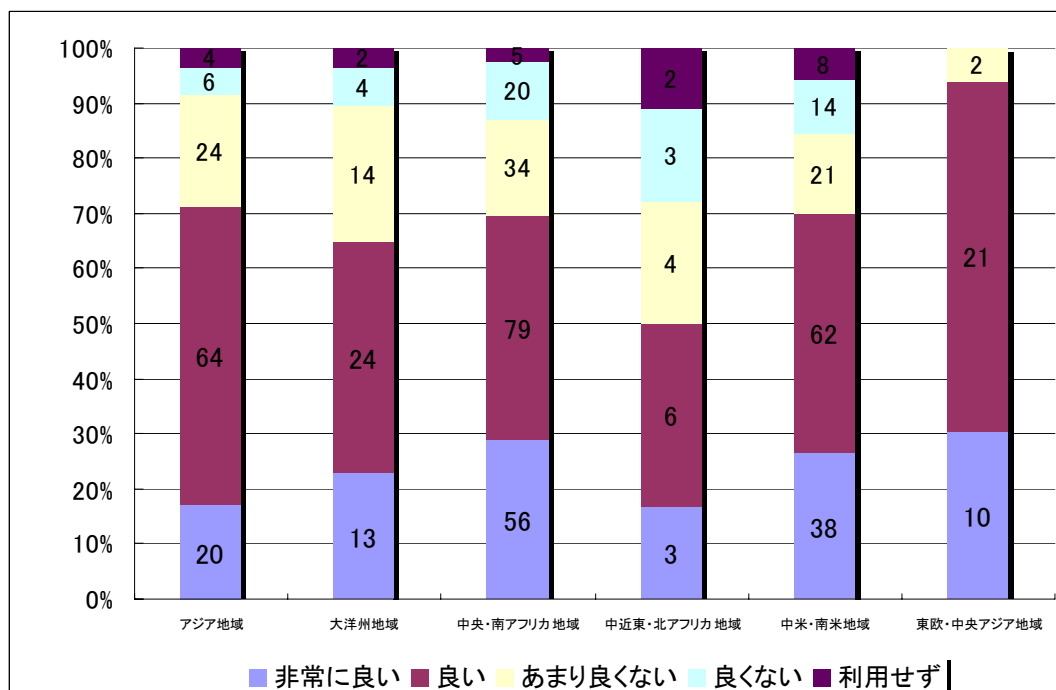
(エ) 現地(語学)訓練

非常に良い	141	23%
良い	257	42%
あまり良くない	100	16%
良くない	48	8%
利用せず	21	3%
未記入	52	8%
計	619	100%



- 現地語学訓練への評価は、派遣前語学訓練に比べると、肯定回答の合算計が 15% 強、低い結果となった。

1) 派遣地域

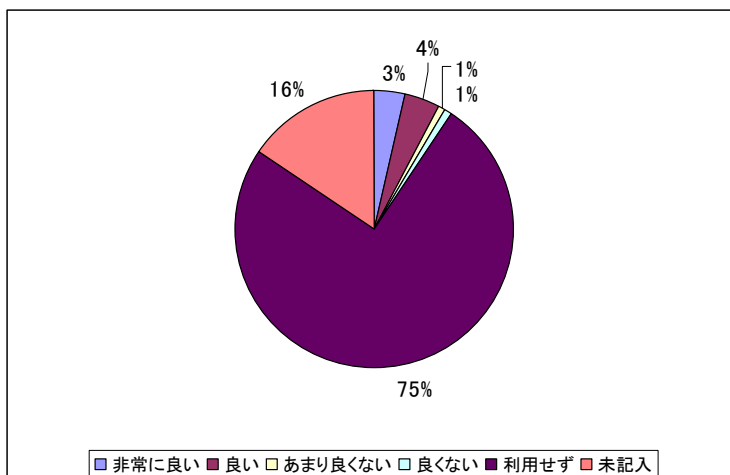


	派遣前語学訓練	現地(語学)訓練
アジア地域	94%	71%
大洋州地域	73%	65%
中央・南アフリカ地域	93%	70%
中近東・北アフリカ地域	67%	50%
中米・南米地域	90%	70%
東欧・中央アジア地域	97%	94%

- 各地域、現地（語学）訓練よりも、派遣前語学訓練への評価のほうが高い、という点は共通している。

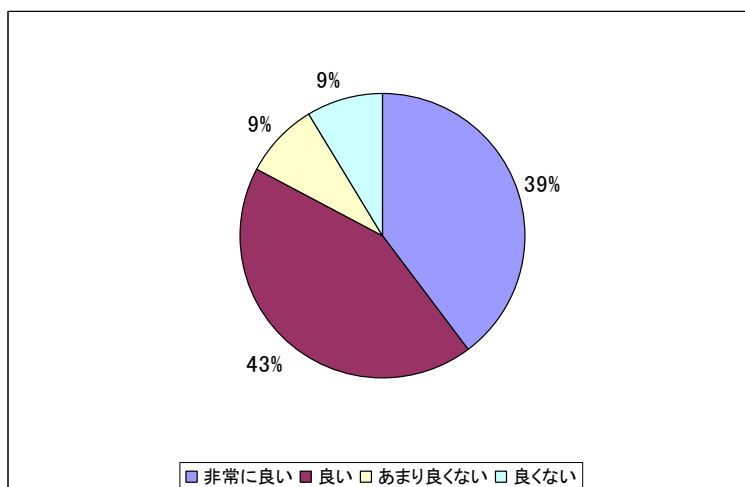
(オ) 在外技術補完研修

非常に良い	23	3%
良い	25	4%
あまり良くない	5	1%
良くない	5	1%
利用せず	465	75%
未記入	96	16%
計	619	100%

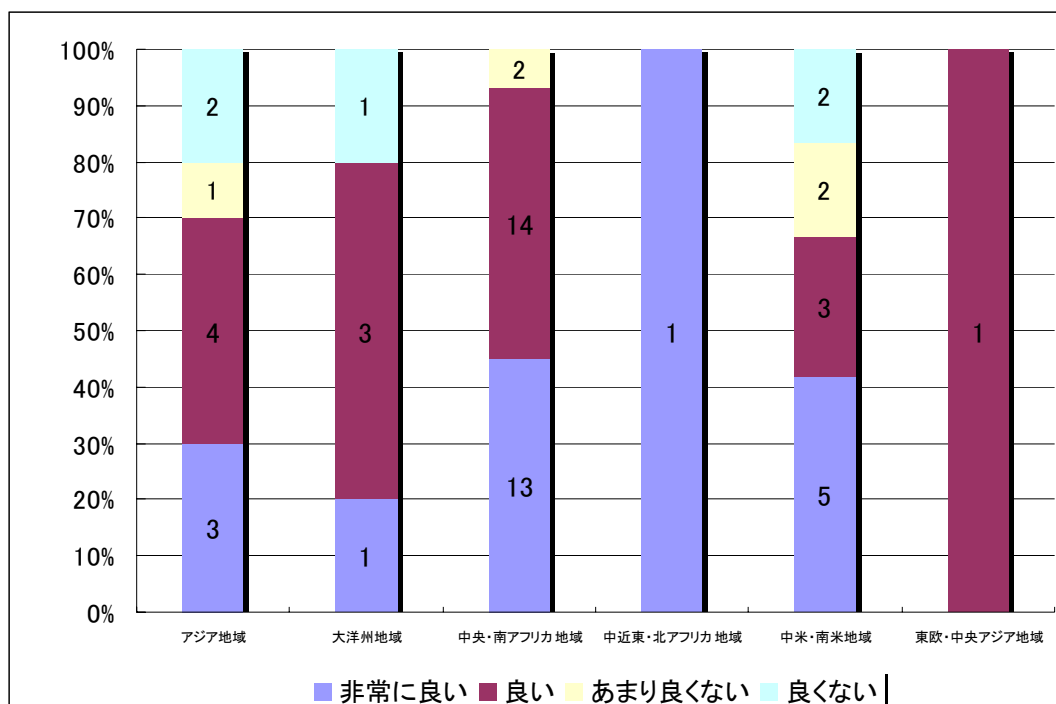


1) 利用者のみの抽出

非常に良い	23	39%
良い	25	43%
あまり良くない	5	9%
良くない	5	9%
計	58	100%

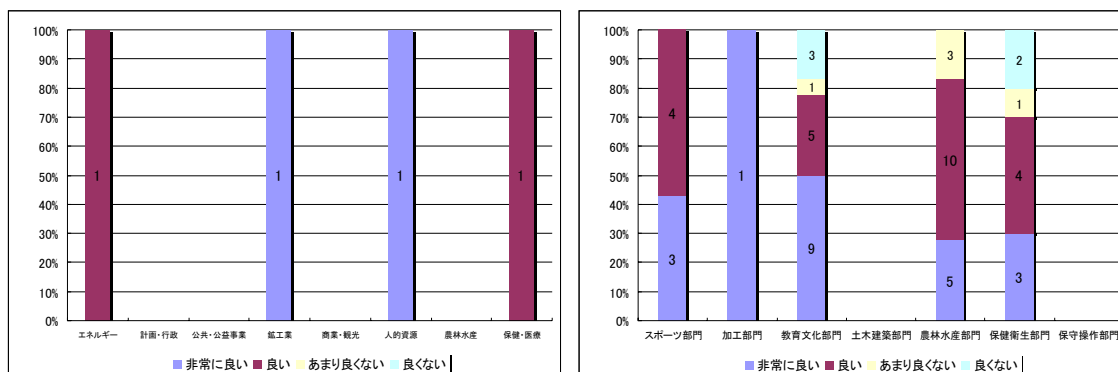


2) 派遣地域別抽出(利用者のみ)



- 各地域、平均すると 85%のボランティアが肯定的な評価をしている。しかし、そのうち、アジア地域(70%)、中米・南米(67%)からの評価が若干低くなっている。

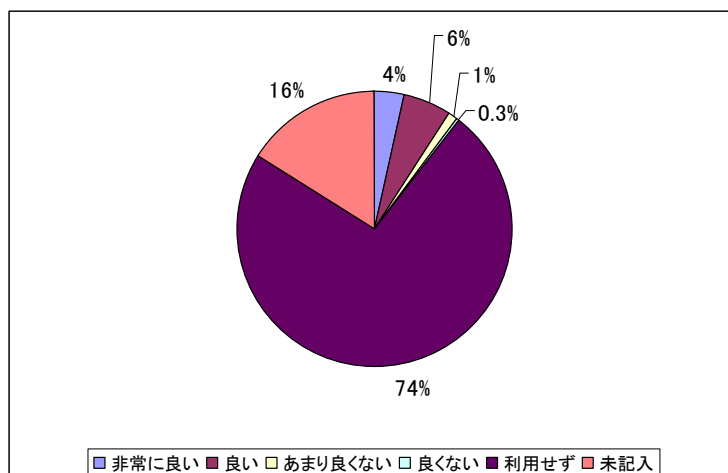
3) 職種分野別抽出(利用者のみ)



- (左)SV の職種分野別、在外技術補完研修評価 (右)JV の職種分野別、在外技術補完研修評価

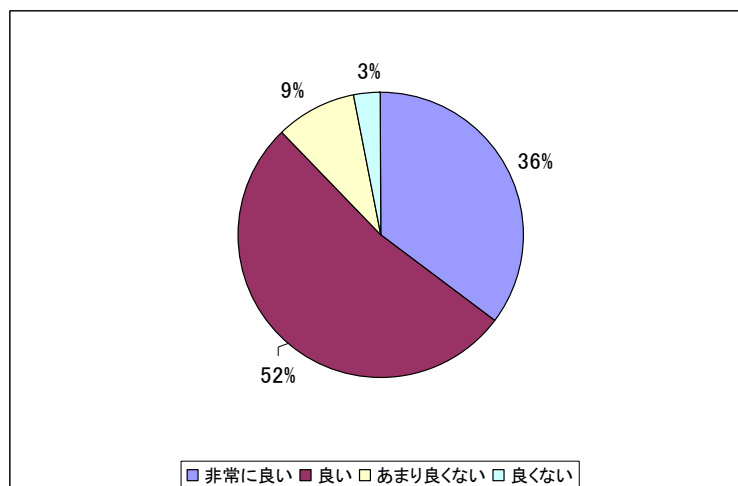
(カ) 広域研修

非常に良い	23	4%
良い	34	6%
あまり良くない	6	1%
良くない	2	0.3%
利用せず	454	73%
未記入	100	16%
計	619	100%

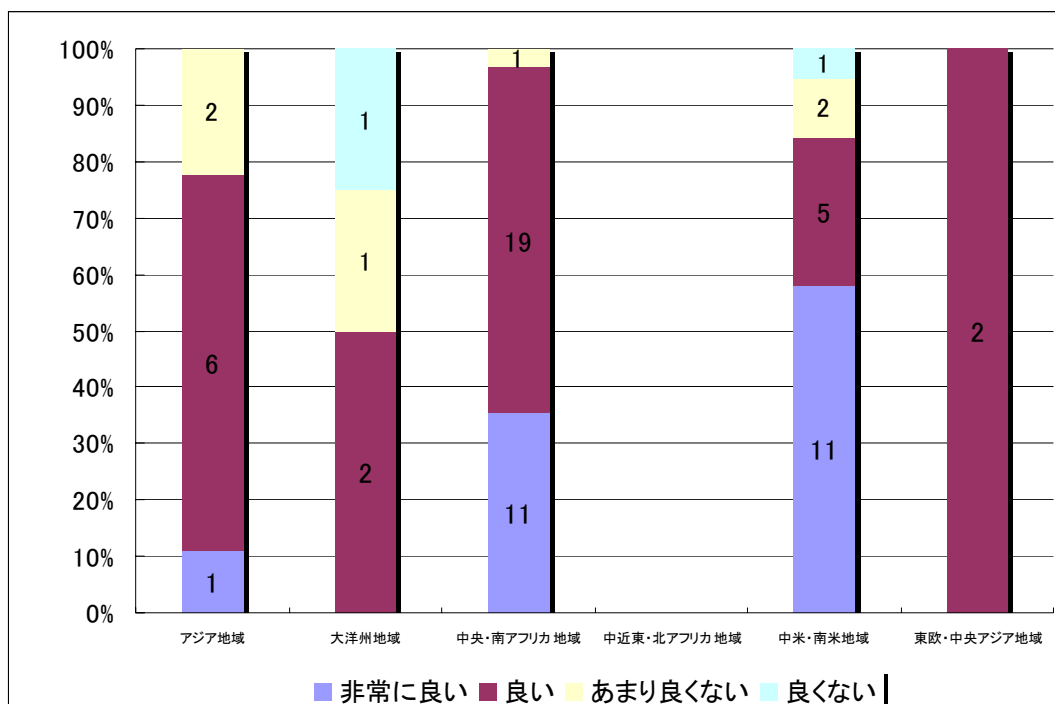


1) 利用者のみの抽出

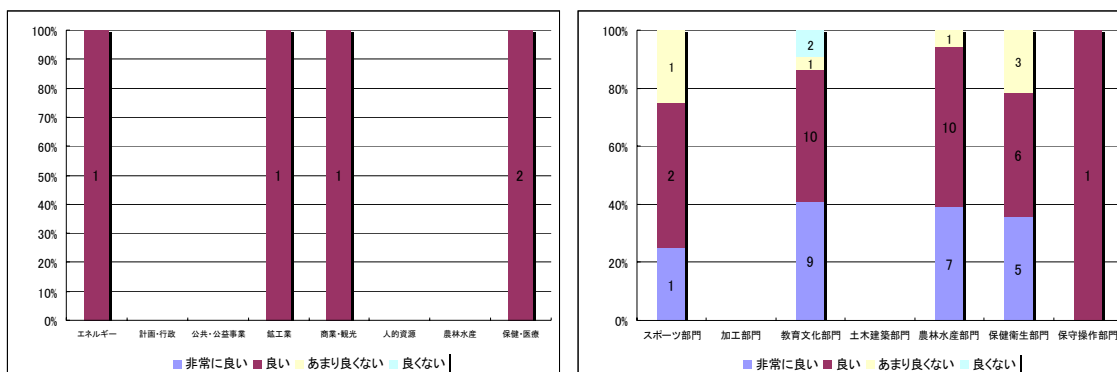
非常に良い	23	36%
良い	34	52%
あまり良くない	6	9%
良くない	2	3%
計	65	100%



2) 派遣地域別抽出(利用者のみの抽出)



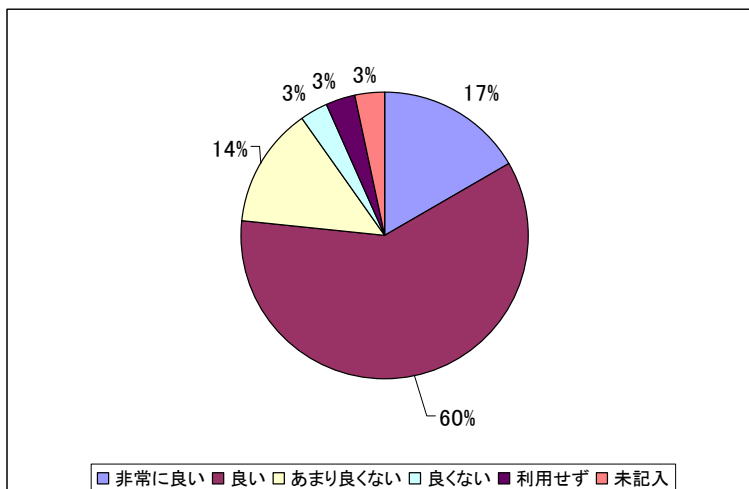
3) 職種分野別抽出(利用者のみ)



- (左)SV の職種分野別、広域研修評価 (右)JV の職種分野別、広域研修評価

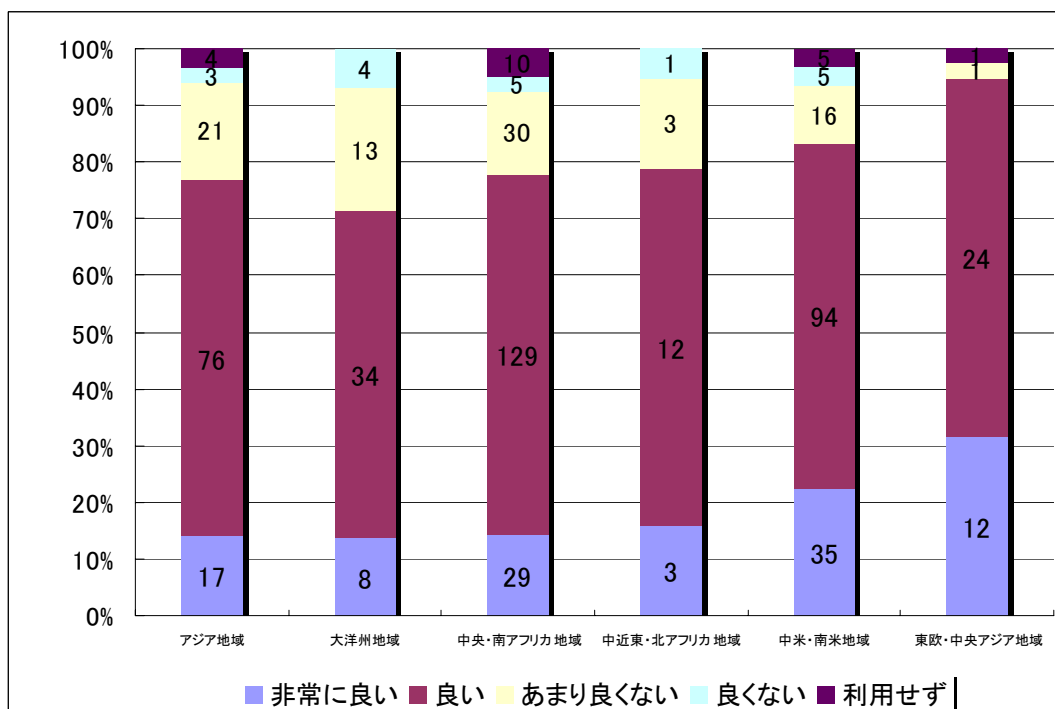
(キ) 活動中の在外事務所の対応

非常に良い	104	17%
良い	371	60%
あまり良くない	84	14%
良くない	18	3%
利用せず	21	3%
未記入	21	3%
計	619	100%



- 約 80%のボランティアが、活動中の在外事務所による対応に、肯定的な評価をしていることが分かる。

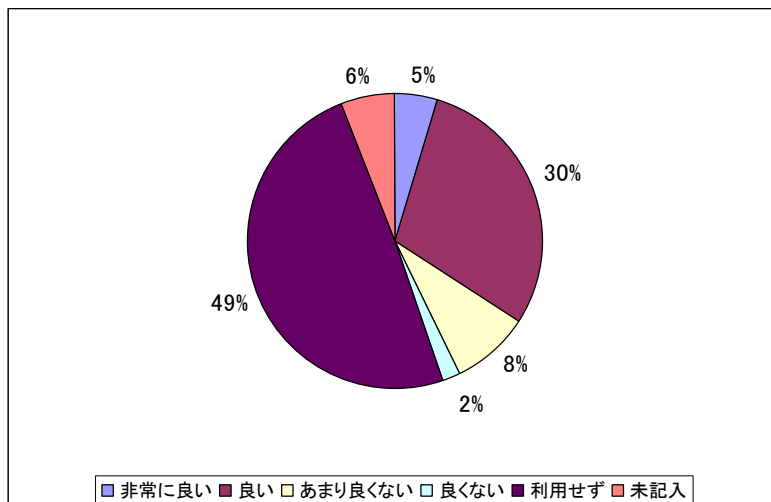
1) 派遣地域



- どの地域においても、在外事務所による対応に 70%強の肯定評価をしているが、特に東欧・中央アジア地域からの同評価が高い(95%)。

(ク) 運営や技術支援に対する JICA 本部の対応

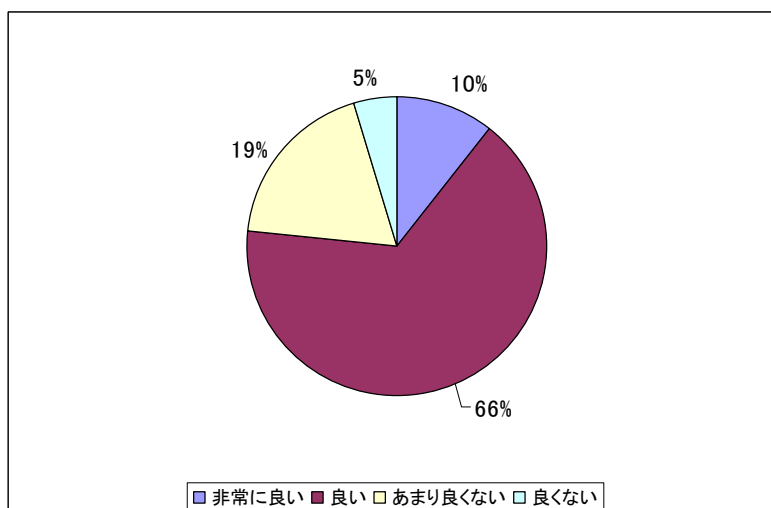
非常に良い	29	5%
良い	183	30%
あまり良くない	52	8%
良くない	13	2%
利用せず	306	49%
未記入	36	6%
計	619	100%



- ボランティアのほぼ半数は、派遣中に JICA 本部との接触をもたないことが分かる。

1) 利用者だけの抽出

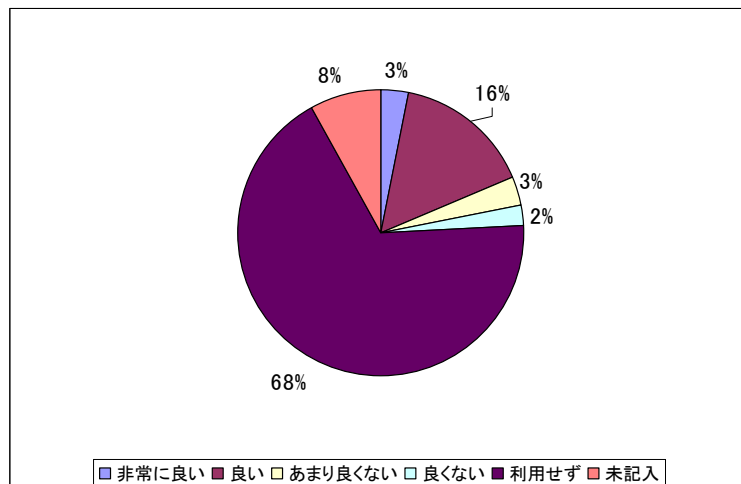
非常に良い	29	10%
良い	183	66%
あまり良くない	52	19%
良くない	13	5%
計	277	100%



- 派遣中に JICA 本部との接触をもったボランティアの 76%が、肯定評価を寄せた。

(ケ) 運営や技術支援に対する技術顧問の対応

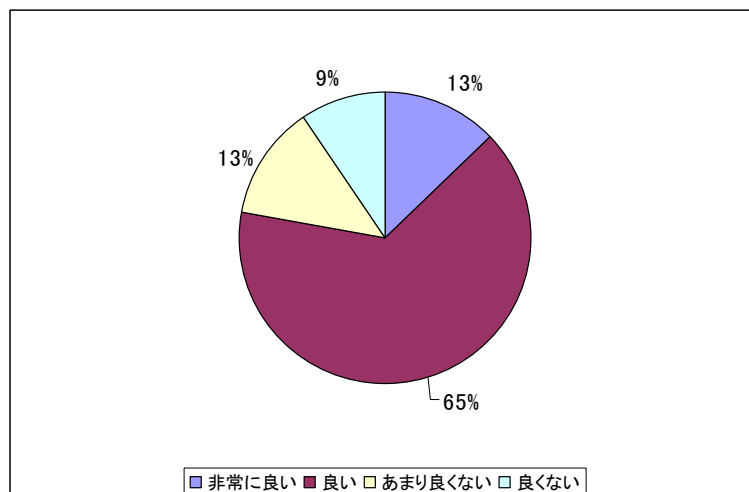
非常に良い	19	3%
良い	97	16%
あまり良くない	19	3%
良くない	14	2%
利用せず	420	68%
未記入	50	8%
計	619	100%



- ほぼ 70%のボランティアが、技術顧問制度を利用していないことが分かる。

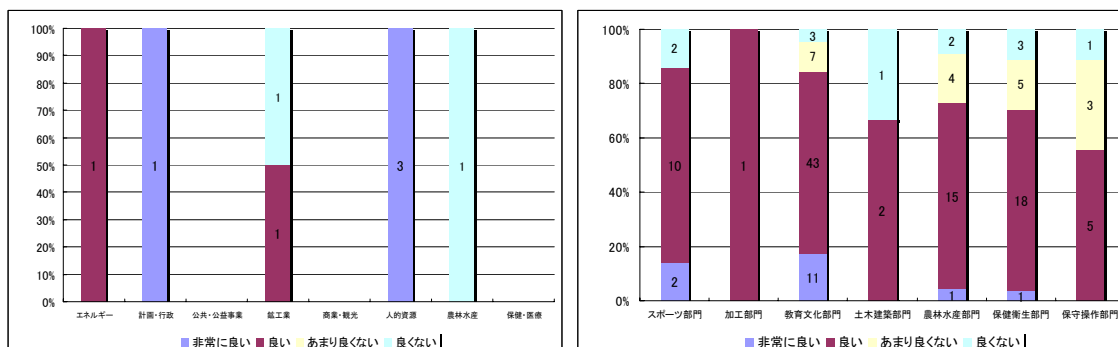
1) 利用者だけの抽出

非常に良い	19	13%
良い	97	65%
あまり良くない	19	13%
良くない	14	9%
計	149	100%



- 技術顧問制度を利用したボランティアのほぼ 80%は、同制度を肯定的に評価している。

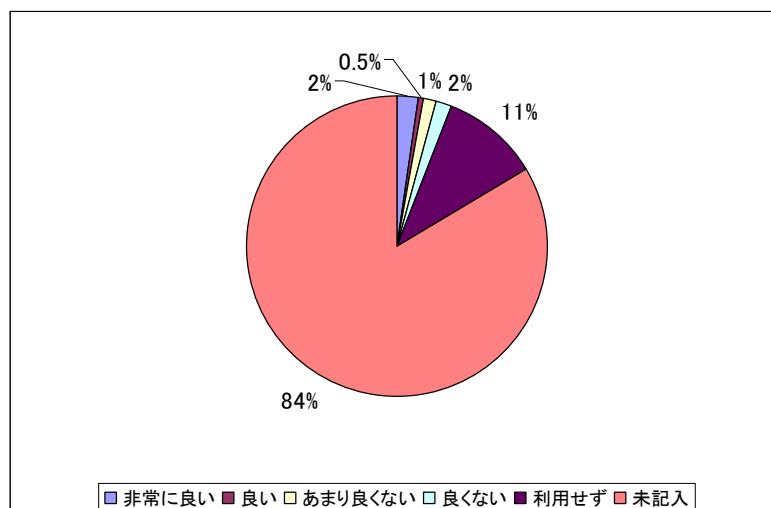
2) 職種分野別抽出(利用者のみ)



- (左)SV の職種分野別、技術顧問制度評価 (右)JV の職種分野別、技術顧問制度評価

(コ) その他

非常に良い	14	2%
良い	3	0.5%
あまり良くない	8	1%
良くない	11	2%
利用せず	65	11%
未記入	518	84%
計	619	100%



- 「10 その他」への具体的な記述回答は以下のとおり。

【SV】

- ・情報支援<計画・行政、中近東・北アフリカ地域>
- ・現地業務費の支援額<人的資源、中米・南米地域>
- ・技術情報支援など<人的資源、中近東・北アフリカ地域>

【JV】

- ・後任隊員の確保、後任要請のあり方<農林水産、中央・南アフリカ地域>
- ・健康管理員<スポーツ、アジア地域>
- ・世界の笑顔のために<スポーツ、アジア地域>
- ・小さなハートプロジェクト<教育文化、中央・南アフリカ>

Q11 (Q10で1～2と回答した項目がある方に)その理由・状況を書いてください。また、それを改善するための提案があれば書いてください(記述形式;回答者数 271 人(44%))。

- 実際の回答を、以下に要約する。

(ア) 技術補完研修について(JVのみ)

- ・標記研修で学ぶことは、実際のボランティア活動の実情に沿ったものとは言えない
- ・研修時に提出するレポートへのフィードバックがなかったため、これでいいのか悪いのかさえも分からず仕舞いだった
- ・有資格者にとっては、標記研修が物足りなくもあるのではないかと。そうした受講対象者に対しては、任国情報提供の場といったような機会を、別途設けてもいいのでは？
- ・職種によりその候補者が受講対象者かどうかを判断するのではなく、要請内容によりその候補者が当該研修を受講すべきか否か、判断をすべきではないか

(イ) 派遣前研修について

【SV】

- ・余り役に立たなかった
- ・派遣先の状況に直結するような情報に乏しかった
- ・流れ作業的で研修を受ける側よりも研修を実施する側にとっての視点が多かったように思う。研修を行なう者としての意識に欠けるのではないかと
- ・成功例のみではない、ボランティア活動の実情を知らせて欲しい
- ・赴任後に活用できた知識は、戦後日本がアメリカからの援助を受けていたという知識くらい
- ・研修が各国各自の仕事に適した研修であれば、さらにスキルアップできた。しかし実際は、研修内容が広範囲に亘っており、漠然としていた

【JV】

- ・標記訓練は語学訓練中心で行なって、講座レポートなどの時間を減らしてほしい。座学などを中心にした講義を減らし、その分語学の時間を増やして欲しい
- ・現地ニーズに適合した経験獲得の場になるように、カリキュラムのデザインはできないものか
- ・標記訓練が語学能力の養成に重きを置かれるのなら、訓練所での訓練でなく、現地訓練の時間を長くしたほうがいいのではないかと
- ・詰め込み式はやめて欲しい。頭の整理ができないままに終わった気がする
- ・語学訓練以外で忙しく、語学クラスに集中できなかった

(ウ) 派遣前語学訓練について

【SV】

- ・語学試験は難しすぎるが、会話はあまりにも簡単すぎる

・語学研修の時間が少ないので簡単な会話しか理解できなかった。JOCV 並に語学研修の時間を増やす必要があるのではないか

・語学教師の専門性に不足を感じた

【JV】

・現地語学訓練と、カリキュラムのつながりはあるのか

・教授法に関しての知識のある教師ではなかった

(エ) 現地(語学)訓練について

【SV】

・現地研修は空き時間が多く、研修内容の吟味が不十分。具体的な内容について、これまでの SV から十分意見を収集するべきでは

・現地研修は SV にとって時間の無駄だ。早く配属先に行かせるべき

・現地訓練の期間が非常に短く、ほとんど情報伝達に終始している。実際には、配布された印刷資料を基に自分で実地で確かめることによって、現地の情報を把握するのが常だった。特に語学訓練はもっと長期研修が必要

【JV】

・カリキュラムの内容や教師の質・能力ともに、派遣前の教師に比べると、不満が残った

・教師個人により指導方針が異なる場合があるが、それは予め統一されるべきではないか

・絶対的な時間数の不足。一案として、複数回の研修機会が設けられてもいいのでは？

(オ) 在外技術補完研修について

SV、JV ともに記述回答なし

(カ) 広域研修について

【SV】

記述回答なし

【JV】

・申請時期、実施時期が非常に限られていて、活動と兼ね合いを取るのが難しい

・申請⇒受理までに非常に時間がかかり、その分準備に費やせる時間が短くなってしまった

(キ) 活動中の在外事務所の対応について

【SV】

・運営に関する JICA 事務所の対応は、調整員が生活支援等で多忙。また専門分野も必ずしも合致せず

・送付物等を定期的に地方に赴任している SV に送付する仕組みがなく、地方在住者には不安な気持ちが残った

- ・支援機材に関する担当者が頻繁に交代し、業務支援内容の把握が充分ではない。

【JV】

- ・在外事務所の活動方針が見えにくい。そうした情報の共有があってもいいのではないか
- ・傷病罹患時の対応をもう少し配慮してほしい。本人と事務所側の意識にギャップを感じる
- ・要請のとりかたと事後確認の甘さ
- ・調整員は JV と事務所の架け橋。調整員はそうした認識をしっかりと持って欲しい
- ・危機管理体制への不信感。国内移動禁止措置を JV に課しても、それがとうに解除されているにもかかわらず、それを知らない JV が複数人いた。コミュニケーションが不足している

(ク) 運営や技術支援に対する JICA 本部の対応について

【SV】

- ・本部には専門技術を有する担当者がいないのか、現場からの要請に対する理解力がないように感じられる。はじめに回答が用意されていて、それにそぐわない意見には否定的な回答が寄せられる。これは事務所にも言えることで、専門性を備えた人員の配置が必要ではないかと思う。

- ・JICA 本部や技術顧問制度を利用できるような体制にはなっていないと思う。技術顧問の存在を知らなかったし、どういったときに使えるのかというアドバイスを、日本にいながらも任国のことを熟知した専門従事者なのか、ほとんど情報がなかった

【JV】

- ・何事もこちらから申請・要請したことへの対応が遅いのではないか。それによって、機を逸することもある
- ・在外事務所の方針と JICA 本部との方針に、時折差を感じるがあった

(ケ) 運営や技術支援に対する技術顧問の対応について

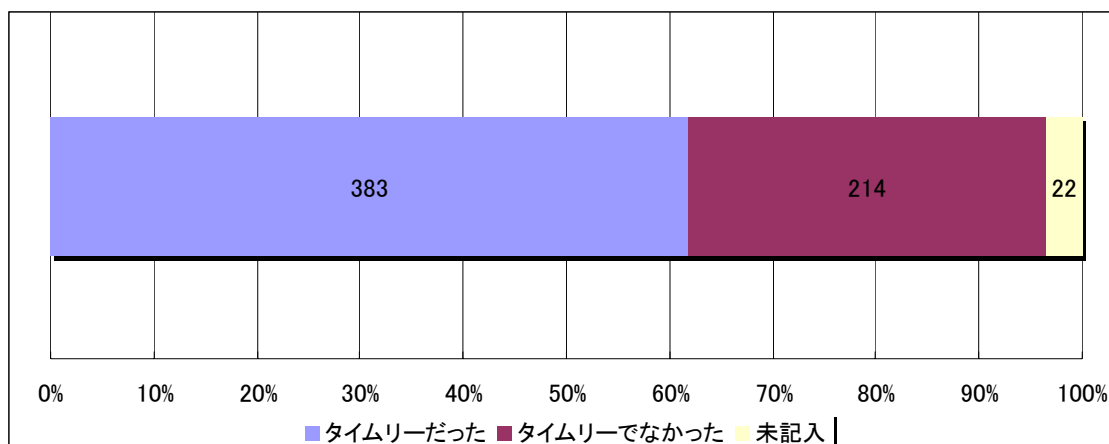
【SV】

記述回答なし

【JV】

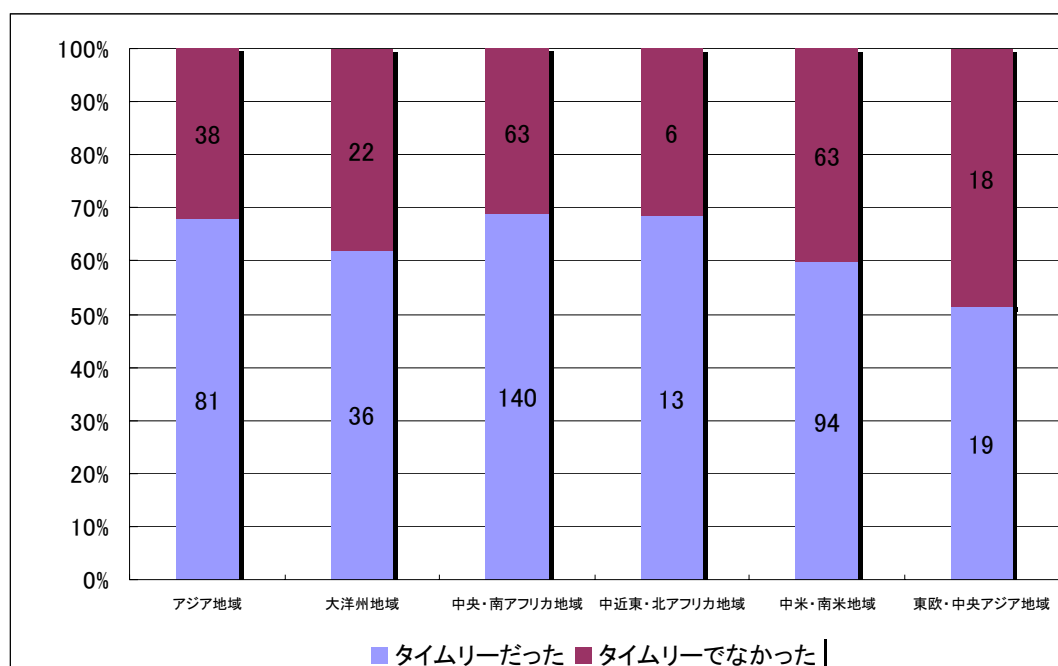
- ・技術顧問の先生とは、提出した報告書へのコメントをいただく程度。特に接点もなく、それよりも在外事務所にいる専門家の方々にいろいろとお世話になった

Q12 あなたが派遣されたタイミングは、配属先の状況を考えると、タイムリーだったと思いますか。



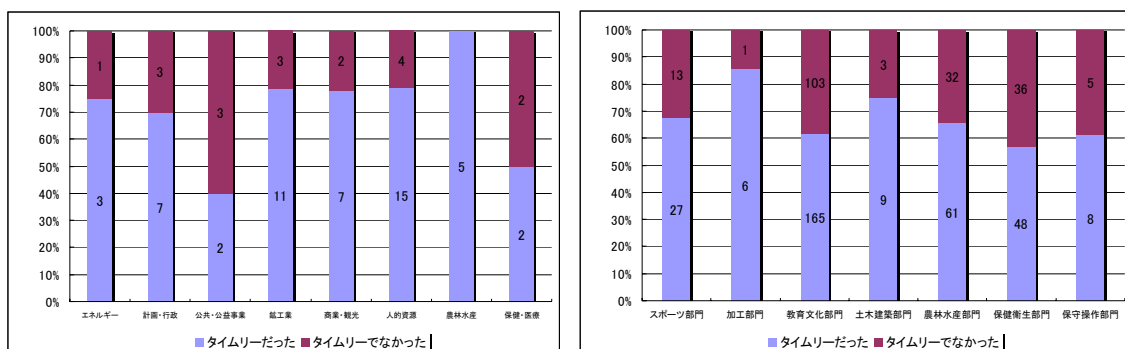
- ボランティアの 62%は、派遣タイミングの適切さを認めている。

(ア) 派遣地域別抽出



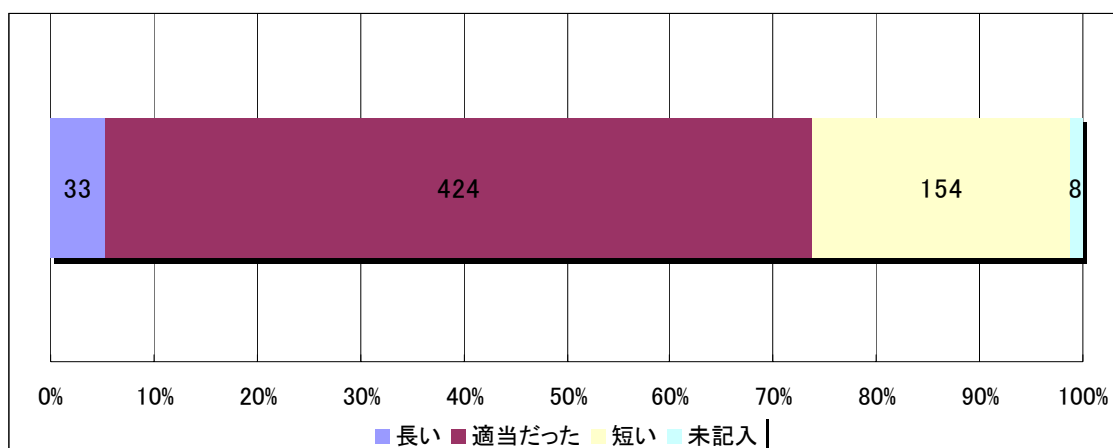
- 全体の平均は 60%を超えるものの、それを下回る地域として中米・南米地域(60%)、東欧・中央アジア(51)がある。

(イ) 職種分野別抽出



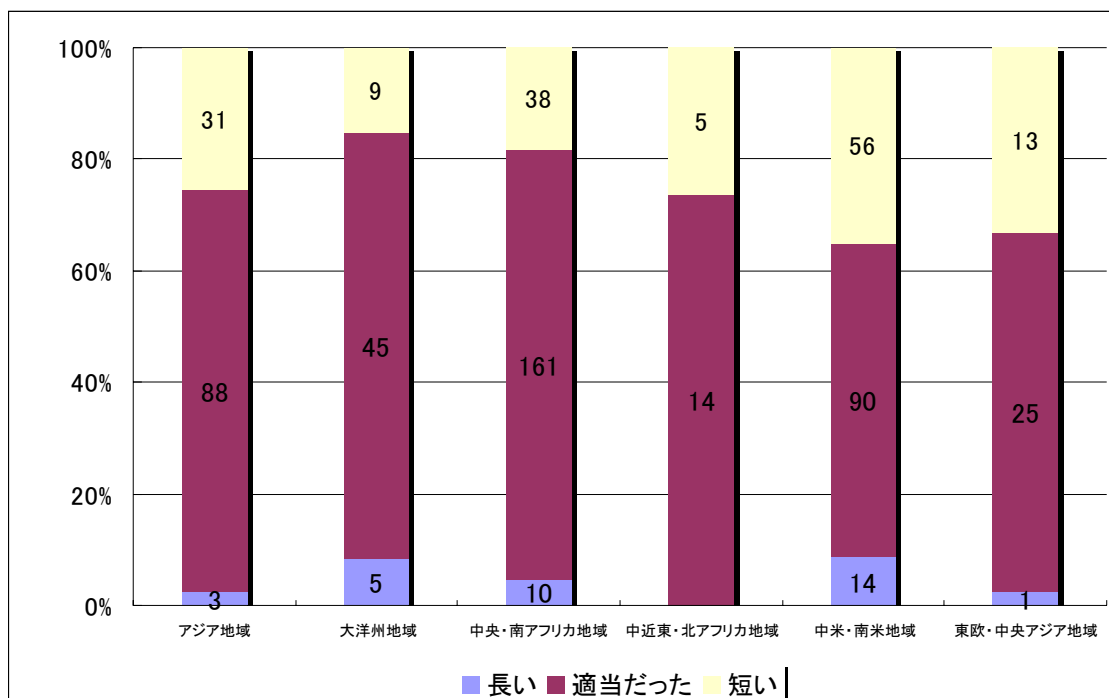
- (左)SV の職種分野別、派遣タイミングへの評価 (右)JV の職種分野別、派遣タイミングへの評価

Q13 あなたの派遣期間は適当でしたか。



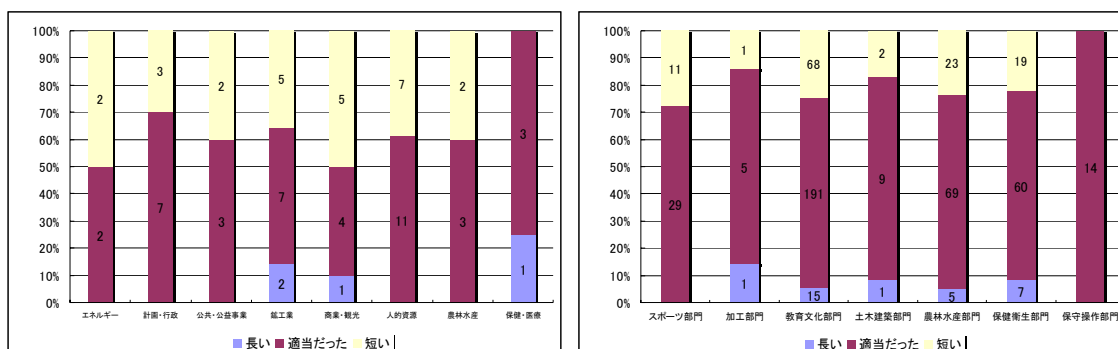
- 派遣期間を「適当だった」と回答したボランティアは 68%、また「短い」と回答したボランティアも 25%あった。

(ア) 派遣地域別抽出



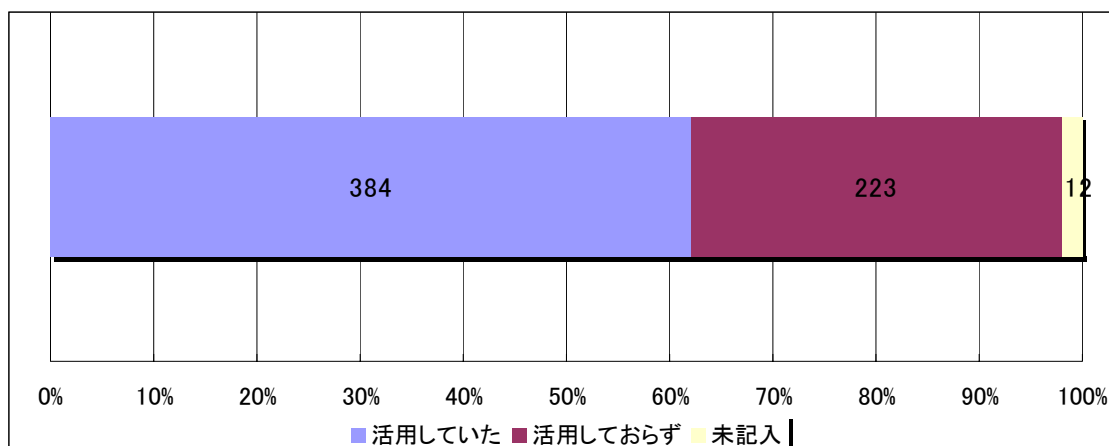
- 「適当だった」、「短い」という2つの選択肢を肯定回答として合算すると、どの地域においても 90%以上のボランティアが、自身の派遣期間については肯定的に捉えていることが分かる。なお、「適当だった」のみを抽出した場合、中米・南米地域からの回答が最も少なく、56%である。

(イ) 職種分野別抽出

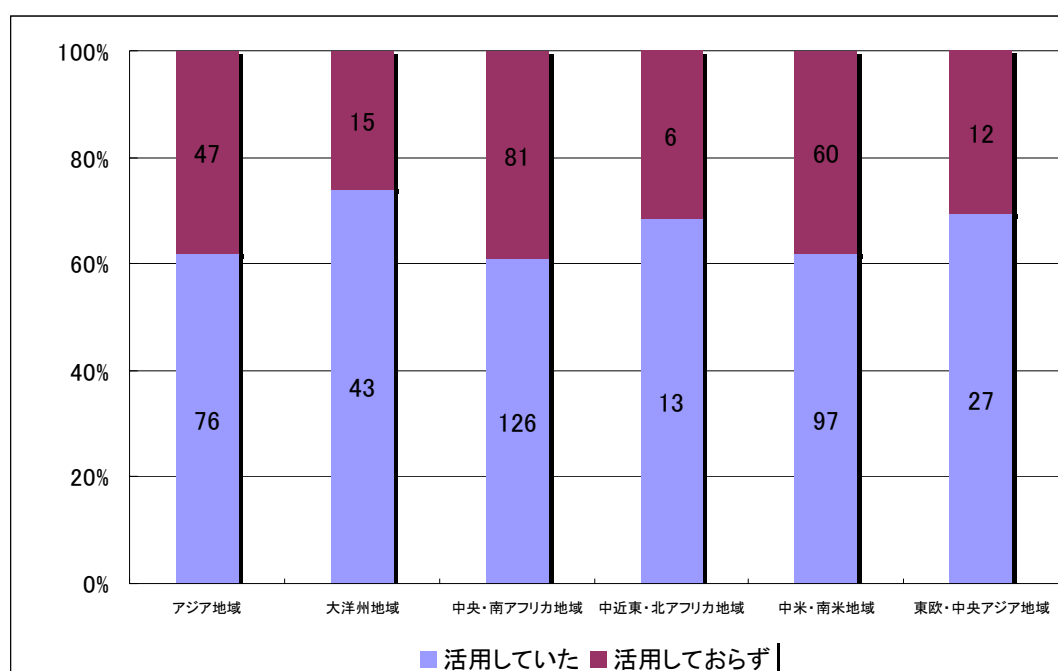


- (左)SV の職種分野別、派遣期間の評価 (右)JV の職種分野別、派遣期間の評価

Q14 配属先はあなたを十分に活用していたと思いますか。

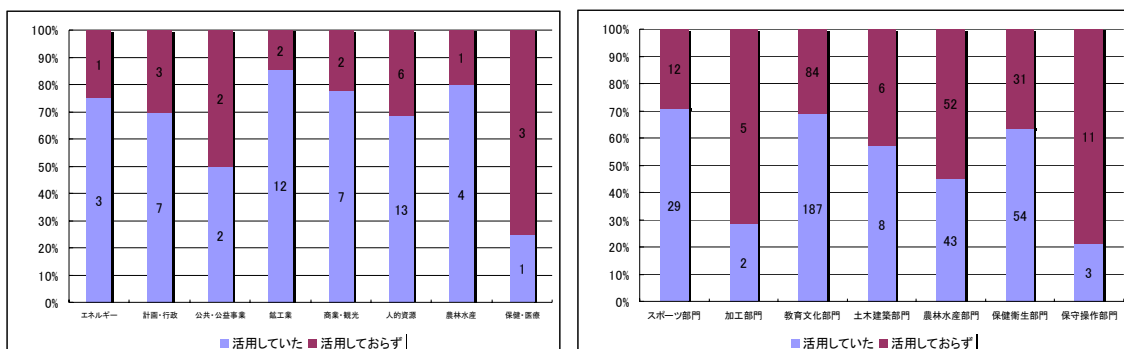


(ア) 派遣地域別抽出



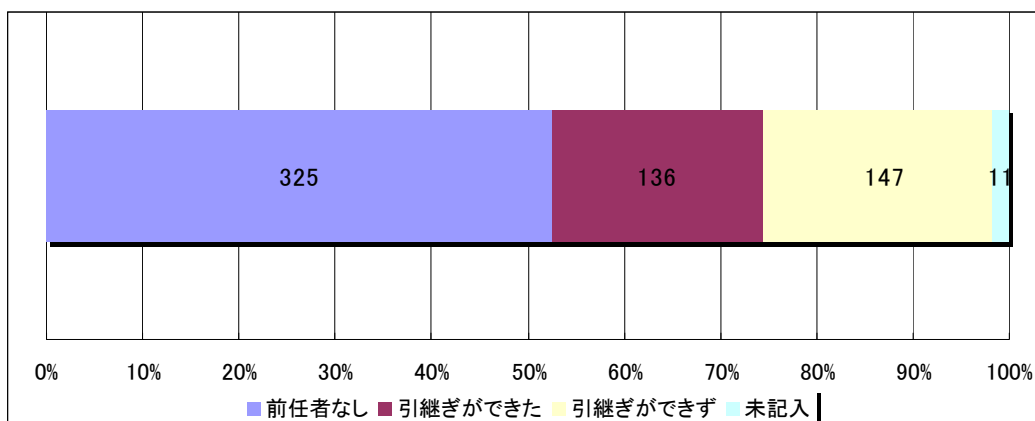
- 各地域、平均して 66%のボランティアが「活用していた」と回答をしているが、その数値よりも中央・南アフリカ地域(61%)、中米・南米(62)からの回答が若干、平均よりも低いことが分かった。

(イ) 職種分野別抽出



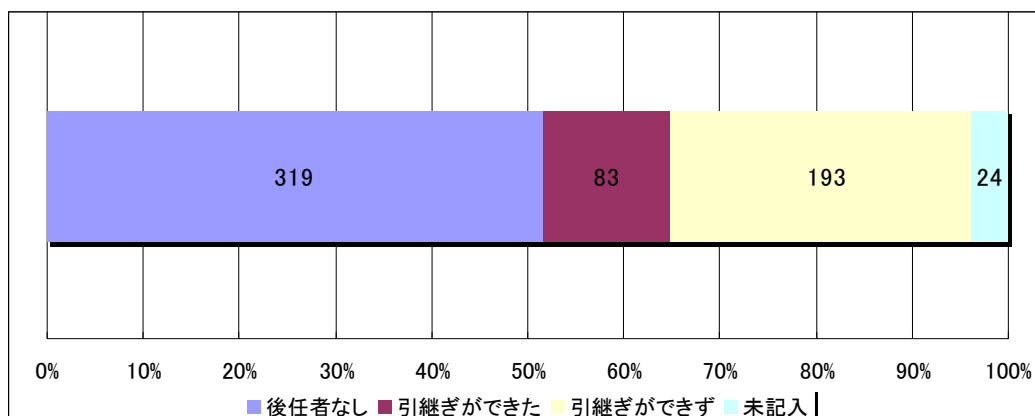
- (左)SV の職種分野別、配属先によるボランティア活用程度への評価 (右)JV の職種分野別、配属先によるボランティア活用程度への評価

Q15 前任者とは引継ぎができましたか。



- 53%のボランティアは「前任者なし」との回答を寄せたが、一方、その他のボランティアでは、前任者との「引継ぎができた」と回答したボランティアは、46%だった。

Q16 後任者とは引継ぎができましたか。



- 52%のボランティアは「後任者なし」との回答を寄せたが、一方、その他のボランティア

アでは、後任者との「引継ぎができた」と回答したボランティアは、28%だった。

Q17 あなたが派遣されたことで、配属先や任国の人々にプラスになった点は何ですか（複数回答可）。

1 配属先の方針、体制、システムの改善	136	22%
2 配属先のサービス・活動内容や規模の拡大	183	30%
3 新規サービス・活動の開始	195	32%
4 配属先の広報効果、認知度の向上	195	32%
5 配属先のスタッフの技術・能力の向上	265	43%
6 日本人の仕事への姿勢や取り組み方のスタッフへの影響	317	51%
7 配属先のインプットの改善（予算配分、人員配置、資機材など）	58	9%
8 配属先がサービスを提供する相手への効果	131	21%
9 その他	53	9%

- ・ 第一に挙げられるポジティブ・インパクトは「仕事への取り組み姿勢」であった。次いで、「配属先スタッフの技術等の向上」である。
- ・ 「8 具体的に」に寄せられた記述回答は以下のとおり。

【SV】

- ・効果的な研修を提供することができた＜エネルギー、中米・南米地域＞
- ・院内における薬局サービス向上による薬局認知度の向上と不良在庫減少に伴う経済的な効果＜保健・医療、大洋州地域＞

【JV】

- ・具体的に村人に、収入向上のいくつかの方法が根付いた＜農林水産、中央・南アフリカ地域＞
- ・フェアトレードでの日本市場開拓＜教育文化、アジア地域＞
- ・異文化を知る＜教育文化、東欧・中央アジア地域＞
- ・農民の意欲増進、情報の共有＜農林水産、中央・南アフリカ地域＞
- ・今までリハビリを受けられなかった障害児にリハビリサービスを提供することができた＜保健衛生、中近東・北アフリカ地域＞
- ・「9 その他」に寄せられた記述回答は以下のとおり。

【SV】

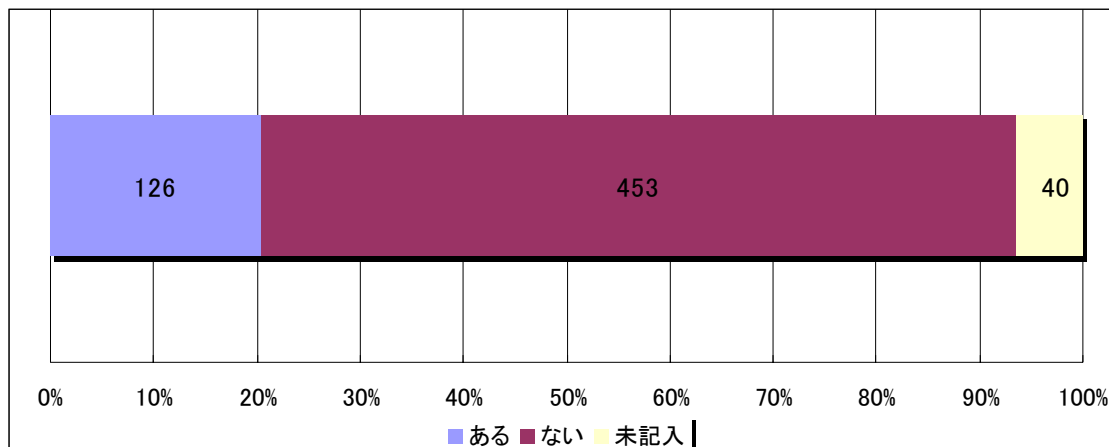
- ・配属先を中心に、近隣の幼稚園や保育所、保護者、小学生、中学生、高校生に対する活動をし、地域の幼児教育への正しい理解が広まった＜人的資源、アジア地域＞
- ・同僚には刺激を与えた。企業人に対しては新市場に目を開かせた＜商業・観光、中米・南米地域＞

【JV】

- ・巡回先小学校の子どもたちと授業を通しての触れ合いの中で、これまでの小さな社会にはない違った対応、様式等を見せてきたことで、子どもたちの世界が広がっていってくれることを期待したい＜教育文化、中米・南米地域＞

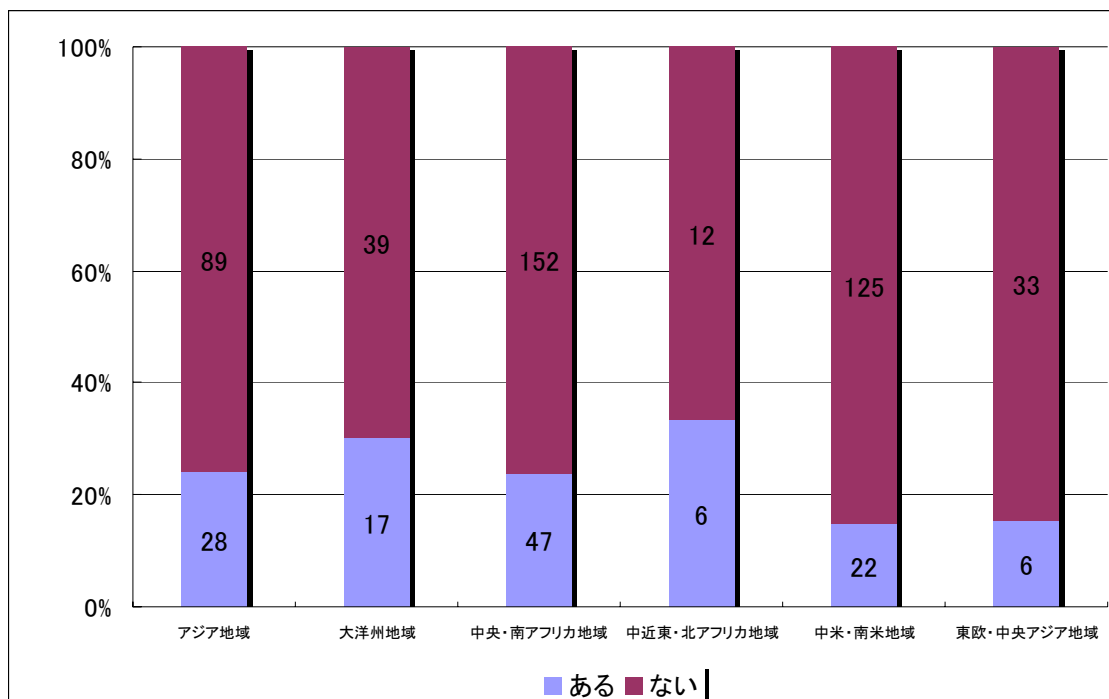
- ・当国への食用たんぱく源のための新種導入、技術開拓＜農林水産、中米・南米地域＞
- ・時間厳守の大切さを学ぶ、改善されつつある＜教育文化、アジア地域＞
- ・日本文化や日本人に興味がある青少年と交流できたので、その意味ではすごくプラスだったと思う（日本に対する行為、関心度は確実に向上した）＜教育文化、アジア地域＞

Q18 あなたが派遣されたことでマイナスとなった点がありますか。



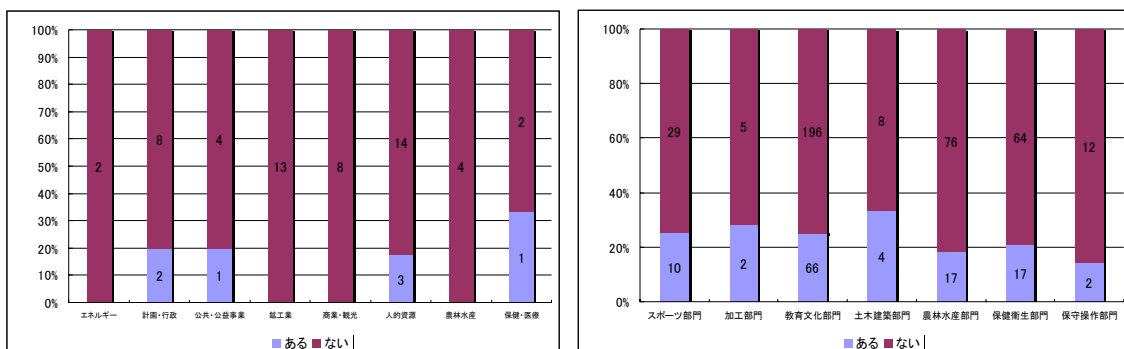
- ・ 73%のボランティアがマイナスとなった点は「ない」と回答している。

(ア) 派遣地域別抽出



- ・ マイナスとなった点が「ある」と回答を寄せた全地域からの平均は 24%である。

(イ) 職種分野別抽出



Q19 (Q18 で 1 と回答した方に) マイナスとなった点を書いてください(記述形式; 回答者数 123 人(20%))。

- 実際の回答を、以下に抽出する。

【SV】

- ・代理で講義をすることもあるため、それをいいことにサボる傾向が見られることもある<公共・公益事業、大洋州地域>
- ・国費の濫用<計画・行政、中近東・北アフリカ地域>
- ・配属先が目標をもって人材育成計画を作らなければならないと考えられる。JOCV の技術移転は C/P に対して非常に効果があると見られるが、まとまった人材育成計画がなければ、技術移転や配属先の長に対してのキャパシティをはるかに超えてしまい、配属先のためにはならないと考える<人的資源、大洋州地域>
- ・本来、大学本校においては、IT 講師の人材を現地人の中から登用するのが本筋で、外国人ボランティアに依存するべきではない。日本人が入り込むことによって、ある意味では現地人の雇用機会を奪い、大学に無用な依存体質を助長していることにもなりかねない<計画・行政、大洋州地域>

【JV】

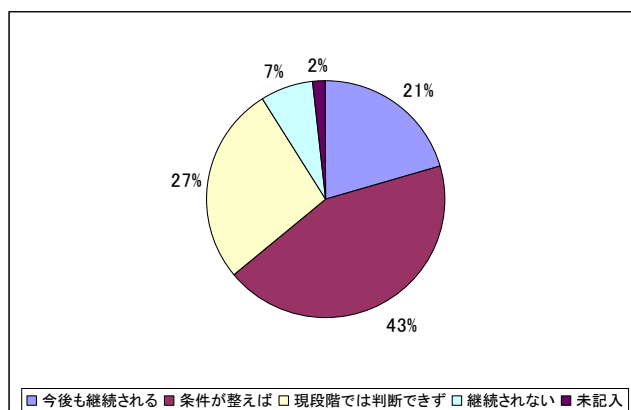
- ・必ずしも日本式の授業法が生徒にとって効果的だとは言えないから。しかし、一定の成果は出せたと思う<教育文化、中央・南アフリカ地域>
- ・自分がコーチとなったことで、これまでのコーチがサボり始めたこと<スポーツ、東欧・中央アジア地域>
- ・語学で苦労したため、その分現地の先生よりも生徒に対する指導がうまくいかなかった。そのため、生徒の理解度も低くなった<加工、中央・南アフリカ地域>
- ・田舎の村で外国人を受け入れるのは、私の生活をサポートするために、それなりの負担があったと思われる<土木建築、アジア地域>
- ・私がカウンターパートを助けるというより、カウンターパートが私の世話係のようになってしま

い、逆に負担を増やしてしまった。また私の派遣や滞在にかかる経費（費用対効果がでなかった）＜農林水産、中米・南米地域＞

・現地スタッフの仕事の増加。それに伴い、スタッフと団体の理事長等上層部との関係の悪化＜保健衛生、中近東・北アフリカ地域＞

Q20 あなたが実施した活動、あるいはあなたが派遣されたことによって生み出された効果は、今後も継続されると思いますか。

今後も継続される	127	21%
条件が整えば	268	43%
現段階では判断できず	169	27%
継続されない	44	7%
未記入	11	2%
計	619	100%

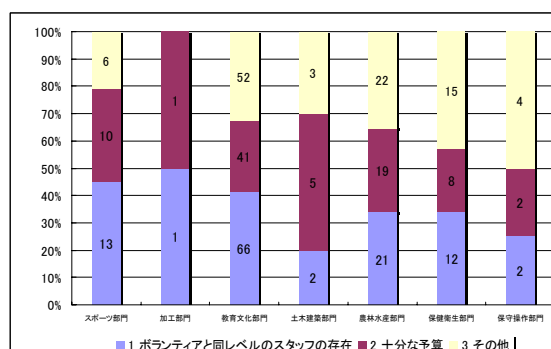
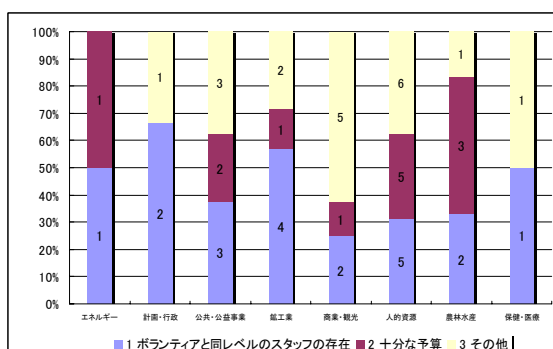


- 活動の継続を期待するボランティアは 64%である。うち、68%(268 人/395)は現地での活動継続への条件を以下(Q21)のとおり挙げている。

Q21 (Q20 で 2 と回答した方に) 条件は何ですか(複数回答可)。

1 ボランティアと同レベルのスタッフの存在	140	52%
2 十分な予算	99	37%
3 その他	122	46%
回答者数	268	

(ア) 職種分野別抽出



- 「3 その他」に寄せられた記述回答は以下のとおり。

【SV】

・組織内における権限委譲が行われ、人事権、予算権限が下に下りること＜公共・公益事業

アジア地域＞

- ・校内各職の責任体制が明確に示され、各自がその職務を果たすという意識をもつ＜公共・公益事業、中米・南米地域＞
- ・少なくとも、研究部門レベルでも研究運営機能、研究方針が管轄省庁と末端のテクニシャンにいたるまで 共有化されていること＜鉱工業、中近東・北アフリカ地域＞
- ・配属先が啓発教材製作に対する取り組み方を見直す必要性もある＜人的資源、大洋州地域＞

【JV】

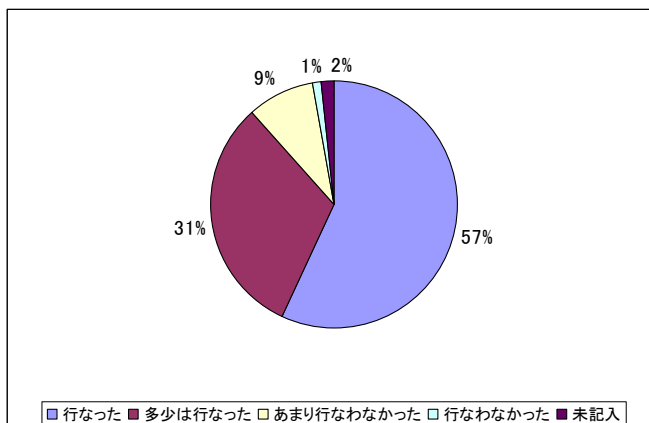
- ・配属先が現地スタッフを継続的に配置し、これまでの活動内容を有効に継続できる人の確保が必要である＜スポーツ、中米・南米地域＞
- ・JICA 事務所、配属先、技プロの支援体制が整うこと、調整員の理解が得られること＜教育文化、中米・南米地域＞
- ・現在は、スタッフの人数が少なく、じっくりとカウンターパートがデザインに取り組むことができないが、配属先が新しいスタッフを雇えて、カウンターパートがじっくりとデザインに取り組むことができること＜教育文化、アジア地域＞
- ・私の後任と共に、別職種(手工芸)隊員の受け入れ＜教育文化、中央・南アフリカ地域＞
- ・市政の改善＜土木建築、大洋州地域＞
- ・予算とも関係するが、公営の苗畑が適切に運営されること＜農林水産、中央・南アフリカ地域＞
- ・カウンターパートの仕事の負担が大きすぎる。スタッフを増やすか、仕事を他の職員と分担しないと効率は上がらない＜保健衛生、中米・南米地域＞
- ・機材が充分にあること＜保守操作、中央・南アフリカ地域＞

(2) 視点Ⅱ 開発途上国・地域と我が国との間の友好親善及び相互理解の深化

- 国際親善・二国間交流について伺います。

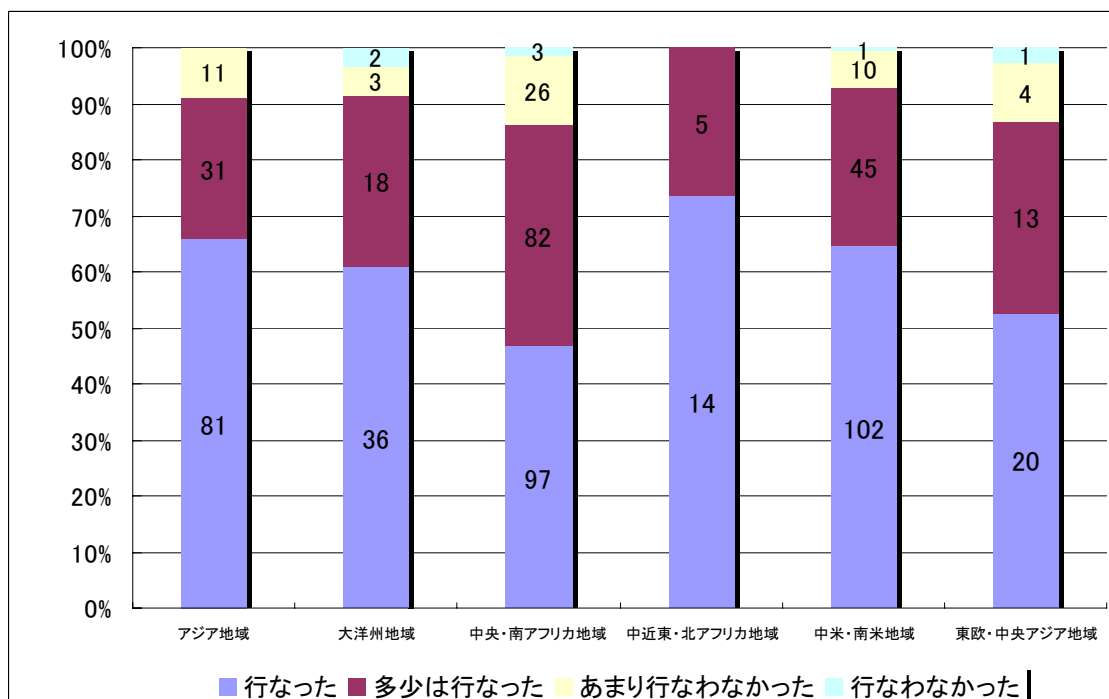
Q22 任期中、配属先での業務以外で任国の人々と交流活動を行ないましたか。

行なった	353	57%
多少は行なった	194	31%
あまり行なわなかった	54	9%
行なわなかった	7	1%
未記入	11	2%
計	619	100%



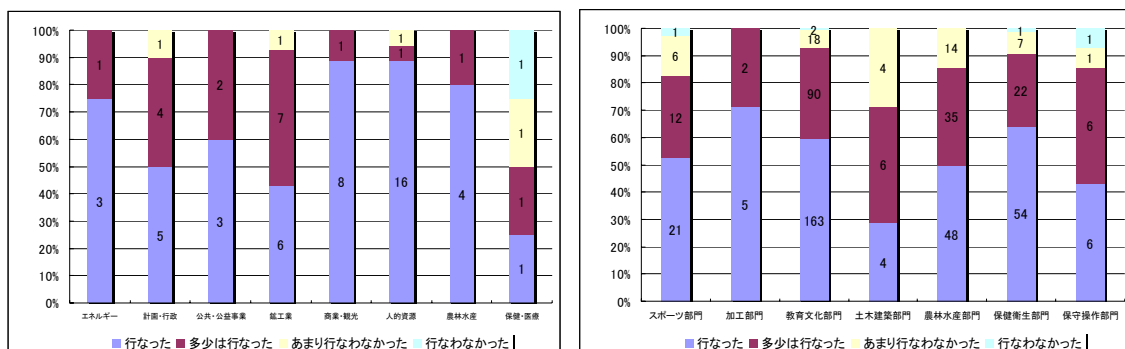
- ほぼ 90%のボランティアが、現地の人々・団体との何かしらの交流活動を行なっている。

(ア) 派遣地域別抽出



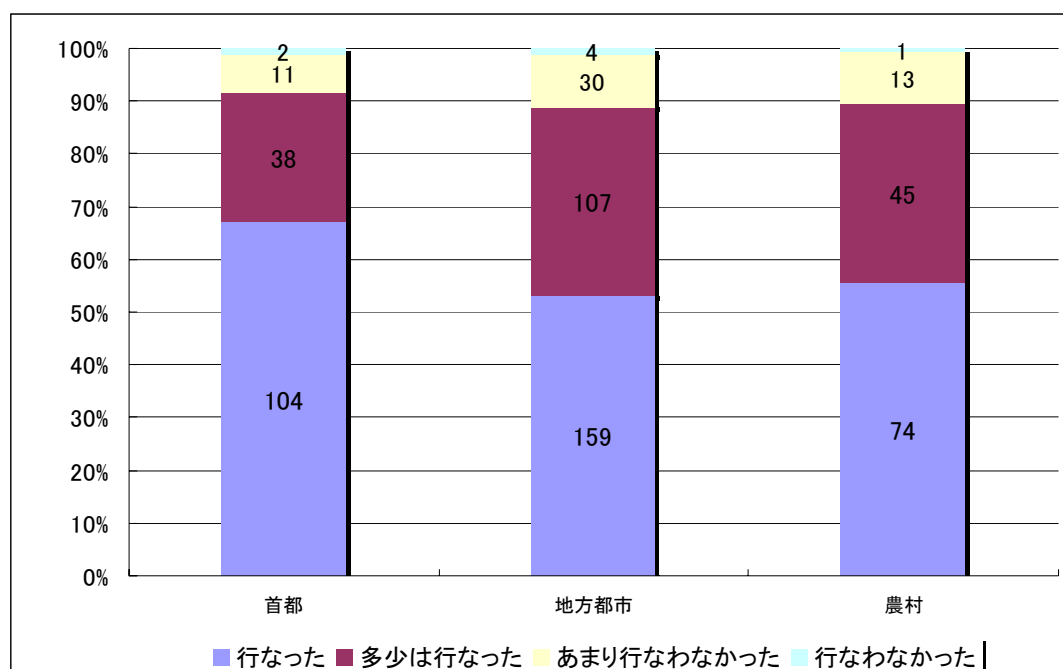
- 「行なった」、「多少は行なった」への回答数を合算した割合の平均は 91%である。「行なった」のみを抽出した場合では 61%となる。うち、中央・南アフリカ地域(47%)と東欧・中央アジア(53)が若干低い結果となった。

(イ) 職種分野別抽出



- (左)SV の職種分野別、任国での交流活動の頻度 (右)JV の職種分野別、任国での交流活動の頻度

(ウ) 活動地域別抽出



Q23 (Q22 で 2～4 と回答した方²²に)具体的にどのような交流活動を行ないましたか(複数回答可)。

1 日本語を教えた	304	51%
2 日本の地理を紹介した	201	33%
3 日本の文化を紹介した(ゲームや折り紙などの遊びも含む)	403	67%
4 配属先での業務以外のボランティア活動をした	192	32%
5 地域の集会やセミナーに参加した	169	28%
6 地域のスポーツ活動に参加した	171	28%
7 ごく簡単だが雑談レベルで日本のことを話している	478	80%
8 その他	122	20%

- ・「4 配属先での業務以外～」の具体的な活動例は以下のとおり。

【SV】

- ・私的レベルで NGO に所属し活動した<計画・行政、中近東・アフリカ地域>
- ・週一回、保育園児と遊んだ。一緒に歌ったり、食事をしたり、お昼寝をしたりした<人的資源、中近東・北アフリカ地域>
- ・市役所主催の環境問題についてのセミナーの提案者として、日本の資源回収やゴミ分別処理の方法などを提案する<商業・観光、大洋州地域>

【JV】

- ・町の清掃活動
- ・日本文化祭等のイベントを実施し、文化交流活動への参加
- ・近隣の病院や孤児院等への訪問
- ・ヘルス・キャンプへの協力

- ・「8 その他」に寄せられた実際の回答を以下に要約する。

【SV】

- ・日本留学を希望する学生にガイダンスを実施した<未記入、中近東・北アフリカ地域>
- ・写真を撮って、プレゼントをしている<公共・公益事業、中近東・北アフリカ地域>
- ・子供のために栄養基礎知識普及のためのポスター描き<人的資源、中米・南米地域>
- ・ハウスキーパーに対して、計画時に家事実施表を作り、いつ実施したかを記入させた。借金の申し込みが頻繁にあった。そのたびにさらに改善事項を記載させた<エネルギー、中央・南アフリカ地域>
- ・任国文化への理解として、任国伝統のダンス教室や教会などに通った<保健・医療、大洋州地域>
- ・住民とのコミュニケーションを活発にして、地域の文化活動や行事にかかわった<計画・行政、大洋州地域>

【JV】

- ・広島長崎、原爆展開催への支援
- ・日本料理をふるまう

²² Q22 で 2～4 と回答を寄せたボランティア 601 人を対象とした。

- ・近所のお宅への訪問(夕食などをごちそうになる、など)

Q24 (Q23 でチェックした項目がある方に) 上記でチェックした交流活動について、具体的に書いてください(記述形式; 回答者数 601 人(97%))。

- ・ 実際の回答を、以下に幾つか抽出する。

【SV】

- ・時々行われる社交時間の会話に参加し、日本のことや文化、習慣に関しての紹介等の話をした<公共・公益事業、大洋州地域>
- ・沖縄の郷土芸能(三味線や横笛)を紹介し、実際に演奏活動を行った<計画・行政、中米・南米地域>
- ・1 派遣先の訓練生に週 3 回、各 1 時間、15 ヶ月に亘って日本語を指導した 2 ある学校で原爆の話をしたので資料がほしいとの依頼があり、資料を準備して 10 年生(高校 1 年に相当)に 1 時間ほど話をした 3 任地で行なわれたマラソン大会に参加をした<鉱工業、アジア地域>
- ・日本のアニメがよく知られていることに着目して、「ピカチュウ折り紙」を考案した。これを日常的なコミュニケーションに活用するとともに、日本文化紹介のイベントなどにも参加して、交流に努めた。全 JV にも紹介し、青少年活動などにも利用してもらった<未記入、中近東・北アフリカ地域>
- ・日本のイメージとして先端工業国のイメージがあるが、この裏には日本メーカーの製品管理の厳しさと統制の取れた労働についてよく話をした。当地では音楽をかけながら仕事をするなどが日常化しているが、「日本では考えられないこと」と述べた<鉱工業、中米・南米地域>
- ・地元のダンス教室に通ったり、教会に通ったりした。請われれば、いつでも誰にでも日本語の会話などを教えた<保健・医療、大洋州地域>

【JV】

- ・活動以外にも、ストリートチルドレンケアセンター「AEMO」にて子どもにバレーボールを指導。箸の使い方を教えた。地域の美化活動に参加 ・現地人とおしゃべりしながらお茶のみ。冠婚葬祭への出席や食事などをともにした<スポーツ、中央・南アフリカ地域>
- ・任国に起きた大地震後、他 JV の勤務である病院にたくさんの被災者が搬送され、野戦病院と化していた。自分の看護師としての小児科経験から、子どもたちに遊びを通してケアに関わった。他障害者 NGO と交流をもち、彼らの行っているイベントや勉強会に参加した<加工、アジア地域>
- ・配属先の同僚や友人に簡単な日本語を教えた。出身地の話になったとき、JICA 手帳で日本の地図を見せながら地理についての説明をした。広島、長崎の原爆展の手伝いをした。日本の文化や価値観の説明などをした<教育文化、アジア地域>
- ・学校でサッカーをしたり、日本についての授業をしたり、特に日本人の勤勉さや経済発展の

背景などについて話した。また、生徒達を自宅に呼んで交流を深めたく教育文化、中央・南
アフリカ地域＞

・毎日曜日、教会サービスに出席した。そこで知り合った村の人々と非常に仲良くなり一緒に
遊んでいた

・町の各委員会に参加した。例：遺産委員会、旅行組合、棧橋委員会、町の整備委員会。メン
バーはあまり変わらないが、非常に情報を多く得ることができた土木建築、大洋州地域＞

・JV のうちの有志で構成される古着委員会があり隊員連絡所に寄付された隊員の衣類を毎
年、現地の人々（任国で社会差別を受けている貧しい民族）に提供することを活動としている
＜農林水産、アジア地域＞

・日本語教室を病院の職員対象で行なった。折り紙教室を入院（外来）患者対象に行なった。
看護学校の訪問で、日本文化の紹介、看護の紹介と体位交換の講習会を実施した＜保健衛
生、中米南米地域＞

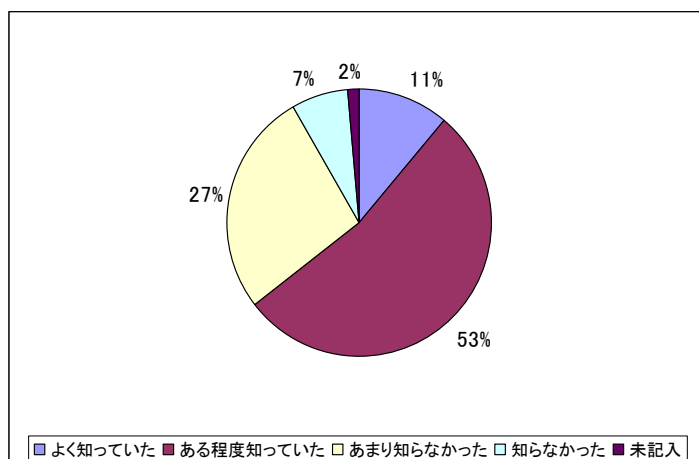
・交流活動という程のものではなく、友人、知人に日本の気候や文化等話した。想像以上に
日本のことを知っているが、他のアジアと同一に思っているため、私の知る限りのアジアにつ
いての話もよくした＜保健衛生、アジア地域＞

・友人に地理、日本語、折り紙などを教えた＜保守操作、中米・南米地域＞

- あなたの配属先での活動や、その他の交流活動の結果、配属先の上司や同僚、地
域住民の日本や日本人に関する認識が変化したと思いますか。赴任直後と現在を
比較して下さい。

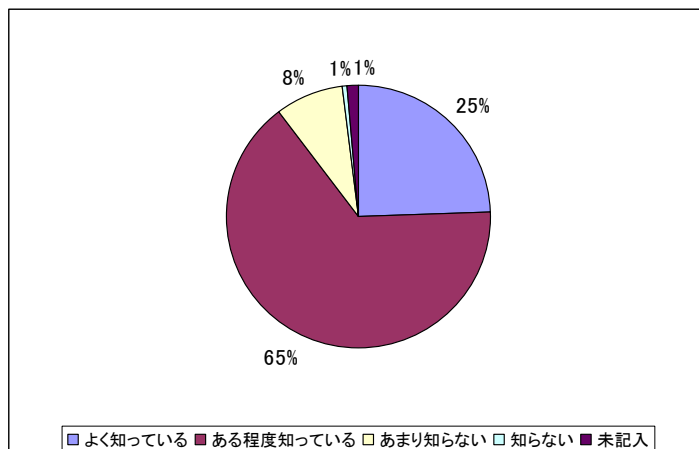
Q25 赴任直後、配属先の上司や同僚は…

よく知っていた	69	11%
ある程度知っていた	330	53%
あまり知らなかった	168	27%
知らなかった	44	7%
未記入	8	2%
計	619	100%



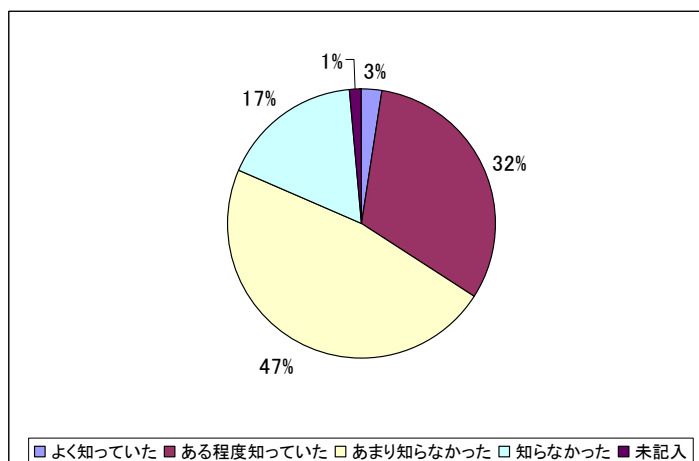
Q26 現在、配属先の上司や同僚は…

よく知っている	152	25%
ある程度知っている	403	65%
あまり知らない	52	8%
知らない	4	1%
未記入	8	1%
計	619	100%



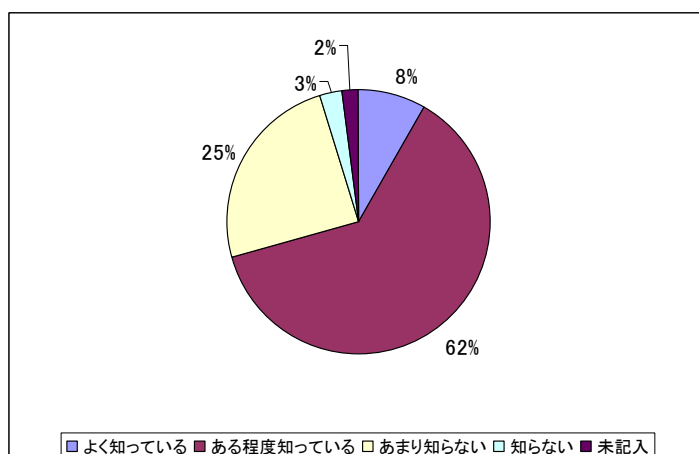
Q27 赴任直後、地域住民・周囲の人々は…

よく知っていた	15	3%
ある程度知っていた	196	32%
あまり知らなかった	292	47%
知らなかった	107	17%
未記入	9	1%
計	619	100%



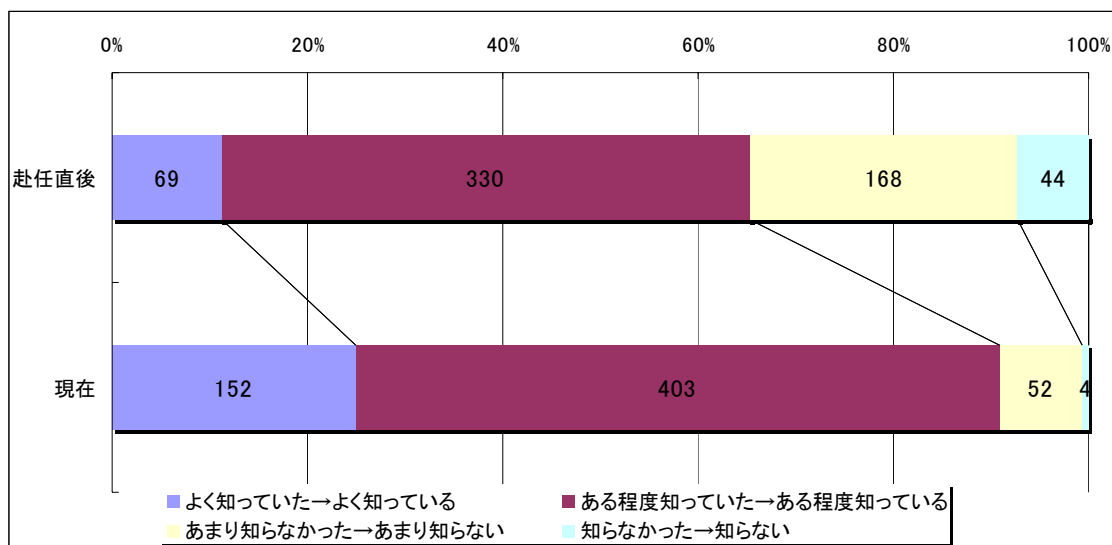
Q28 現在、地域住民・周囲の人々は…

よく知っている	51	8%
ある程度知っている	386	62%
あまり知らない	152	25%
知らない	18	3%
未記入	12	2%
計	619	100%



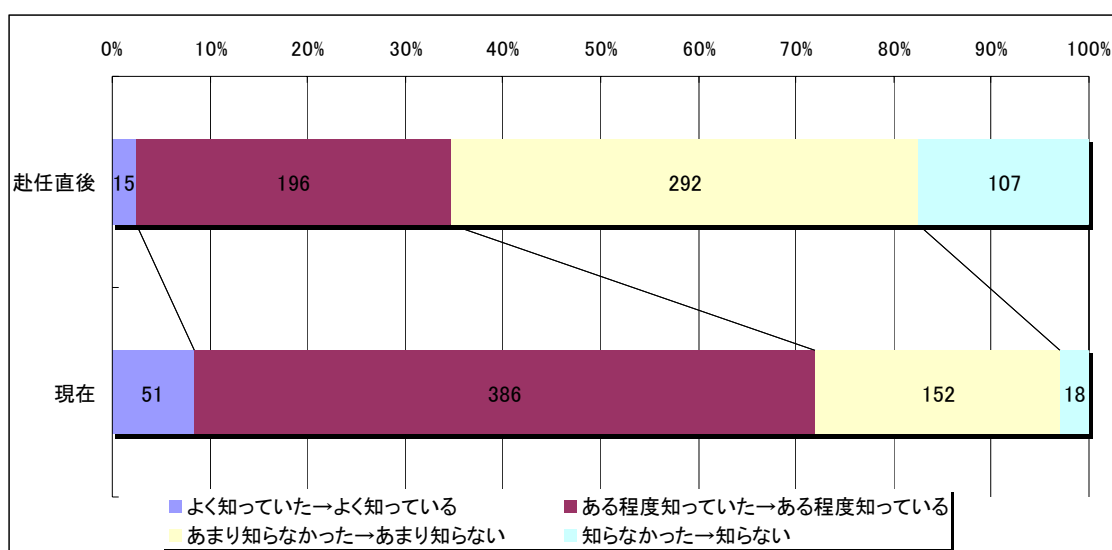
(ア) 通時変化

1) 配属先による、日本や日本人への認知度



- 20%強、日本や日本人への認知度が増していることが分かる。

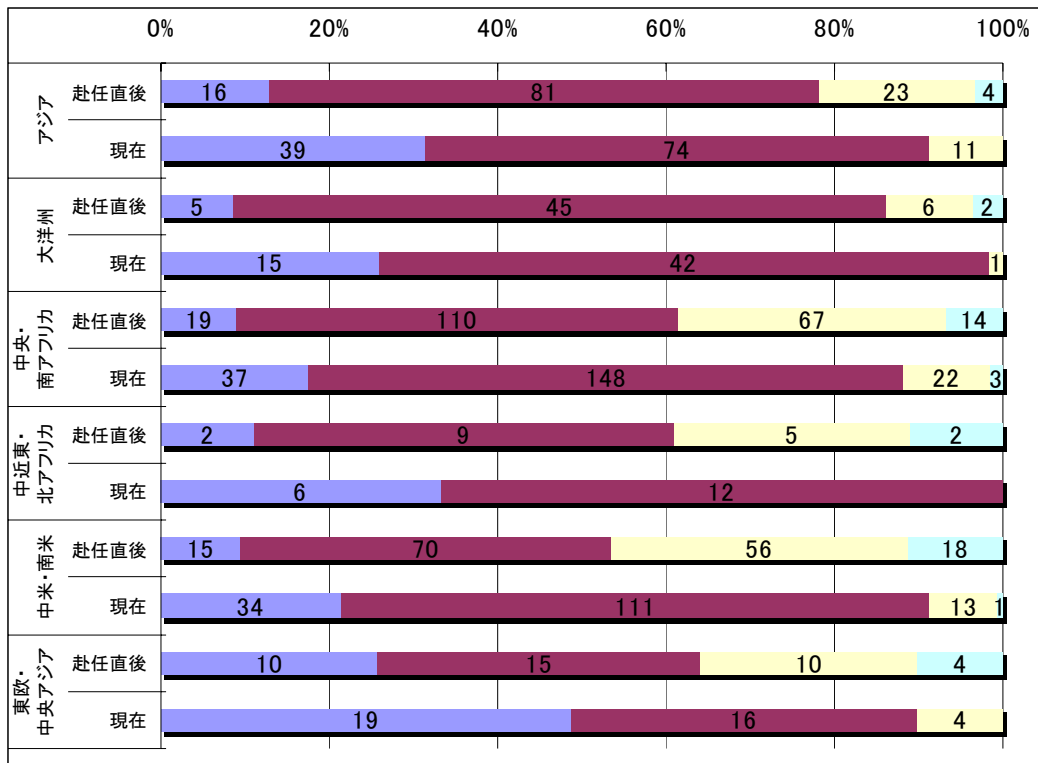
2) 地域住民・周囲の人々による、日本や日本人への認知度



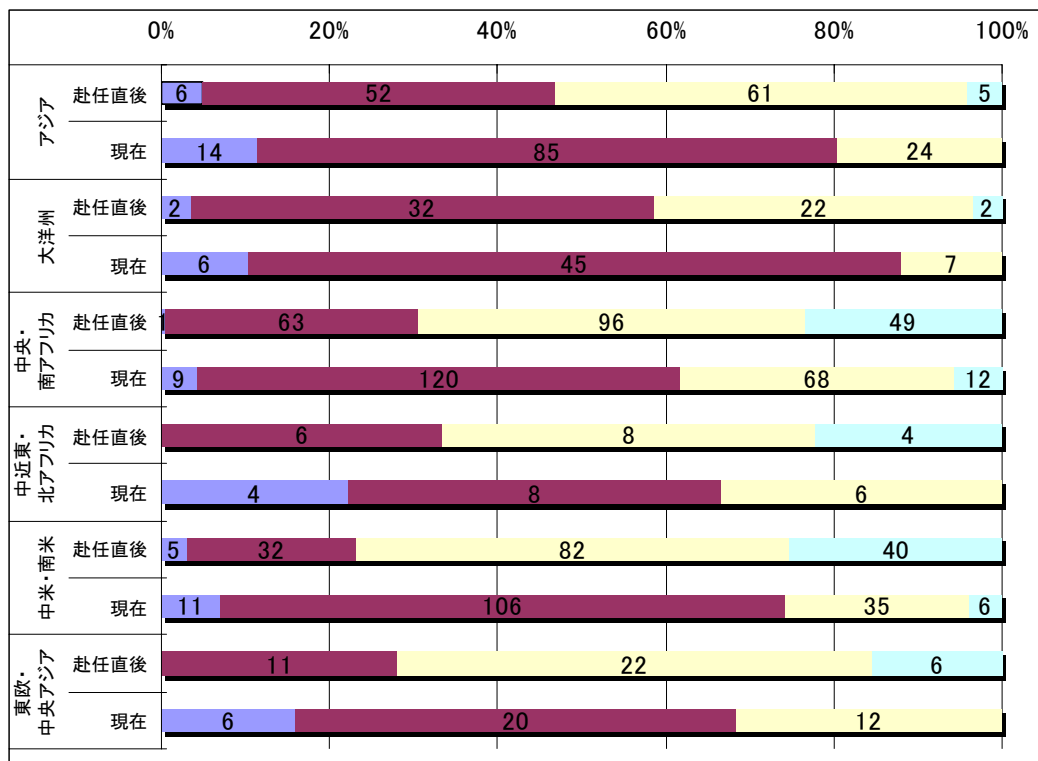
- 40%弱、日本や日本人への認知度が増していることが分かる。

(イ) 派遣地域別通時変化

1) 配属先

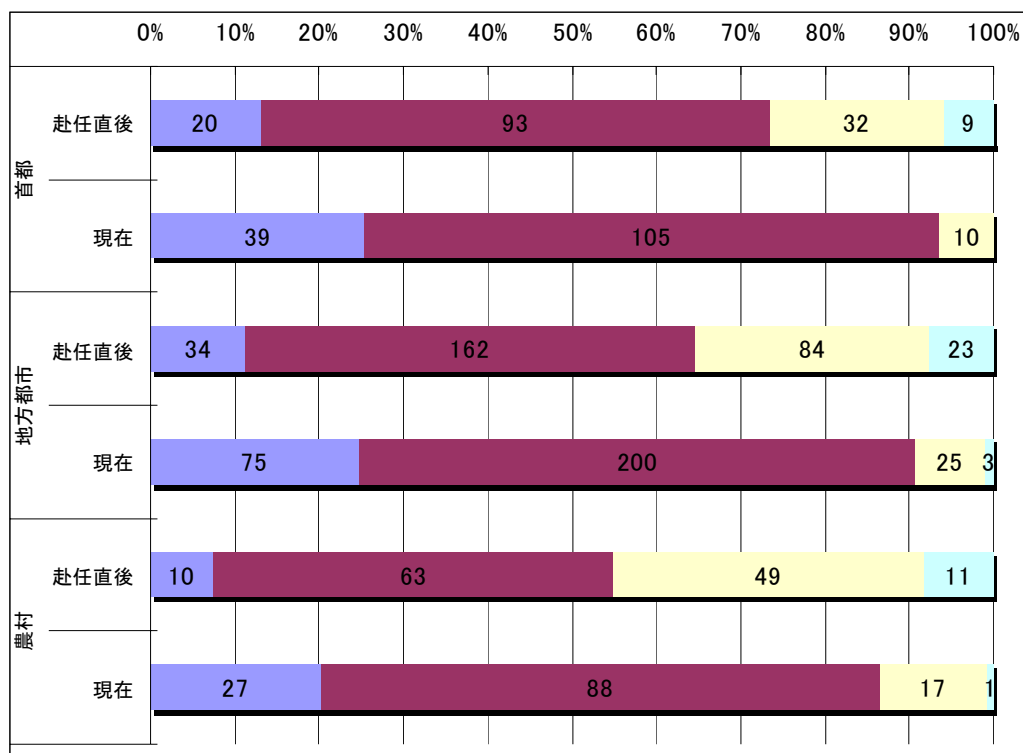


2) 地域住民・周囲の人々

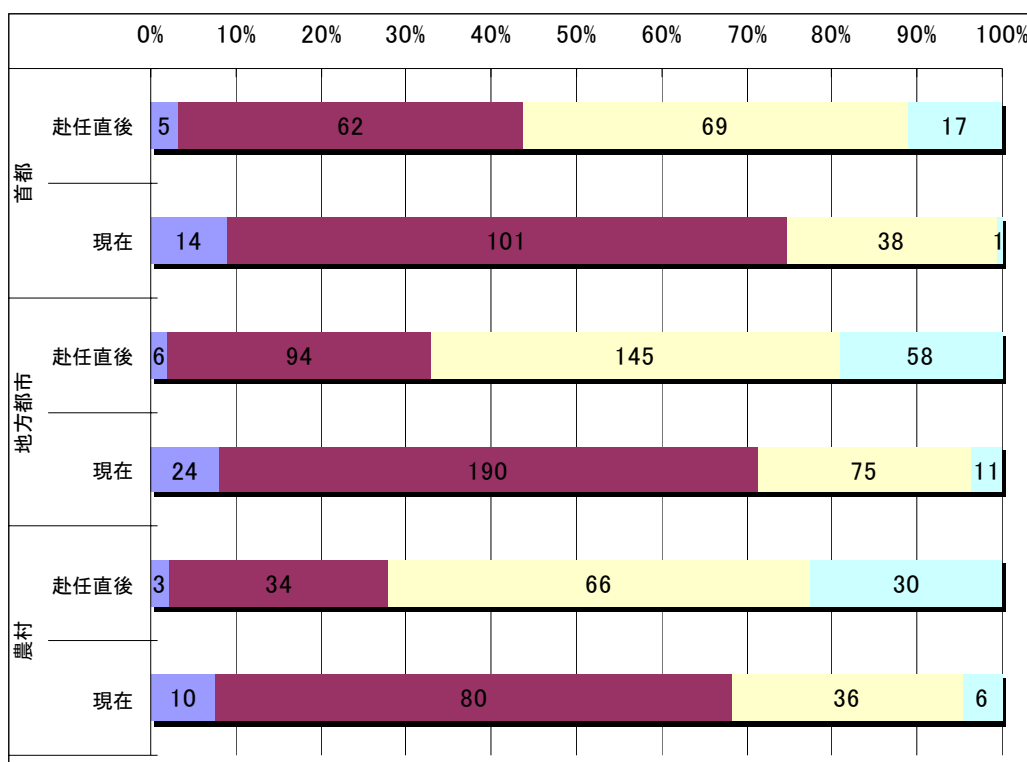


(ウ) 活動地域別通時変化

1) 配属先



2) 地域住民・周囲の人々



Q29 (Q25～Q28 で赴任直後と現在で変化があった方に) 日本に関する認識がどのように変化したのか、変化の例やエピソードを具体的に書いてください(記述形式; 回答者数 326 人(53%))。

- 実際の回答を、以下に幾つか抽出する。

【SV】

・配属先の上司や同僚は SV 活動とは別の学会で訪日や ODA(JBIC)支援等で日本のことを知る機会があった。むしろ断片的ではあるが、周囲の人に日本の就職事情などを話すので少しは知っている。また、新聞やテレビなどのメディアに日本関連の記事や放送に関心が高くなったと言える<鉱工業、中近東・北アフリカ地域>

・日本、日本人に対して親近感が増した。町の子供たちがすれ違うときに気軽に挨拶をするようになった。時として「こんにちは」と声をかけてくる<人的資源、中近東・北アフリカ地域>

・日本人の勤勉さや実直さが分かってきて、事務所内で会話が少なかったのが少なくなって、仕事の時間が多くなってきた<鉱工業、中米・南米地域>

・「日本人は組織型で勤勉」という認識から「努力して獲得して維持する積極型」という認識に変わった。技術支援の過程で日本が敗戦後の窮状から繁栄へと進んだ過程やオイルショック時の省エネに注いだ努力と実績を紹介する中で、賞賛の気持ちとともに認識の変化が感じられた<エネルギー、中米・南米地域>

【JV】

・日本と中国、韓国を全て同じ国だと思っている人が多く、全く違う国であることを説明し、アジアの中にもいろんな文化圏があることを理解してもらえた。第二次大戦に敗戦したことから日本はアメリカを憎んでいて、今も敵対国であると思っている人がおり、原爆展を通じて現在の日本の姿を紹介した<スポーツ、中米・南米地域>

・地理的なことは理解してもらった。例えば、中国と日本は違う場所にある、など。文化に関する問題も理解してもらっている。例えば、日本人が常に着物を着用しているわけではない、など<加工、中米・南米地域>

・「日本人が来たらしい」という噂が広まったのだろう。見知らぬ人々が次々と配属先や家にやってきて「日本語を教えて」「この日本語訳して」など、交流が始まった<教育文化、アジア地域>

・日本に関することよりも、自分のことを以前より理解してもらえるようになった<保健衛生、大洋州地域>

・初めの頃、日本人はよく「金持ちだ」と言われたが、よく話をした人は「日本人はよく働くから金持ちなんだ」と言うようになった<保守操作、中央・南アフリカ地域>

・日本食への興味は持ち始めたものの、実際に食べさせようとすると拒否された<保健衛生、中央・南アフリカ地域>

・時間や仕事になるべくルーズになることがなかったので、勤勉な日本人のイメージを裏づけ

できた＜教育文化、中近東・北アフリカ地域＞

・前任者がいたおかげで、赴任当初から日本人に慣れている感じが配属先にはあったように思える。また、柔道関係でも日本人に対する敬意があり、こちらが恐縮する場面もあった。メリハリがあり、冗談交じりで接してくれる所が自分としては、ありがたいと思った＜スポーツ、東欧・東アジア地域＞

・日本の料理は健康的で長寿に寄与することを知り、レシピについてたくさん教え、調味料も考えて入れるようになったと言われた。宗教観の違いについて、他国の考えもあることを知人が広めるようになった＜農林水産、東欧・中央アジア地域＞

Q30 (Q25～Q28 で赴任直後と現在で変化があった方に) 変化の理由は何だと思いますか (記述形式; 回答者数 310 人(50%))。

- ・ 実際の回答を、以下に幾つか抽出する。

【SV】

・結局は言葉と行動を通しての人間性だと思われる。相手家族にもお互いに理解しあうことが第一で、どちらも同じ地球人である認識と、私の場合はカウンターパートに恵まれていたとつくづく感じます＜公共・公益事業、大洋州地域＞

・SV の仕事の成果。特に、教科書編纂のプロセスと出来上がった教科書を見たので、毎日のようにコミュニケーションで、この話題を提供したので＜農林水産、中米・南米地域＞

・人の生活習慣というのは、簡単に変化しないもので、理屈を言われても変えることはできない。ともに働きともに楽しみを共有するうちに、お互いのよいところを取り入れるようになった。時間や規則を守ること以外は注意していないが、見て覚えたと思う＜人的資源、アジア地域＞

・アラビア語での挨拶を覚え、親しく声をかけ、現地の習慣には敬意を払ったつもりでもある＜計画・行政、中近東・アフリカ地域＞

・日本の歴史や文化、経済や工業、学校教育など JICA が製作した CD を、事務所や研修会イベント等で紹介したことが大きいと思う。これからも科学技術や環境問題への対応、国際協力事業などあらゆる機会を利用して積極的に紹介することが必要だと思う＜計画・行政、中米・南米地域＞

・配属先では、日本人の勤務姿勢や仕事ぶりが尊敬の念を抱かせる一因と考えられる。アパート住人との交流のなかでは、日本人は上下隔てなく話しかけてくことや、現地の人の目線で話をする姿勢、態度という面が、特に親近感を感じさせるようである＜商業・観光、中米・南米地域＞

【JV】

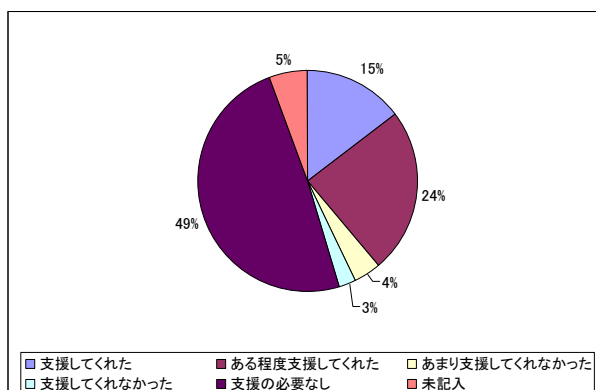
・日本人が身近にいて日本で関わるニュースに敏感に＜教育文化、アジア地域＞

・現地の人々と一緒に生活することにつくる＜保健衛生、アジア地域＞

- ・自分自身がある程度現地の言語を話せ、コミュニケーションをとれる点が大きかったと思う
＜教育文化、アジア地域＞
- ・娯楽が少なく、村以外の情報が得にくい環境もあり、村人・生徒の知的欲求が強かった＜教育文化、大洋州地域＞
- ・私との交流が多かった人ほど、日本語や日本文化への認識が多かった。交流したことで、日本に興味を持ってくれたからだと思う＜教育文化、大洋州地域＞
- ・臆せず声をかけていったから＜教育文化、中央・南アフリカ＞
- ・ボランティア自身の活動(休まず職場に出勤する)＜教育文化、中央・南アフリカ＞
- ・日本料理を振る舞う⇒料理よりも気持ちを喜んでもらえる。共に過ごす時間をたくさんもつ。できるだけ授業準備等の仕事を自宅ではなく配属先でする＜教育文化、中近東・北アフリカ地域＞
- ・ボランティアによる積極的な文化交流や現地の人々とのコミュニケーション＜スポーツ、中南米地域＞
- ・現地の人々が好奇心旺盛で、いろいろと興味を持って質問してくれるから＜教育文化、中米・南米地域＞

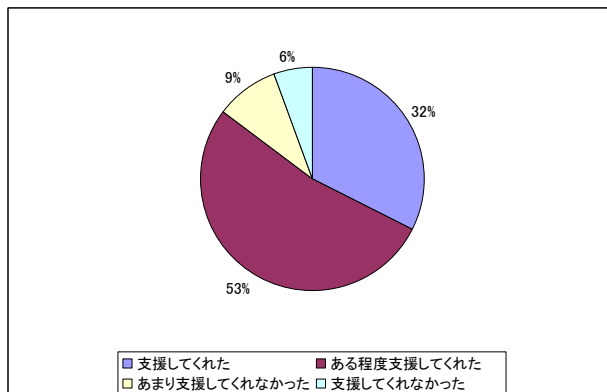
Q31 任国の人々との交流活動に関して、在外事務所の支援体制はどうでしたか。

支援してくれた	91	15%
ある程度支援してくれた	149	24%
あまり支援してくれなかった	25	4%
支援してくれなかった	16	3%
支援の必要なし	304	49%
未記入	34	5%
計	619	100%



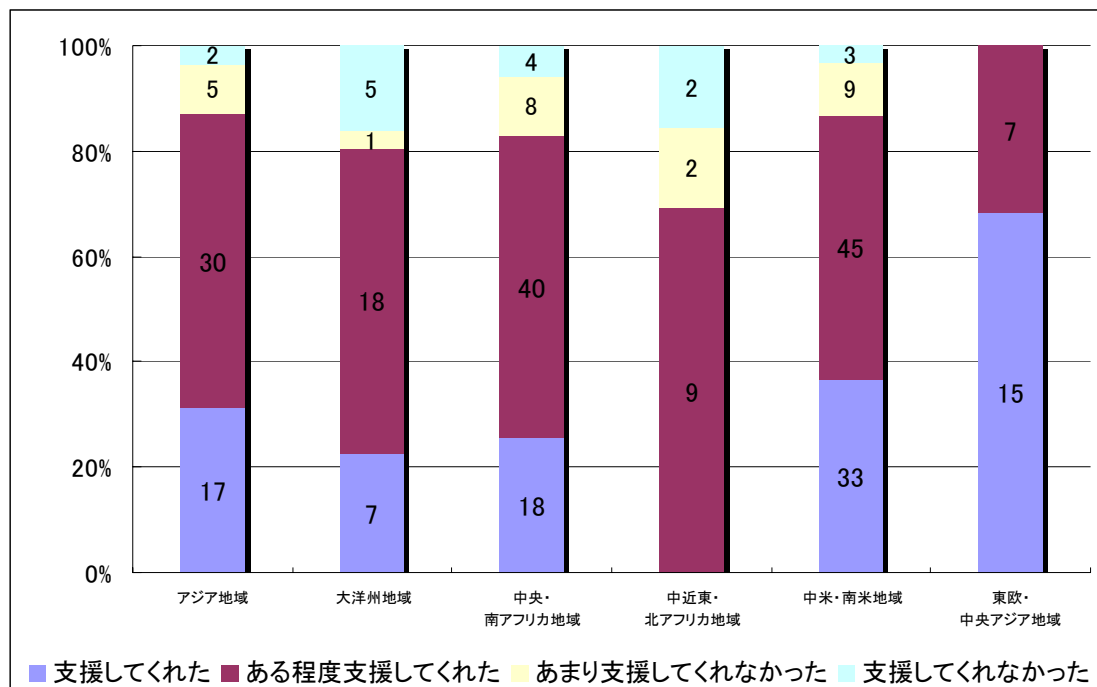
(ア) 支援の必要がある、としたボランティアのみ抽出

支援してくれた	91	32%
ある程度支援してくれた	149	53%
あまり支援してくれなかった	25	9%
支援してくれなかった	16	6%
計	281	100%

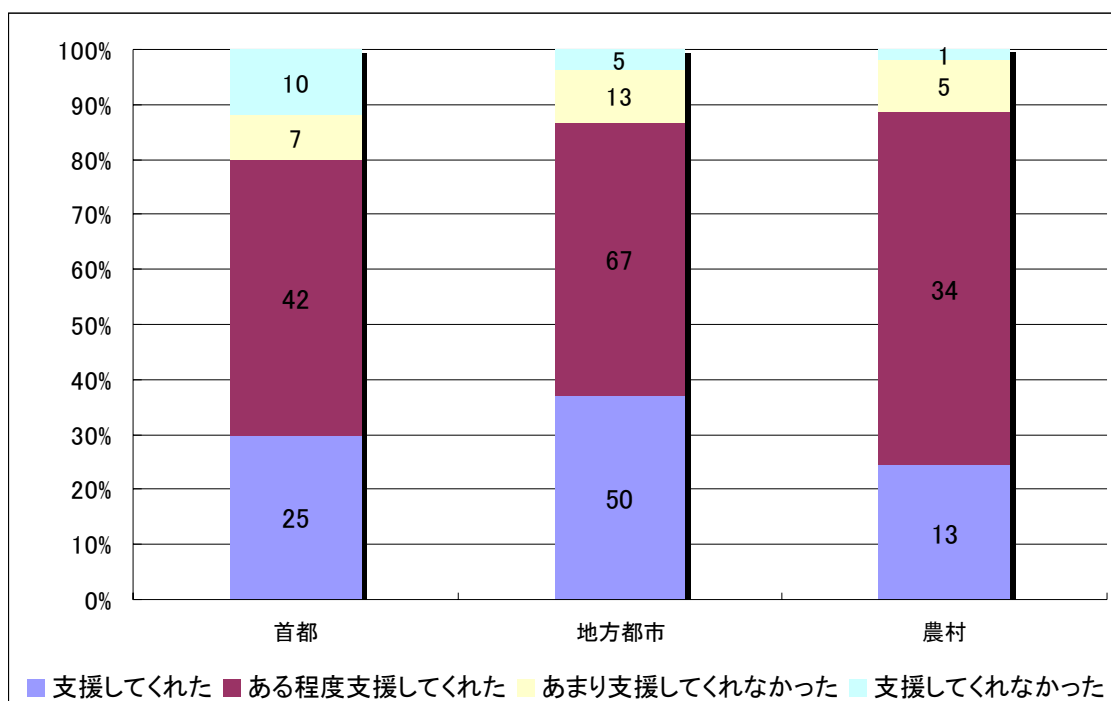


- 支援の必要を感じるボランティアのうち、85%は現地での事務所による支援を肯定的に評価していることが分かる。

(イ) 派遣地域別抽出(支援の必要を感じるボランティアのみ)



(ウ) 活動地域別抽出(支援の必要を感じるボランティアのみ)



Q32 (Q31 で 3～4 と回答した方に) 具体的にどのような支援が有効だったか、書いてください
(記述形式; 回答者数 217 人(35%))。

- 実際の回答を、以下に抽出する。

【SV】

- ・JICA の研修に参加した人たちの同窓会のようなサークルがあり、それらの活動への参加等の支援を行ってくれた<公共・公益事業、大洋州地域>
- ・交流活動に必要な情報を提供してもらえた<農林水産、中米・南米地域>
- ・小生の交流活動を精神的に支援してくれた<商業・観光、アジア地域>
- ・日本語の教材を本部より取り寄せてくれた<計画・行政、中近東・北アフリカ地域>
- ・盗難事件で、当事者の私に代わり JICA が配属先と話をしてくれた。当事者はどうしても感情が出るので、冷静でいることができる調整員が表に立ってくれたのは賢明だったと思う<鉱工業、中米・南米地域>
- ・1 楽器の不足やコピー機の必要に迫られ、困っているときに、携行機材の制度利用を勧められ、それぞれ実現し、技術移転に大きな効果をもたらしてくれた。2 楽譜の不足に悩んでいるときに、技術情報支援制度を紹介され、楽譜が入手できた<人的資源、中米・南米地域>
- ・JICA 事務所主催の省エネ促進プロジェクト発足準備ワークショップに参画するように、配属先と小生に働きかけてくれ、その後の日本調査団の配属先査察訪問の際も、配属先と一緒に活動しやすいように対応してくれた<エネルギー、中米・南米地域>

【JV】

- ・必要資金・物資等の援助、アドバイス(過去の隊員がどのように活動をしていたか)など<スポーツ、中米・南米地域>
- ・隊員総会でのサポート、任国関係機関との橋渡し<加工、中央・南アフリカ地域>
- ・安全管理体制支援<教育文化、中米・南米地域>
- ・アドバイスをたくさん頂いた。任地に来て頂いた<教育文化、中央・南アフリカ地域>
- ・任国内に限らず、ボランティア関連の情報提供を随時行ってくれた<土木建築、中央・南アフリカ地域>
- ・ボランティアが活動に必要なことで、ルール上ダメなことでも「ルールですから」と終わりにせず、JICA に掛け合ってくれた調整員がいたこと。対応が事務的ではなく、それがよかった。こちらも頑張って活動先と交渉してみようという気になれた<農林水産、中米・南米地域>
- ・「世界の笑顔のために」プログラムにて、サッカーボールをいただき、現地の人に喜んでもらうことができた<農林水産、中央・南アフリカ地域>
- ・支援経費の認可。活動の見学と共に協力してくれた<保健衛生、アジア地域>
- ・赴任直後、ホームステイ先でのトラブルに対応してすぐに対応してくれた<保健衛生、中米・南米地域>

・物品の貸し借り、行き詰った時に相談にのっていただいた＜保守操作、中米・南米地域＞

Q33 (Q31 で 1～2 と回答した方に)どのような支援があればよかったか、書いてください(記述形式;回答者数 30 人(5%))。

- ・ 実際の回答を、以下に抽出する。

【SV】

・業務費範囲内での支援で済ませた。業務費の増額希望＜鉱工業、中米・南米地域＞

・「どのような支援」というよりも「支援するのか、しないのか」。「ボランティアの勝手だ」という言葉も不適切。いずれにしろ、在外事務所の判断基準が見えない、あるいは分かりにくい＜商業・観光、中米・南米地域＞

・在外事務所の支援はあったとかなかったとかではなく、自然体であったといった方がいいのではないか。必要なときは相談する。日本文化紹介などの交流やワークショップなどでは、物心両面で支援があると聞いている＜鉱工業、中近東・北アフリカ地域＞

・JICA 職員が自ら現地のさまざまな NGO と積極的に交流計画をもち、且つそれを実行することにより、SV 活動をそれに活かすことくらい考えてもいいと思った＜計画・行政、中近東・北アフリカ地域＞

・レクリエーションとして、テニスやバレーボールなどの交流やスポーツ観戦、音楽鑑賞会等現地の人々や日本人会との交流の機会があればと思う＜計画・行政、中米・南米地域＞

・日本人だけが参加するのではなく、現地人も参加できるような行事を企画する。或いは、日本人だけがかわれるような広報をするのではなく、現地の人たちも享受できるように情報の伝達方法を工夫するなど、常に二国間交流を前提にした支援活動をしてほしかった＜計画・行政、大洋州地域＞

【JV】

・支援の依頼はしませんでした。過去の隊員の資料、報告書等がもう少し整理されていれば、もっと有効な活動ができたと思います＜土木建築、アジア地域＞

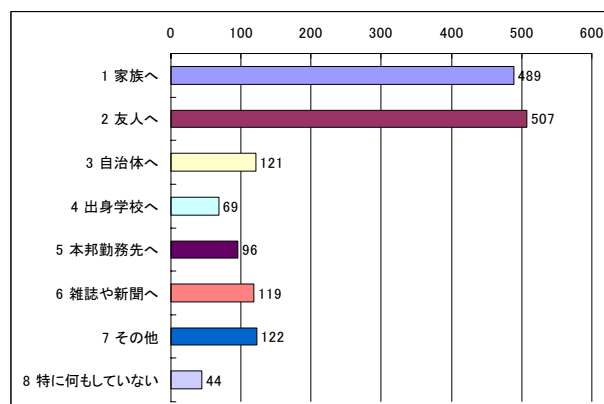
・現地・現場の温度を知り、支援している隊員と共通の意識をもつこと＜教育文化、アジア地域＞

・自分から進んで交流する方なので、必要を感じなかった＜教育文化、大洋州地域＞

・ピースコーでは、ホストファミリーと食事会などがあるが、JICA では特になく、他のホストファミリーともいろいろ話してみたかった。さらに日本のコンサートがあり、ホストファミリーを連れて行きたかったが、情報があいまいで連れて行けなかった＜教育文化、中米・南米地域＞

Q34 任期中、任国に関することやあなたの活動について、日本へ情報発信する活動を行ないましたか(複数回答可)。

1 家族へ	489	82%	79%
2 友人へ	507	85%	82%
3 自治体へ	121	20%	20%
4 出身学校へ	69	12%	11%
5 本邦勤務先へ	96	16%	16%
6 雑誌や新聞へ	119	20%	19%
7 その他	122	20%	20%
8 特に何もしていない	44	7%	7%
回答者数	597		
総数	619		



- ・ 情報発信の相手として、家族や友人が大半である。なお、その情報伝達の媒体として選ばれるのは、手紙などもあるが、それ以上に電子メールを利用したものがほとんどである。

(ア) 情報伝達の媒体

電子メール	290	47%
手紙	135	22%
電話	19	3%
各種メディア媒体の利用	62	10%
機関紙等への寄稿	70	11%
その他	42	7%
回答者数	619	100%

- ・ 媒体については、大半の回答に明記されていない。

Q35 (Q34 で 1～7 と回答した方に)具体的にどのような発信をしたのか、書いてください(記述回答;回答者数 531 人(86%))。

- ・ 実際の回答を、以下に幾つか抽出する。

【SV】

- ・ 任国の人々の生活習慣、日本に対する理解度、観光名所及び、冠婚葬祭に関して、及び政治的な背景や歴史などを伝えた<公共・公益事業、大洋州地域>
- ・ SV の活動情報や現地の文化、生活習慣等について<農林水産、中米・南米地域>
- ・ 地元新聞社からの投稿依頼があり、任国の紹介と活動状況を報告。その他、JICA 広報誌のホットアングルへの投稿やシニア海外ボランティア春の募集広告のために、業務や私生活の活動状況録画に協力<計画・行政、中米・南米地域>
- ・ 友人や本邦の勤務先(退職参加)へ、任国の状況や活動内容などを定期的に知らせた。また、同勤務先にはカウンターパートの研修(6 ヶ月)をお願いし、受けてもらった<未記入、中

米・南米地域＞

・出身自治体への状況の報告＜計画・行政、中米・南米地域＞

【JV】

・電話での近況報告、電子メールでの近況報告。「ふるさと便り」への寄稿＜農林水産、アジア地域＞

・地球サポーターに出演したので、日本の友人に活動を見てもらうことができた＜スポーツ、アジア地域＞

・ブログ。meet the globe project(インターネットを通しての、教育機関での異文化理解プログラム)＜教育文化、アジア地域＞

・日本の所属先(高校)にフィジーの文化、自分の活動、生活を紹介する。壁新聞を発行(2 ヶ月に1回)＜農林水産、大洋州地域＞

・フェアトレード団体のニュースレターに、任国での生活の様子を書いて、記事として載せてもらった＜農林水産、中央・南アフリカ地域＞

・愛媛県国際交流課に活動の様子を伝えました。あと、JICA のホームページの原稿を投稿しました＜加工、中近東・北アフリカ地域＞

・出身地の地方新聞へ計 10 回記事を書いて、任国の文化、人、もの、イベント等について情報発信しました＜農林水産、中米・南米地域＞

・自身のホームページで任国での生活の日記や写真を掲載した。また本邦勤務先へは定期的に新聞を発行し、勤務先で壁新聞のように掲示してもらった。さらに、就労児童に関する NGO の発行する本に執筆した＜保健衛生、中米・南米地域＞

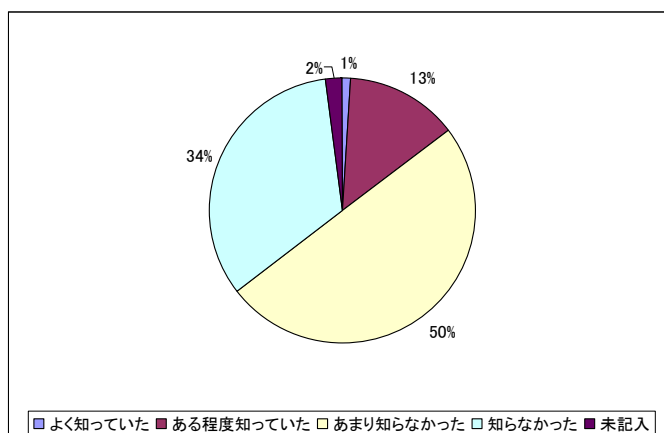
・手紙やメールや報告書で近況報告した。現地においては、月刊誌での活動紹介や地元新聞やテレビでの自己紹介を行った＜スポーツ、東欧・中央アジア地域＞

・特に情報発信雑誌(月間)へは半年、任国関連の記事を書かせていただきました。地元のラジオ番組(NHK と FM いるか)へは、不定期ですが、これも任国や自らの活動に関する情報の発信を行いました。＜教育文化、東欧・アジア地域＞

- 派遣前と現在とを比較して、あなた自身、任国に関する知識や理解は深まりましたか。

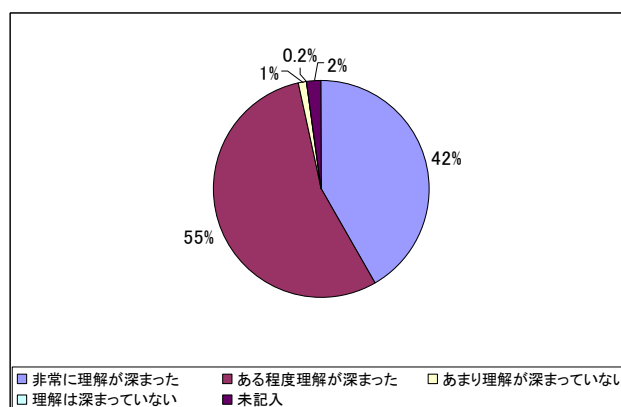
Q36 派遣前、任国について…

よく知っていた	7	1%
ある程度知っていた	84	13%
あまり知らなかった	308	50%
知らなかった	208	34%
未記入	12	2%
計	619	100%

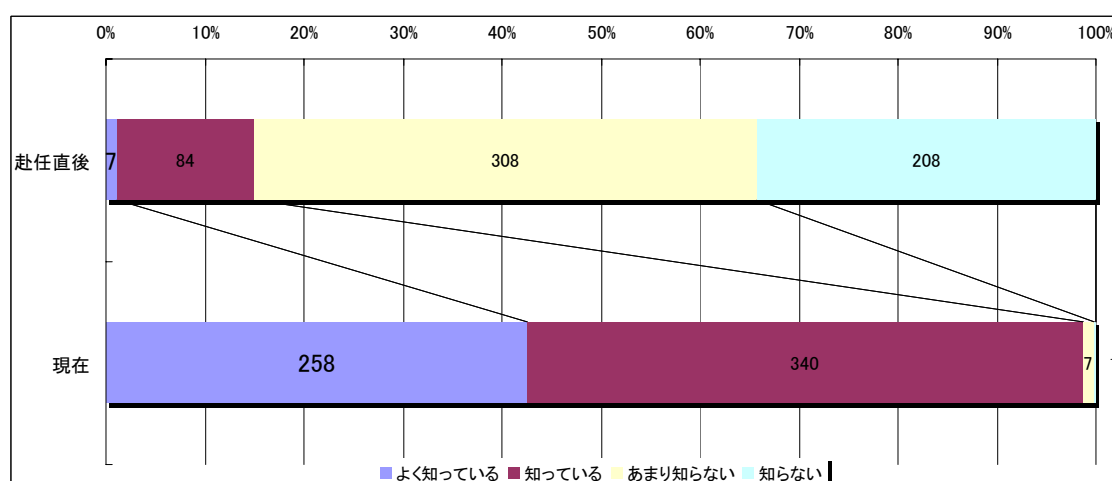


Q37 現在、任国について…

非常に理解が深まった	258	42%
ある程度理解が深まった	340	55%
あまり理解が深まっていなし	7	1%
理解は深まっていない	1	0.2%
未記入	13	2%
計	619	100%

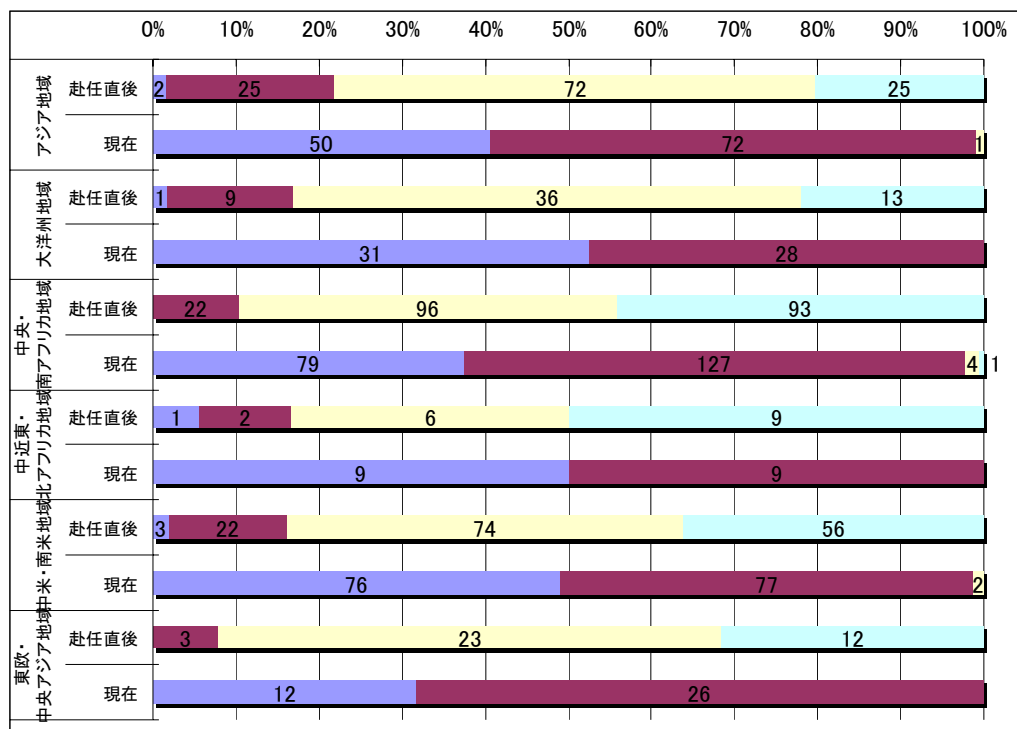


(ア) 通時変化

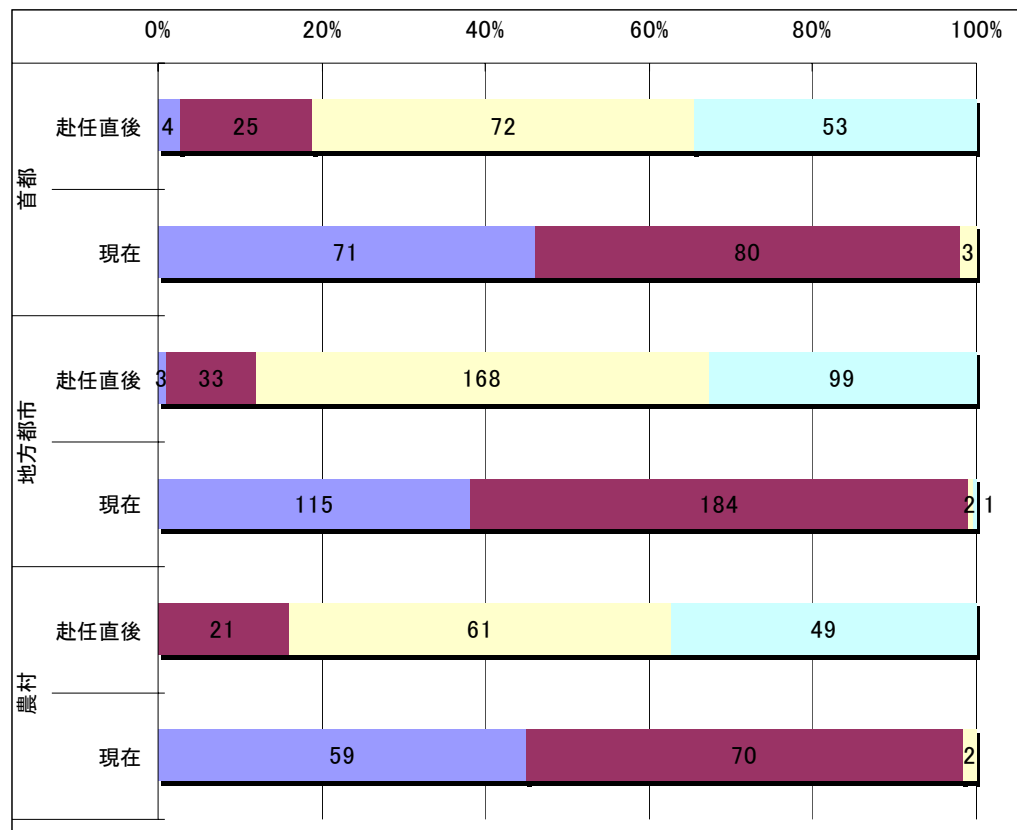


- 未記入のボランティアを除き、99%(598 人/606)のボランティアが任国への理解を深めたと回答を寄せている。

(イ) 派遣地域別通時変化

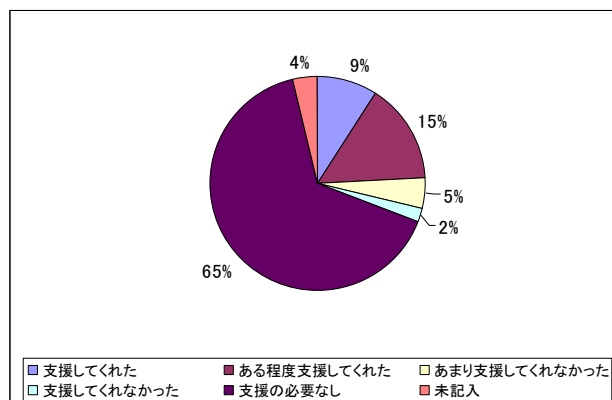


(ウ) 活動地域別通時変化



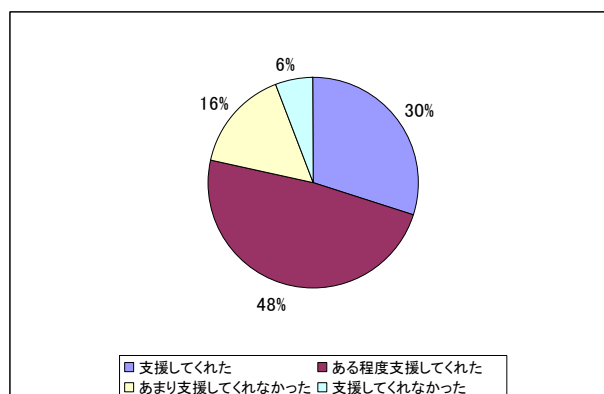
Q38 任国に関することやあなたの活動について日本へ情報発信する活動に関して、在外事務所や JICA 本部の支援体制はどうでしたか。

支援してくれた	57	9%
ある程度支援してくれた	92	15%
あまり支援してくれなかった	30	5%
支援してくれなかった	11	2%
支援の必要なし	406	65%
未記入	23	4%
計	619	100%

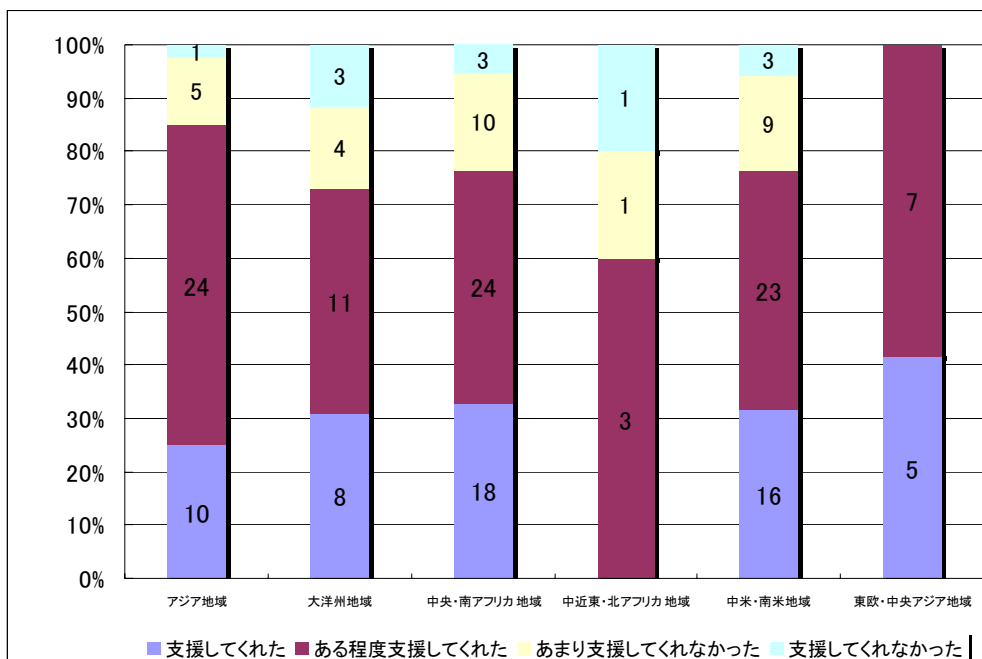


(ア) 支援の必要がある、としたボランティアのみ抽出

支援してくれた	57	30%
ある程度支援してくれた	92	48%
あまり支援してくれなかった	30	16%
支援してくれなかった	11	6%
計	190	100%

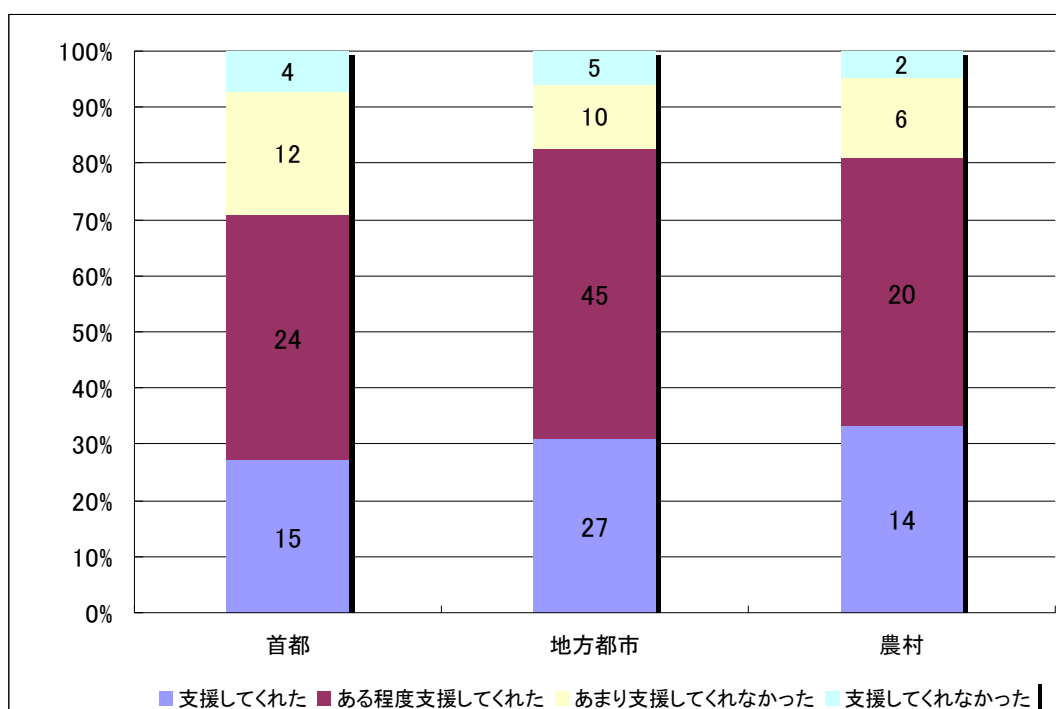


(イ) 派遣地域別抽出(支援の必要があるとしたボランティアのみ)



- Q38でも触れたように、66%のボランティアは情報発信には支援の必要は認めていないことが分かったが、支援の必要を認めるボランティアのうち、どの地域においても60%以上、平均では78%、のボランティアがJICA本部の支援に肯定的な評価をしている。

(ウ) 活動地域別抽出(支援の必要があるとしたボランティアのみ)



Q39 (Q38 で 3～4 と回答した方に) 具体的にどのような支援が有効だったか、書いてください
(記述形式; 回答者数 149 人(24%))。

- 実際の回答を、以下に幾つか抽出する。

【SV】

- ・JICA 広報部との連絡体制を援助してくれた<計画・行政、中米・南米地域>
- ・JICA の HP 等への活動内容を紹介する場や機会の情報を与えてくれた<計画・行政、大洋州地域>
- ・出身県の自治体へ不定期のレポートを提出したが、提出以前にレポートの内容確認をお願いし、適切なアドバイスを頂戴した<鉱工業、アジア地域>
- ・住居の手続き。住居費、滞在費の確認。住居の安全対策<未記入、中米・南米地域>

【JV】

- ・窃盗に遭ったとき、保険会社へレターを送ってくれた<スポーツ、アジア地域>
- ・原稿のチェックをしていただきました<加工、中近東・北アフリカ地域>
- ・派遣前訓練と現地訓練で、任国外事情などその国の文化や習慣についての講義があったのは大変役に立ちました<教育文化、アジア地域>
- ・実際に活用する機会はなかったが、日本へ情報発信する支援体制は整っていたと思う<教育文化、中央・南アフリカ地域>
- ・所属先への活動報告書配信。ただ、赴任地で提出した報告書は 3～4 ヶ月後に会社到着の状況である。タイムリーな内容提供として、もう少し早い配信が望まれる(3 号報告書段階で、一度提案したが、様々な部署をまわるので 3 ヶ月要するとの返事をいただいたが)<土木建築、大洋州地域>
- ・テレビ会議を行う際、手配してくれた<農林水産、中央・南アフリカ地域>
- ・ボランティアの使用可能なパソコンを在外事務所においてくださったので、日本と通信することを支援してくれた<保健衛生、中米・南米地域>

Q40 (Q38 で 1～2 と回答した方に) どのような支援があればよかったか、書いてください(記述形式; 回答者数 31 人(5%))。

- 実際の回答を、以下に幾つか抽出する。

【SV】

- ・原稿検閲はするものの、広報活動の重要性を訴えるものの、その活動にはまったく関心もないかに見える。別段、JICA のために行っているわけではないものの、活動啓蒙には、推進活動と結果詳細がなくては片手落ちだろう<計画・行政、中近東・北アフリカ地域>
- ・支援自体をする気があるのか疑問である<鉱工業、大洋州地域>
- ・任国の様子やボランティアの活動状況を知らせる HP を開設し、日本国内で興味を持つ人た

ちが、誰でもアクセスできるようにすれば有効な情報発信ができる。またページの更新を、ボランティア自身に任せれば、頻繁に更新され、複数の意見が反映された公正な情報源となる
 <計画・行政、大洋州地域>

【JV】

・日々の事務所で調整員としての活動(任地訪問、配属先との調整など)きちんとまじめに実施すること<教育文化、中米・南米地域>

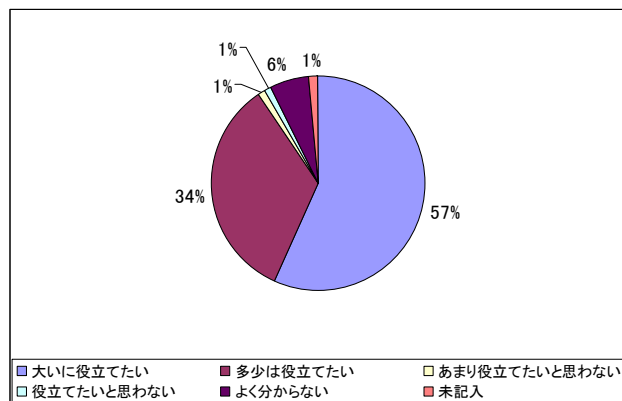
・本邦勤務先小学校では、日本での年度末3月には東京に向けて傘を発送したが、その後数ヶ月経っても何の連絡もなかった。在外事務所にどうなっているか尋ねたが、担当者も状況やプロジェクトのシステムをよく把握していないらしく、長い間ははっきりとした回答は得られなかった<教育文化、中米・南米地域>

(3) 視点Ⅲ ボランティア経験の社会への還元

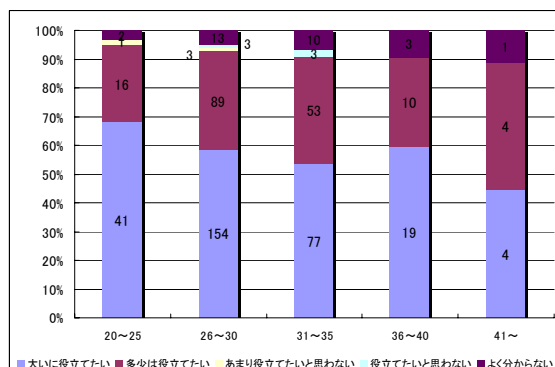
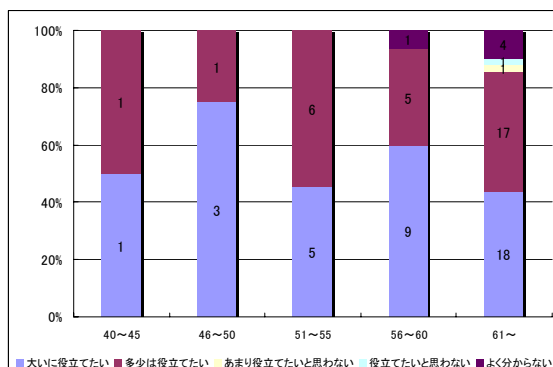
- 帰国後について伺います。

Q41 ボランティア活動で得たものを帰国後何らかの形で社会に役立てたいと思いますか。

大いに役立てたい	351	57%
多少は役立てたい	210	34%
あまり役立てたいと思わない	6	1%
役立てたいと思わない	7	1%
よく分からない	37	6%
未記入	8	1%
計	619	100%



(ア) 任期满了時年代



- ・ (左)SV の年代別、社会還元活動への意識 (右)JV の年代別、社会還元活動への

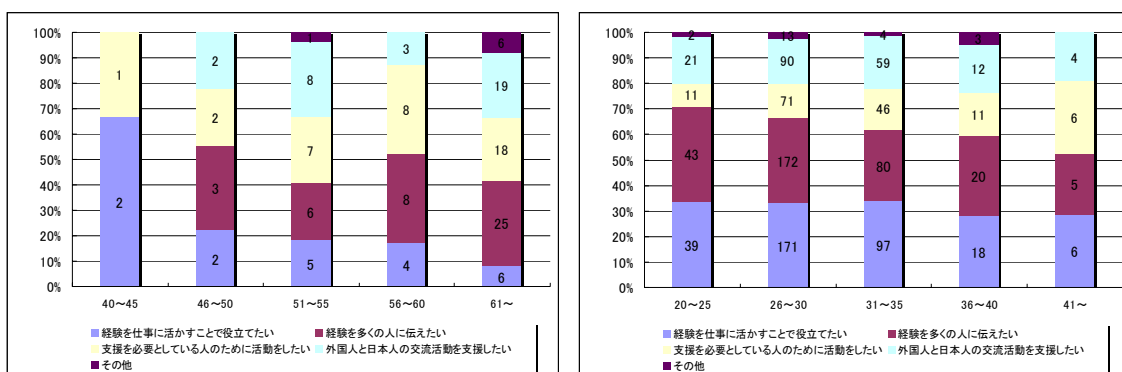
意識

- どの年代においても、90%前後のボランティアは、帰国後の社会還元活動への高い意識を持っていることが分かる。

Q42 (Q41 で 3～4 と回答した方²³)にボランティア活動で得られた経験をどのように社会に役立てたいですか(複数回答可)。

1 経験を仕事に活かすことで役立てたい	366	65%
2 経験を多くの人に伝えたい	379	68%
3 支援を必要としている人のために活動をしたい	192	34%
4 外国人と日本人の交流活動を支援したい	225	40%
5 その他	30	5%
回答者数	561	100%

(ア) 任期満了時年代



- (左)SVの年代別、帰国後の還元内容・対象について (右)JVの年代別、帰国後の還元内容・対象について
- 「5 その他」に寄せられた記述回答は以下のとおり。

【SV】

- ・市内自治体の福祉ボランティア＜鉱工業、中近東・北アフリカ地域＞
- ・後任ボランティアに役立ちたい＜未記入、中米・南米地域＞
- ・異文化理解を望む人々への情報の場＜人的資源、未記入＞

【JV】

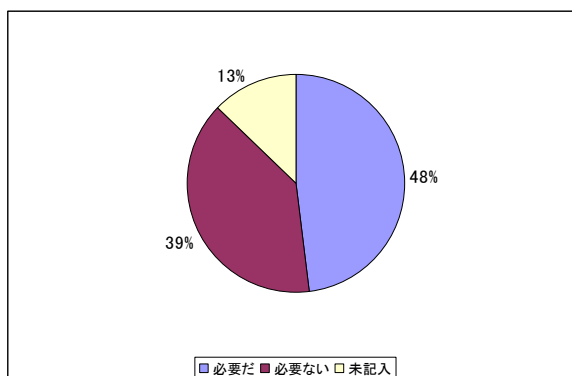
- ・異文化理解のために奮闘した経験を、あらゆる場面で応用できたらよいと考えている＜農林水産、中央・南アフリカ地域＞
- ・具体的にではなく、漠然と役立てたいと考えている…＜教育文化、大洋州地域＞
- ・いつか、フェアトレードなどの雑貨店や、カフェなどやれたらいいなあと思っている＜農林水産、中央・南アフリカ地域＞
- ・どのように役立てるか、考え中です＜保健衛生、中央・南アフリカ地域＞

²³ Q41 で 3、もしくは 4 と回答した 561 人(91%)を対象とした。

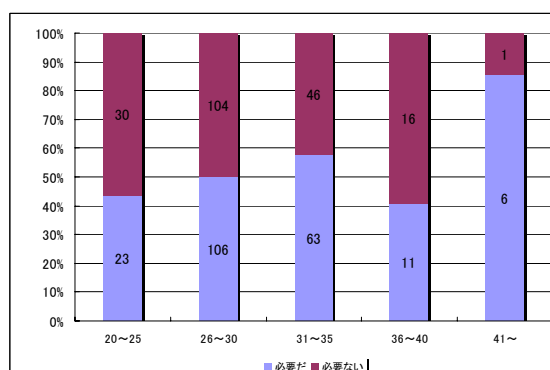
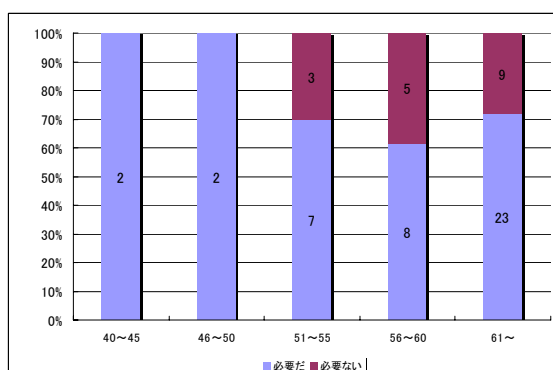
・任国へ戻り、貧困の子どもたちを支える支援を考えている。またその活動を通じた日本との交流事業も考えている＜保健衛生、アジア地域＞

Q43 (Q41 で 3～4 と回答した方に) ボランティア活動で得られた経験を役立てるために、JICA が何らかの支援を行なうことが必要だと思いますか。

必要だ	270	48%
必要ない	219	39%
未記入	72	13%
計	561	100%



(ア) 任期満了時年代



・ (左)SV の年代別、JICA による支援活動への期待 (右)JV の年代別、JICA による支援活動への期待

Q44 (Q43 で 1 と回答した方に) 具体的にどのような支援が必要か、書いてください(記述形式; 回答者数 236 人(38%))。

・ 実際の回答を、以下に幾つか抽出する。

【SV】

- ・次回、任国に派遣される人たちのために任国事情のアップデートの情報に関する支援が必要だと思う＜公共・公益事業、大洋州地域＞
- ・支援を必要とする団体や機関等があれば、その情報を提供してほしい＜農林水産、中米・南米地域＞
- ・高額な予算の割には、その活動が余り知られていなく、参加して初めて分かった。宣伝活動に力を入れてほしい。特に地方で＜鉱工業、中米・南米地域＞

・経済的支援(商品紹介、輸出先紹介)が本音なら、途上国産品の展示即売会の開催が大きいのではないかと。「専門商社」を設立支援し、少量であっても日本で販売できれば、いろんな意味(品質、法規、制度など)で相手国に「交流・支援・教育」ができると考える<商業・観光、中米・南米地域>

・一般国民に私たちの活動を知ってほしい。このような話をする機会があればぜひ呼んでもらいたい<鉱工業、中米・南米地域>

・後任ボランティアへの経験談の説明。特に、SV ではパソコンに不慣れな方が多いので、そのための対策が必要<未記入、中米・南米地域>

・日本週間のようなイベント開催における活動は、JICA として業務外として扱う旨の返答はもらっているが、展示会開催など活動内容と重なる場合も多く、今後これらの実施に向けては予算の支援も必要ではないかと考える<人的資源、中米・南米地域>

【JV】

・この経験を生かせる分野での仕事の斡旋や紹介<スポーツ、中米・南米地域>

・関連職種への就職支援(現在以上の)。経験を放送するテレビやラジオ番組を計画的に持つ<加工、アジア地域>

・任国の人で、日本にいる方々の紹介があると交流がしやすい<教育文化、中央・南アフリカ地域>

・ボランティア活動で得られた経験を伝えたい協力隊 OB/G で協力隊の経験を知りたいと思っている個人、組織を結びつける支援<教育文化、中米・南米地域>

・教員採用における JOCV 枠の拡充<教育文化、中央・南アフリカ地域>

・具体的なボランティア活動や行動がまだ決まっていないので、どのような支援と言われても分からない。JICAが今までOB/G隊員の任期終了後の活動に対して、どのような支援をしてきたかも知らないで、OB/G 隊員の任期就後のJICAとのかかわり方から情報収集する必要がある<土木建築、中米・南米地域>

・アメリカ平和部隊の OB/G は進学に際し、非常に優遇的なシステムと金銭支援があるが、JOCV の後にそのようなことは期待できない(特に海外大学院等には支援なしで非常にきつい)<農林水産、中米・南米地域>

・経験を社会に役立てる方法は様々で、ここで具体的な必要な支援を記入することは難しい。しかし、JICA 側に支援を受け入れる窓口、及びその体制があれば、ボランティア活動で得られた経験を有効的にかつ効率的に役立てることが可能になると思う<保健衛生、中米・南米地域>

・支援方法は分からないが、活動によって実用的な技術は得られなくても、その他メンタルの面や発想力が鍛えられていることを、もっと多くの日本人に理解できるようにしてほしい<保健衛生、中米・南米地域>

・帰国後に無職になる隊員は少なくないと思います。帰国前から、就職活動のできる環境が必要ではないでしょうか？<保守操作、中央・南アフリカ地域>

Q45 (Q41 で 1～2 と回答した方²⁴に)その理由を教えてください(複数回答可)。

1 どのように役立てていいのかわからないから	3	23%
2 時間がないから/忙しいから		
3 自分の経験が何らかの役に立つとは思えないから	3	23%
4 関心がないから	3	23%
5 その他	3	23%
回答者数	13	100%

以上

²⁴ Q41 で 1、もしくは 2 と回答した 13 人(2%)を対象とした。